

令和3年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証

With コロナ / 人生100年新時代における歯科衛生士養成専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証事業

成果報告書

令和4年3月

一般社団法人福岡県歯科医師会

福岡歯科衛生専門学校

巻頭言

本校は、一般社団法人福岡県歯科医師会立の歯科衛生士養成校として、昭和 44 年に開校しました。以来、地域社会に貢献する歯科衛生士を育成する専門教育をおこない、県民の歯科保健向上に携わってきました。この度、文部科学省「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の新規事業「専門学校と高等学校の有機的連携プログラム開発・実証」事業を委託され、事業推進に際しご挨拶申し上げます。

現在、超少子高齢化や人口減少、地域の格差問題や社会構造が変化する中、人々の健康は一層重要なものになっています。健康が労働の基となり地域産業を支え、健康に社会生活を営む事が経済を廻す原動力となり、ひいては社会保障にも大きく関わってきます。保健に関しては多方面から様々な取り組みがなされており、また今後は要介護高齢者等への体制強化が必要とされます。近年、全身の健康と疾病予防に「口腔の健康」が大きく影響することは様々なエビデンスで広く認識されるようになってきました。併せて歯科保健が社会全体や地域産業に大きく貢献することは周知の事となり、経済財政運営と改革の基本方針にも口腔健康管理の重要性が述べられています。

しかし、口腔健康管理を担う歯科衛生士の不足は全国において深刻な問題となっており（令和 2 年歯科衛生士求人倍率 20.7 倍：全国歯科衛生士教育協議会調べ）一刻も早い対応が求められています。本事業は地域社会の健康を担う重要な人材である歯科衛生士を養成すると同時に専門学校と高等学校が抱える課題を有機的な連携を持つ事ではじめて解決できるプログラムを開発実証してまいります。

専門学校の抱える課題とこのプログラムに求められるものとしては、入学前よりキャリアビジョンを明確にすることで高度な医療専門学習や臨地実習に積極的に取り組める者を増やし、さらには他の学生をも牽引し、卒業後は現場において指導者に成るべく人材を育成することです。一方、高等学校においてのプログラムは歯科衛生専門教育のみならず、主体性や自己管理能力、コミュニケーション能力といった非認知能力開発を取り入れることで汎用性を持たせ、キャリア選択や他の学習意欲向上にも有効な社会人基礎形成に結びつくものを開発いたします。

また、本事業は課題とされています高校生の歯科保健教育を導入いたします。平成 26 年の公益財団法人日本学校保健会「思春期の学校歯科保健推進委員会報告書」によりますと、中学生高校生のう蝕減少が見られる一方、歯肉炎を有する者の割合が多い事を問題とし、高等学校における諸課題の中で現在取り組む事が出来ない歯科保健教育の推進が提起されています。歯肉炎は歯周病進行における初期段階であり、将来の健康作りに社会人になる前の高校生における歯科保健教育は重要と位置づけられています。

本事業は福岡県内歯科衛生士養成校 6 校、福岡県内の高等学校そして、福岡県と福岡県教育委員会、福岡県歯科医師会、福岡県学校歯科医会、福岡県歯科衛生士会との連携の基に推進してまいります。これが多くの高等学校にて取り入れられ全国に広まり、人々の健康増進と歯科衛生士の社会的認知度が増し、未来が輝かしいものになる事を切に願っています。

一般社団法人福岡県歯科医師会
福岡歯科衛生専門学校

目次

1. 事業概要	1
1.1 委託事業の内容	1
1.2 事業名	1
1.3 分野	1
1.4 代表機関	1
1.5 構成機関・構成員等	2
1.6 事業の内容等	5
2. 事業の実施状況	16
2.1 実施委員会の実施状況	16
2.2 有識者と作業部会長との打合せの実施状況	16
2.3 専門部会の実施状況	17
2.4 作業部会の実施状況	18
3. 調査報告	22
3.1 高等学校での歯科保健教育プログラム事例調査	22
3.2 非認知能力育成プログラム事例調査	38
3.3 福岡歯科衛生専門学校在校生アンケート調査	90
3.4 卒業生・臨床実習指導歯科衛生士アンケート調査	135
3.5 3.3 福岡歯科衛生専門学校在校生アンケート調査と 3.4 卒業生・臨床実習指導歯科衛生士アンケート調査との比較	173
3.6 今後開発する教育プログラムへの応用について	176

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、一般社団法人福岡県歯科医師会 福岡歯科衛生専門学校 が実施した令和3年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

1. 事業概要

1. 事業概要

1.1 委託事業の内容

専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証

1.2 事業名

With コロナ/人生 100 年新時代における歯科衛生士養成専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証事業

1.3 分野

医療【歯科衛生】

1.4 代表機関

■代表機関(受託法人)等

法人名	一般社団法人福岡県歯科医師会
代表者名	大山 茂
学校名	福岡歯科衛生専門学校
所在地	福岡県福岡市中央区大名 1 丁目 12 番 43 号

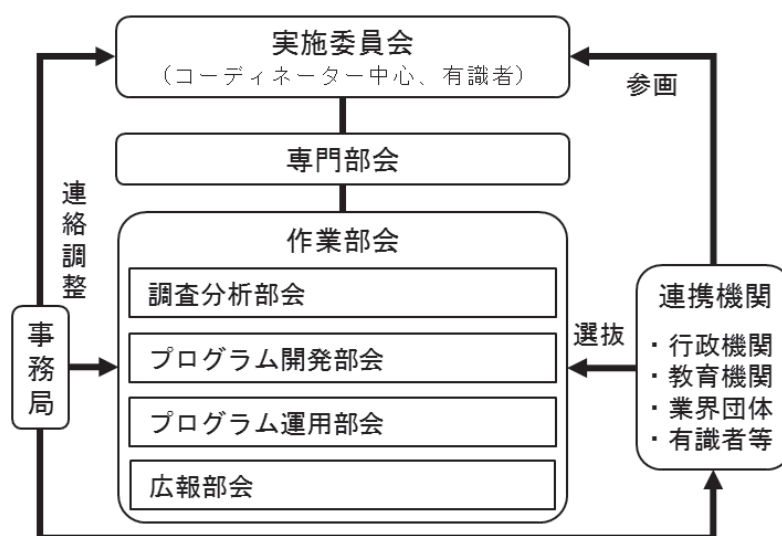
1.5 構成機関・構成員等

1.5.1 構成機関・役割等

名称		役割等
1	福岡県立福岡講倫館高等学校	事業実施校
2	福岡県教育庁教育振興部高校教育課	開発協力・助言
3	福岡県保健医療介護部健康増進課	開発協力・助言
4	公立大学法人 九州歯科大学	開発協力・助言、実証
5	学校法人福岡学園 福岡医療短期大学	開発協力・助言、実証
6	学校法人博多学園 博多メディカル専門学校	開発協力・助言、実証
7	一般社団法人久留米歯科医師会立 久留米歯科衛生専門学校	開発協力・助言、実証
8	学校法人美萩野学園 美萩野保健衛生学院	開発協力・助言、実証
9	学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校	開発協力・助言、実証
10	一般社団法人福岡県歯科医師会立 福岡歯科衛生専門学校	事業実施校
11	一般社団法人福岡県学校歯科医会	開発協力・助言、実証
12	一般社団法人福岡県歯科衛生士会	開発協力・助言、実証
13	福岡県歯科衛生士教育連絡協議会	開発協力・助言、実証
14	西日本新聞	開発協力・広報
15	RKB 毎日放送	開発協力・広報
16	一般社団法人福岡県歯科医師会	事業受託団体

1.5.2 事業の実施体制

本事業の実施体制は、「実施委員会」「専門部会」「作業部会」「事務局」により構成し、コーディネーターは実施委員会の中心的役割を担う。それぞれの役割の概略を以下に示す。



- ・実施委員会：事業の推進主体として設置する。各連携機関より参画し、有識者を含めて構成する。事業活動の方針策定、各機関の連携状況の確認、専門部会への指示を担当する。
- ・専門部会：実施委員会の下部組織として、本校が主体となる専門部会を置く。各作業部会間の連携・調整、進捗状況の確認、作業内容の評価等を実施する。
- ・作業部会：専門部会の下部組織として「調査分析」「プログラム開発」「プログラム運用」「広報」の4系統の作業部会を設置する。構成員は連携機関からの選抜を主とする。専門部会の指示のもと、実作業を担う。
- ・有識者と作業部会長との打合せ：実施委員会の中心であるコーディネーターおよびコーディネーターを支援する有識者が、専門部会の審議事項および各部会の進捗状況を確認し、実施委員会への提案事項を検討する。
- ・事務局：事業推進上発生する各種事務作業を担当する組織として、本校が事務局を担う。また、必要に応じて実施委員会・専門部会および各作業部会の指示を受けて、請負業者に対し発注を行う。

1.5.3 各機関の役割・実際に得られた協力事項について

○高等学校

【プログラム開発校：福岡講倫館高等学校】

調査分析(調査票作成、結果分析)、プログラム開発(既存プログラム、学習指導要領との整合)、効果を波及するための広報(中学生対象、生徒募集)

○行政機関

調査分析(課題の洗い出し、教育目標の設定)、プログラム開発(プログラムの検討)、効果を波及するための広報(中学生対象、高等学校との橋渡し)、各分野のニーズを踏まえた提言

○専門学校

【プログラム開発校：福岡歯科衛生専門学校】

調査分析(調査票作成、在校生アンケート実施校、結果分析)、プログラム開発(既存プログラムの提供、教育目標の接続)

【福岡県歯科衛生士教育連絡協議会各校(九州歯科大学・福岡医療短期大学を含む)】

プログラム開発(テキスト及び動画教材の開発)、プログラム運用(講座企画・運営、結果分析)、効果を波及するための広報(プログラム連携校開拓)

○企業

【業界団体】

プログラム開発(テキスト及び動画教材の開発)、プログラム運用(講座企画・運営、結果分析)、効果を波及するための広報(市民対象、プログラム連携校開拓)、業界ニーズを踏まえた提言、プログラム実施協力

1.6 事業の内容等

1.6.1 事業の趣旨・目的等について

(1) 事業の趣旨・目的

歯科衛生士は歯科医師とともに、むし歯と歯周病に代表される歯科疾患の予防や治療の担い手である。最新の研究では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染リスクにも口腔細菌が関係することが発表されており、口腔と全身の健康は密接な関係にあり、健康長寿の実現には口腔の衛生管理が極めて重要である。歯科衛生士は口腔健康管理を主体的に実施する専門職で、With コロナ/人生 100 年新時代におけるエッセンシャルワーカーである。一方、全国の歯科衛生士養成校への求人倍率は平均約 20 倍であり、同じ医療職である看護師の求人倍率約 2.3 倍と比べて非常に高い。「経済財政運営と改革の基本方針 2021」には人材確保の必要性が指摘されている。このように、歯科衛生士は慢性的に不足した状況であるが、全国の養成校の約 60%は入学定員を満たしておらず、この状況が続いているのは、歯科衛生士の社会的認知度が低く、業務内容を正確に認知されていないためと推察される。

本事業では、歯科衛生士の業務内容やその魅力を、高等学校、行政、業界団体と連携して広く社会に普及させ、高校生の歯・口の健康づくりとキャリア意識の向上をテーマにプログラムの開発と実証を行い、地域口腔保健の中核を担う人材を育成することを目的とする。

(2) 学習ターゲット、目指すべき人材像

高校生を対象に歯科保健学習を行い、歯科に対する興味・関心を持たせる。同学習を端緒に、歯科衛生士養成校への進学志望者を増加させ、進学後は非認知能力の育成を通じて就職後の早期離職者を減少し、地域口腔保健において活躍する歯科衛生士を増やす。

1.6.2 当該教育プログラムが必要な背景について

【歯科衛生士不足の要因と現状】

歯科衛生士は全身の健康へとつながる口腔健康管理の担い手であり、健康認識の高まりから近年その需要も増している。しかしながら、現在、その不足が大きな問題となっており、令和元年度全国の歯科衛生士養成校への求人倍率は 20.7 倍と非常に高く(図 1)、同年度の平均有効求人倍率 1.6 倍を大きく上回っている¹⁾。超高齢社会の進展に伴い、今後更に在宅介護現場での需要が急速に高まることが予想され、問題解決に向けて様々な取り組みと対応が必要である。

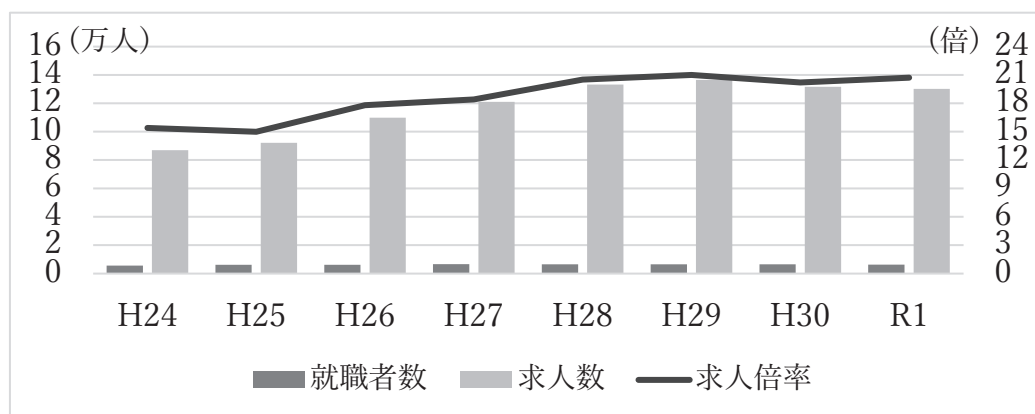


図1 就職者数、求人数、求人倍率の推移

需要が非常に高いにも関わらず、令和2年度全国の歯科衛生士養成校の61.3%は定員を満たしておらず同年度の平均入学定員充足率は85.9%に過ぎない(図2)¹⁾。このギャップを解消するには、高校生に歯科衛生士の仕事の魅力を伝えることおよび社会における歯科衛生士の認知度向上が必要である。

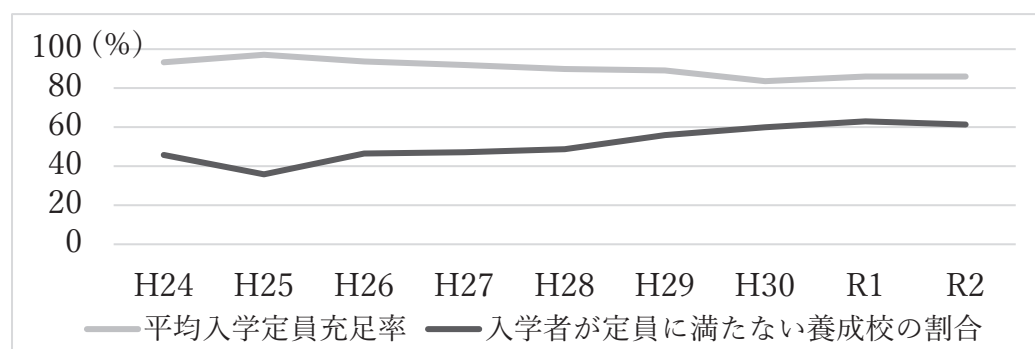


図2 歯科衛生士養成所の平均入学定員充足率と定員に満たない養成校の割合

【歯科衛生士の魅力】

令和2年歯科衛生士の勤務実態調査報告書によれば、歯科衛生士の仕事の魅力について「はい」と回答した者を全体でみると、「国家資格である」が96.1%、「専門性の高い仕事である」が93.6%、「人や社会に貢献できる」が91.6%、「人の命や健康を守る仕事である」が91.4%、「人に直接関われる・手助けできる」が88.2%、「転職・就職に困らない」が76.2%である(図3)。つまり、歯科衛生士は生涯を通じて活躍できる国家資格であり国民の健康に直接寄与できる専門職であることを魅力として認識している者が多く、この点を高校生などに広く伝えていくことが有効と考えられる。

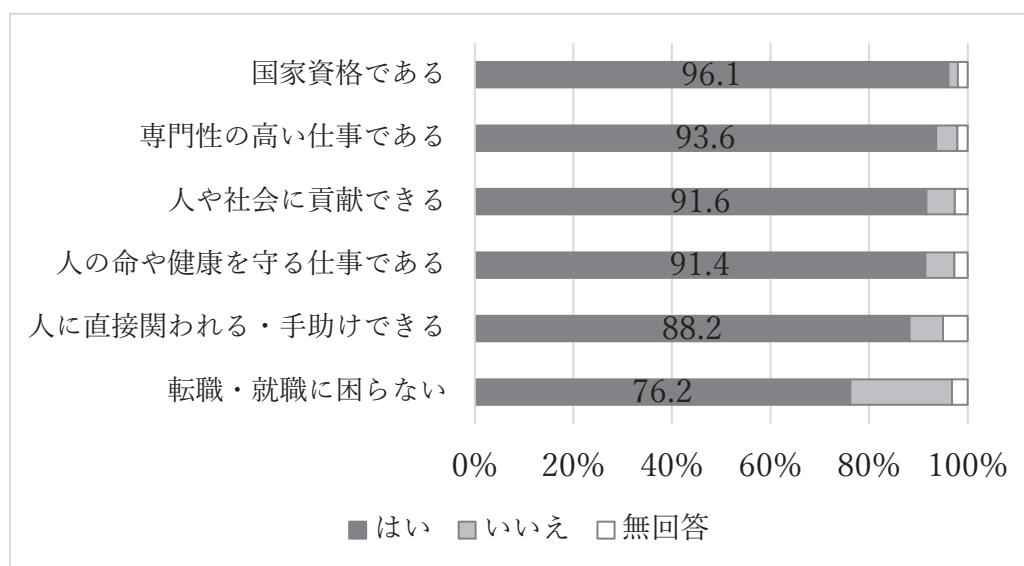


図3 歯科衛生士の仕事の魅力

【歯科衛生士の地域産業中核的人材としての意義】

新卒就職者のうち養成校所在の都道府県内に就職した者の割合は令和元年度の全国平均で 80.0%である¹⁾。若者の流出が深刻な問題となっている中、地方で育ち地方に就職する彼らは歯科医療分野にとどまらず超高齢社会を支え地域再生を担う人材である。専門学校の社会的な役割に、人々の身近な暮らしを支える職業人および地方社会の担い手の育成がある。歯科衛生士は地域を支えるエッセンシャルワーカーであり職業としても地域口腔保健の中核的人材としての意義を備えている。

【専門学校における非認知能力の育成】

従来型的能力(学力)が「認知能力」と整理されるのに対し、新しい能力は「非認知能力」と呼ばれている(図 4)²⁾。歯科衛生士養成校では歯科衛生士に必要な専門的な知識・技能の習得はもとより、自己管理能力や主体性、コミュニケーション力などの社会人として実践的に求められる非認知能力の育成も行っている。非認知能力は汎用性が高くキャリアチェンジにも効果的である。習得が要求される非認知能力は成長段階に応じて高次に発達し、将来的人材像として求められる能力につながる。非認知能力の中でも自己肯定感はその他の能力発揮の原動力として位置づけられ(図 5)³⁾、高等学校終了までに習得できるものとされている。しかし、専門学校新入生の課題として自己肯定感の礎となる自己効力感の欠如があげられている。勉強で自信が持てなかった生徒が専門学校に入学するケースが多く、自己効力感を持ちにくい。したがって、非認知能力の育成には、専門学校入学以降も自己肯定感を高める取り組みが必要と考えられる。

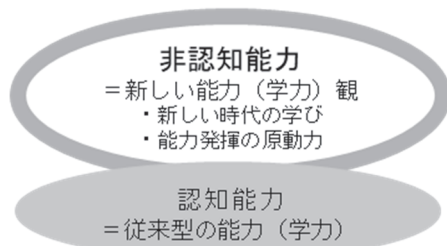


図4 新しい能力

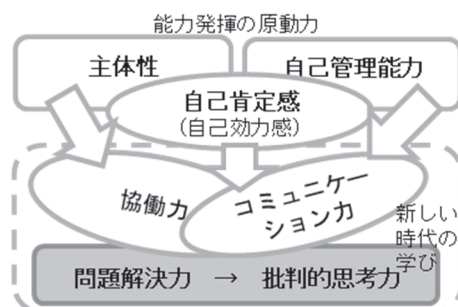


図5 コミュニケーション力の視点から考察した非認知能力の要素同士の関連性（一部省略）

【高専接続による効果的なキャリア教育の可能性】

高等学校学習指導要領において、ホームルーム活動に一人ひとりのキャリア形成と自己実現が含まれている。キャリア教育は、本来、自らのキャリア形成のために必要な様々な汎用的能力を育てていくものであり、学校の教育活動全体を通して行うものである。高等学校におけるキャリア教育を専門学校や関連企業・団体が連携して実施することによって、社会人に求められる汎用的非認知能力を高校生が具体的に理解することにつながり、主体的な進路の選択と将来設計に寄与できる。

【高校生の歯・口の健康づくりの必要性】

高校生になると、歯列不正や不正咬合による口元の外観や顎関節症、口臭に興味・関心を持つ生徒が多くなり、同様に歯磨き時の出血にも関心を示す⁴⁾。しかし、平成28年歯科疾患実態調査によれば、15～19歳で歯肉炎の症状の「歯肉出血がみられる者」が30.6%を占めていた。歯肉炎は歯周病の前段階であり、口腔衛生の向上により歯肉炎を管理するとともに、生活習慣病をはじめ様々な全身疾患と関連する歯周病を予防することが、生涯にわたる全身の健康づくりに必要なことを理解させることが重要である。学校の歯科保健活動を通じて健康意識の向上や人間性の陶冶に優れた効果があることが指摘されており⁵⁾、歯・口の健康と自律的健康観を同時に育むための教育プログラムが必要である。

【本事業の実施意義】

前述のように、歯科衛生士の需要は高く、地域における口腔保健を支える重要な職業である。福岡県歯科医師会は、県内の他の歯科衛生士養成校と協力して、歯科衛生士の認知度向上を目的に、高等学校の進路指導教員に対して啓発活動を行ってきた。しかし、長年の取組みにも関わらず高校生の認知度は従前と変わらず低い状態である。本事業では、高等学校と専門学校が連携して共通の目標を設定し、それぞれのプログラムを実施することによって、歯科衛生士の職業を理解し目的意識を持った専門学校への進学と、明確なキャリア意識の形成を図ることによる地域の中核的役割を果たす専門人材の養成を行う。

事業実施校である福岡講倫館高等学校は従来、充実したキャリア教育を行っており、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばし、進学や就職などさまざまな進路実現をサポートしている。本事業により専門学校や企業・団体が連携してキャリア教育を行うことで非認知能力の育成をさらに進めることができる。

本事業では各連携機関の協力のもと、高等学校と専門学校との有機的連携をはかり、地域口腔保健の中核的人材である歯科衛生士を志す生徒を増やすことを目的とし、高校生の歯・口の健康づくりとキャリア意識の向上をテーマとしたプログラムの開発・実証を行うものとする。

参考文献)

- 1) 全国歯科衛生士教育協議会.令和2年調査報告
- 2) 日本生涯学習総合研究所.「非認知能力」の概念に関する考察、2019年9月2日一部改訂
- 3) 日本生涯学習総合研究所.「非認知能力」の概念に関する考察Ⅱ非認知能力」の要素における関連性の観点から<改訂版>、2020年11月
- 4) 文部科学省. 学校歯科保健参考資料『『生きる力』をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり』
- 5) 日本学校保健会.実践!!思春期の歯・口の健康づくり～実践事例集～、2019年

1.6.3 開発する教育プログラムの概要

(1) 名称

With コロナ/人生100年新時代における歯科衛生士養成専門学校と高等学校の有機的連携プログラム

(2) 内容

本事業は3つのプログラムで構成され、高等学校入学時から歯科衛生士養成校卒業までの6年間に亘り展開される。各プログラムの関係は下図の通りである。



まず、「①高等学校における歯科保健教育プログラム」を1年生全員に行う。これにより生徒の歯や口腔の健康づくりに寄与するだけでなく、歯科衛生士に関する関心を高める。①をきっかけとして2、3年生時に選択を希望した生徒に対して「②-1.高等学校におけるキャリア教育プログラム」を実施する。専門学校においては各学年全員を対象に「②-2.専門学校における非認知能力育成プログラム」を通じて中途退学者お

よび就職後1年以内の退職者を減らし、最終的に地域で活躍する歯科衛生士を増やすことを目指す。

3つのプログラムはいずれも既存の教育プログラムが見当たらないため、新規に開発・実証を行う。

「①高等学校における歯科保健教育プログラム」

令和3年度は①の開発に着手し、メインとなる教育用動画の撮影を途中段階まで実施したところである。

目標：・高校生に必要な全身の健康と生活習慣との関係の理解
・歯・口の健康づくりの推進、歯科衛生士の認知度の上昇

対象：1年生時に全生徒を対象とした授業を行う。

方法：授業はオンライン形式とし、授業内では歯科衛生士または歯科医師による質疑応答も行う。主な部分は本事業にて作成する教育用動画を用いてプログラム実施校が増えた後の統一性を担保する。

内容：授業は歯周病予防を目的とする歯科保健教育の先行事例を参考にし、全身の健康へと続くお口の健康についての歯科保健教育を2回に分けて行う。この中で歯科衛生士の役割と社会貢献を紹介し、認知度をあげる。

「②-1. 高等学校におけるキャリア教育」

令和3年度は②-1について、学校設定科目として新規に申請することが決まり、授業構成の概要を検討した段階である。

目標：・明確なキャリアビジョンを持ち、目的意識をもって高等学校での課題や他の活動に取り組む生徒の増加
・主体的な進路の選択と将来設計に寄与する

対象：2年生、3年生のうち本プログラムを選択した生徒

内容：医療人に共通して要求されるコミュニケーションスキルや医療接遇の授業を実施する。それと同時に歯科衛生士養成教育の基礎となる歯・口腔の構造と機能、疾患と治療、歯科衛生学総論につながる先取り授業を行う。

位置づけ：プログラム修了者には認定証を発行する(名称は検討中)。

「②-2. 専門学校における非認知能力育成プログラム」

令和3年度は②-2について、ベースとなる事前調査を実施し、プログラムへの応用事項を検討した段階である。事前調査結果は、実施した調査部分に記載する。

目標：・充実したキャリア教育により中退者を減らす。

・非認知能力を向上させ新卒就職者の1年以内の離職者を減らす。

対象：専門学校 の 学生

方法：ホームルーム(全学年)やグループワーク(1年次)、臨床実習オリエンテーション(2、3年次)などの時間を利用して行う。

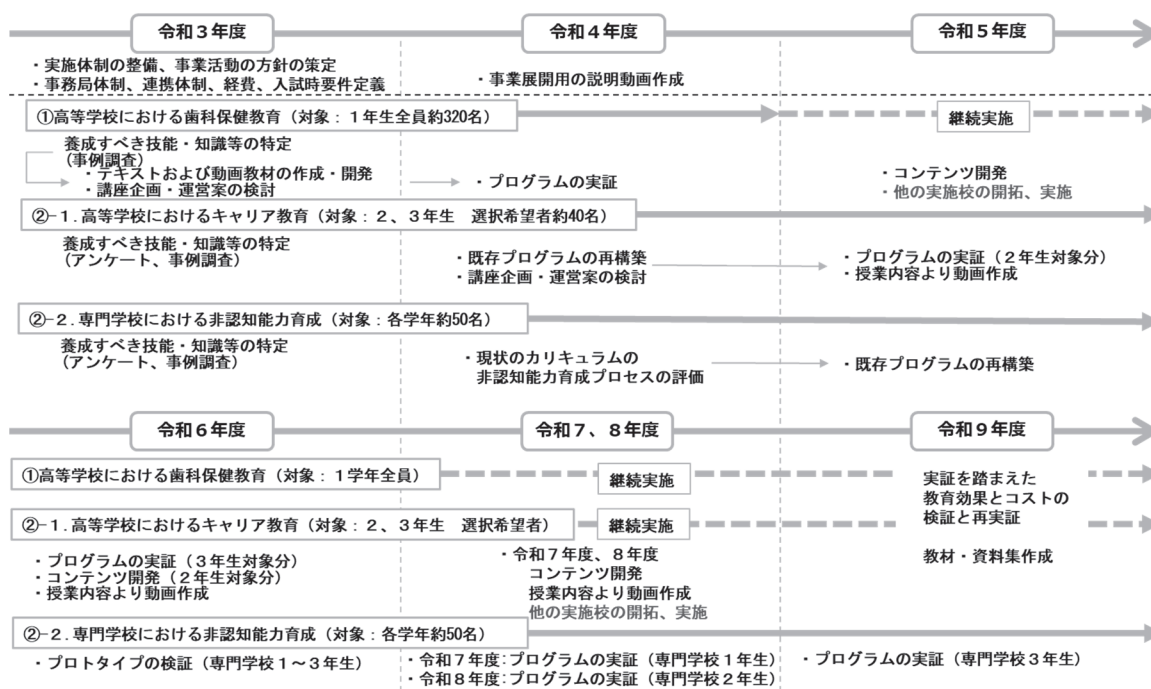
内容：事前調査結果をもとに育成が必要な非認知能力を特定する。既存のプログラムを改訂するとともに、自己評価について以下のフィードバックを実施する(1. 自身の目標、2. 目標に対する進捗、3. 課題、問題の見直しと次のステップ)。年毎に意識と行動の変化に関する評価を行う。

高等学校にてプログラムを受講した歯科衛生士を目指す意識が高い者が入学することでクラスや学年に良い影響を与え、学校としてより優秀な人材の輩出につながる。

1.6.4 具体的な取り組み

(1) 計画の全体像

本事業の計画は次図の通りである。令和3年度から令和9年度にかけて高・専連携による調査研究・開発・実証・広報を行う。



(2) 今年度の具体的活動

○実施事項

令和３年度は以下の取組みを行った。会議、調査の詳細については後述する。

ア. 実施体制の整備

コーディネーターを中心に実施体制を整備した。事務局体制、連携体制、必要経費の要件を定義した。

イ. 会議の開催

実施委員会(年２回)、有識者との会議(年２回)、専門部会(年５回)、各作業部会(年４～６回、部会により異なる)

ウ. 調査の実施

プログラム開発の検討資料として、アンケート調査および事例調査を行った。

エ. プログラムの開発

「①高等学校における歯科保健教育」プログラム

動画教材の作成、講座企画・運営案の検討

a:動画教材開発

先進事例調査結果を参考に、動画教材を開発中である。各教材は事業成果普及段階において福岡県下の高等学校での使用に耐えるものとする。

「②高等学校におけるキャリア教育」プログラム

実施科目の検討、学校設定科目としての検討

(3) 開発する教育プログラムの検証

本事業は３つのプログラムで構成し、いずれもプロトタイプ検証後に実証を行う。実証後も継続してプログラムを実施し、アウトカム評価およびアウトプット評価をもとに改良を続ける。また、前向きコホート研究の手法に準じて令和４年度の高校入学者を令和９年度の専門学校卒業時点まで追跡することで６年間の高・専連携プログラムの効果を検証する。よって、検証は次の３段階で行う。また、全ての検証は、作業部会の提案・報告をもとに専門部会で検討し、実施委員会が全国値や他の調査研究報告結果などと比較の上、総合的に評価する。

ア. 各プログラムの開発・実証

プログラム	検証および実証の方法
①高等学校における歯	実施前後に行う高等学校１年生向けのアンケート(歯

科保健教育プログラム	科保健行動・歯科衛生士の理解等)、口腔内診査、②-1のプログラム選択者数
②-1.高等学校におけるキャリア教育プログラム(2、3年生分)	受講者アンケート(キャリア意識、目的意識等)、受講者の受講成績、歯科衛生士養成校の志望者数・入学定員充足率
②-2.専門学校における非認知能力育成プログラム(1、2、3年生分)	受講者アンケート(キャリア意識、目的意識等)、受講者の受講成績・自己評価結果(非認知能力を含む)、中退者数、就職後1年以内の離職者数

イ. アで実証を行ったプログラムの継続実施に伴うアウトカム・プロセスの評価と改良

先に行った実証により各プログラムの効果は確認されていることから、ここで行う評価は事業の継続実施に係るものとする。

アウトカム評価：アと同様、ただし調査項目は必要に応じて選択する

アウトプット評価：プログラムの実施状況や参加者数、実施校数

ウ. 令和4年度高等学校入学者が令和9年度に専門学校を卒業するまでの総合評価
本事業の中間目標および最終目標を評価する。

・中間目標

実施した高等学校：「生徒の歯肉炎有病者率 15%未満」「適切な歯科保健行動
実施生徒の増加」「歯科衛生士の認知度の上昇」「キャリア意識の向上」

実施した専門学校：「非認知能力の向上」「定員充足率 100%」「中退者 0 人」
「就職後1年以内の離職者 0 人」

・最終目標

「福岡県内の就業歯科衛生士不足数 1,500 人以下」

受託機関以外での導入可能性として令和4年度より、学校法人博多学園 博多高等学校との連携が決まっている。

(4) 事業実施に伴うアウトプット(成果物)

本事業におけるアウトプット(成果物)は以下の通りとする。

ア. プログラム

① 高等学校における歯科保健教育プログラム：令和4年度実証

②-1. 高等学校におけるキャリア教育プログラム：令和5、6年度実証

②-2. 専門学校における非認知能力育成プログラム：令和7、8、9年度実証

いずれもシラバス、教材(テキスト、パワーポイント、動画等)を含む。

イ. 事業報告書(年度ごと)

令和 3 年度：事業実施内容、アンケート調査・事例調査結果

令和 4 年度：事業実施内容、プログラム①の実証内容と結果(シラバス、動画、テキスト、指導計画を含む)、プログラム②-1 プロトタイプ検証結果

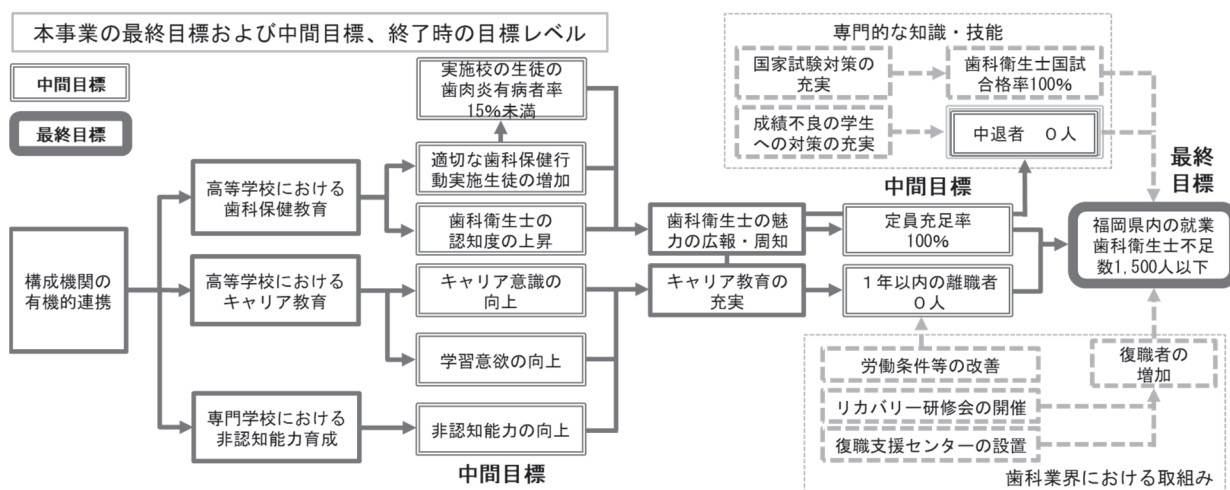
令和 5 年度：事業実施内容、プログラム①の教材・資料集および広報活動、プログラム②-1 実証内容(2 年生分)と結果(シラバス、教材、指導計画を含む)

令和 6 年度：事業実施内容、プログラム①の広報活動・他の実施校の開拓状況、プログラム②-1 実証内容(3 年生分)と結果(シラバス、教材、指導計画を含む)

令和 7 年度：事業実施内容、プログラム②-1 の教材・資料集および広報活動、プログラム②-2 実証内容(専門学校 1 年生分)と結果(シラバス、教材、指導計画を含む)

令和 8 年度：事業実施内容、プログラム①および②-1 の広報・他の実施校の開拓状況、プログラム②-2 実証内容(専門学校 2 年生分)と結果(シラバス、教材、指導計画を含む)

令和 9 年度：事業実施内容、プログラム②-2 実証内容(専門学校 3 年生分)と結果(シラバス、教材、指導計画を含む)、事業を通じた教育効果とコストの検証結果



KPI は次年度に向けて、再検討中

(5) 本事業終了後※の成果の活用方針・手法

ア. 開発プログラムの活用方針と成果周知(広報・普及活動)

本事業は3つのプログラムで構成され、高等学校入学時から歯科衛生士養成校卒業までの6年間に亘り展開される。各プログラムの実証後は個別に利用することを想定し、下記の3通りを検討している。いずれも、導入・活用方法は事業報告書に盛り込む。また、遠隔授業でも活用できるWebコンテンツや動画を開発・製作し、継続して利用できるシステムを整える。広報は、福岡県内はもとより広く実施する。

(ア) 3つの教育プログラムの個別利用

① 高等学校での歯科保健教育プログラム

②-1. 高等学校におけるキャリア教育プログラム

広報：福岡県学校歯科医会、福岡県教育庁との連携を中心に県下の高等学校に周知するとともに利用を促す

②-2. 専門学校における非認知能力育成プログラム

広報：福岡県歯科衛生士教育連絡協議会加盟校における利用、全国歯科衛生士教育協議会を通じて全国の養成校に周知

(イ) 高等学校部分のプログラムとして利用(上記①と②-1の両方を実施)

利用目的：① 口腔内状態が良好な高校生の増加・歯科衛生士の認知度の上昇

②-1. キャリア意識の向上と専門学校におけるモチベーションの維持

※広報は(ア)の該当部分と同様

(ウ) 歯科衛生士養成校における高専接続プログラムとしての利用

利用目的：②-2. 非認知能力育成による中退者および新卒就職者の1年以内の離職者の減少

※広報は(ア)の該当部分と同様

イ. 他の分野での応用

プログラムの個別利用は、歯科衛生士養成分野以外での応用も可能である。

①は歯科技工士養成科や歯学部歯学科と高等学校との連携においても応用可能と考えられる。また、高等学校における歯科保健教育プログラムとして学校歯科医が中心となって利用することもできる。

②-1は高等学校でのキャリア教育において、コミュニケーションスキルや医療接遇、インターンシップ部分の応用が可能である。

②-2は専門学校でのキャリア教育において、実践的な非認知能力育成プログラムとしての利用が可能である。

2. 事業の実施状況

2. 事業の実施状況

2.1 実施委員会の実施状況

本事業で実施した実施委員会の状況を以下に報告する。実施委員会に於いては、事業活動の方針策定、各機関の連携状況の確認、専門部会への指示を担当した。

(1) 第1回実施委員会：令和3年10月7日

会場 福岡県歯科医師会館 5階 中ホール

議題 ・令和3年度事業実施計画について
・開催日程について

(2) 第2回実施委員会：令和4年2月17日

会場 WEB 会議

議題 ・調査報告について
・教育用動画について
・広報用ポスターについて
・令和3年度事業実績報告について
・令和4年度に実施する歯科健診について
・その他

2.2 有識者と作業部会長との打合せの実施状況

有識者と作業部会長との打合せでは、事業活動の方針策定、各機関の連携状況および依頼事項の確認を行った。

(1) 第1回有識者と作業部会長の打合せ：令和3年12月2日

会場 福岡歯科衛生専門学校 2階 教務委員室

議題 ・文部科学省における分野横断連絡調整会議の設置に伴うヒアリング会議及び合同会議への委員推薦について
・福岡講倫館高等学校における令和4年度及び令和5年度の時間割編成(案)について
・教育用動画作成について
・プログラム開発部会とプログラム運用部会合同会議について
・12月9日開催の作業部会(調査分析部会・広報部会)の日程(案)について
・今後の他高等学校との連携について

(2) 第2回有識者と作業部会長の打合せ：令和4年1月20日

会場 福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室

議題 ・教育用動画作成について

- ・令和4年度に実施する福岡講倫館高等学校での歯科健診について
- ・第2回プログラム開発部会及びプログラム開発部会合同会議について
- ・今後の他高等学校との連携について
- ・その他

2.3 専門部会の実施状況

実施委員会に加え、専門部会と作業部会を設置し、本事業で計画した取り組みを推進した。専門部会では、事業内容(調査・カリキュラム・教材)を検討し、各作業部会への指示、進捗状況の確認、作業内容の評価等を実施した。また、各作業部会間の連携・調整、進捗状況の確認、作業内容の評価等を実施した。

(1) 第1回専門部会：令和3年10月20日

会場 福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室

議題 ・実施委員会及び各作業部会の今後の日程について

(2) 第2回専門部会：令和3年11月11日

会場 福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室及びWeb会議

議題 ・令和3年度専修学校委託事業成果PR動画の作成について

- ・プログラム開発部会とプログラム運用部会合同会議について
- ・作業部会(調査分析部会・広報部会)の日程(案)について

(3) 第3回専門部会：令和3年12月9日

会場 福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室

議題 ・文部科学省における分野横断連絡調整会議の設置に伴うヒアリング会議及び合同会議への委員推薦について

- ・福岡講倫館高等学校における令和4年度及び令和5年度の時間割編成(案)について
- ・教育用動画作成について
- ・今後の他高等学校との連携について

(4) 第4回専門部会：令和4年1月27日

会場 福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室

議題 ・教育用動画作成について

- ・令和4年度に実施する福岡講倫館高等学校での歯科健診について
- ・今後の他高等学校との連携について

(5) 第5回専門部会：令和4年2月17日

会場 福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室

議題 ・教育用動画作成について

- ・令和4年度に実施する歯科健診について
- ・今後の他高等学校との連携について
- ・その他

2.4 作業部会の実施状況

○調査分析部会

調査分析部会では、事前調査(調査項目、調査票作成、結果の集計及び分析)を行った。

(1) 第1回調査分析部会：令和3年10月7日

会場 福岡県歯科医師会館 4階 第2会議室

議題 ・令和3年度事業実施計画について

- ①アンケート調査
- ②事例調査
- ・開催日程について
- ・その他

(2) 第2回調査分析部会：令和3年11月30日

会場 Web開催(Zoom)

議題 ・アンケート調査項目について

- ①福岡歯科衛生専門学校在校生対象調査
- ②卒業生・指導歯科衛生士対象調査
- ・事例調査について
- ・その他

(3) 第3回調査分析部会：令和3年12月9日

会場 福岡県歯科医師会館 4階 第2会議室

議題 ・アンケート調査票について

- ①福岡歯科衛生専門学校在校生対象調査
- ②卒業生・指導歯科衛生士対象調査

(4) 第4回調査分析部会：令和4年1月11日

会場 Web開催

- 議題
- ・アンケート集計結果の考察について
 - ①福岡歯科衛生専門学校在校生対象調査
 - ②卒業生・指導歯科衛生士対象調査
 - ・事例調査の進捗(追加・修正)について
 - ・その他

(5) 第5回調査分析部会：令和4年1月27日

会場 福岡県歯科医師会館 4階 第2会議室

- 議題
- ・報告書案について
 - ・次年度の方向性について
 - ・その他

(6) 第6回調査分析部会：令和4年2月17日

会場 福岡県歯科医師会館 4階 第2会議室

- 議題
- ・報告書(まとめ)について
 - ・次年度の方向性について
 - ・Edv Future 株式会社との協力について

○プログラム開発部会

プログラム開発部会では、科目内で使用する教材(動画)を検討した。

(1) 第1回プログラム開発部会：令和3年10月7日

場所 福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室

- 議題
- ・令和3年度およびそれ以降の事業実施計画について
 - ・開催日程について

(2) 第1回プログラム開発部会及びプログラム運用部会合同会議：令和3年12月9日

場所 福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室

- 議題
- ・令和4年度及び令和5年度における福岡講倫館高等学校での時間割編成について

- ・教育用動画作成について
- ・その他

(3) 第2回プログラム開発部会及びプログラム運用部会合同会議：令和3年1月27日

場所 福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室

議題 ・教育用動画作成について

- ・令和4年度に実施する福岡講倫館高等学校での歯科健診について

(4) 第3回プログラム開発部会・プログラム運用部会・広報部会合同会議：令和4年2月17日

場所 福岡県歯科医師会館 4階 第4会議室

議題 ・教育用動画作成について

- ・令和4年度に実施する歯科検診について
- ・ホームページについて
- ・その他

○プログラム運用部会

プログラム運用部会では、実証講座の計画立案、準備を行った。

(1) 第1回プログラム運用部会：令和3年10月7日

場所 福岡県歯科医師会館 4階 第3会議室

議題 ・令和3年度事業実施計画について

①1年次のプログラム運用について

②2、3年次のプログラム運用について

インターンシップについて

- ・開催日程について

※2、3回目はプログラム開発部会との合同会議

4回目はプログラム開発部会・広報部会との合同会議

○広報部会

広報部会では、ホームページ、広報用ポスター案について検討した。

(1) 第1回広報部会：令和3年10月7日

場所 福岡県歯科医師会館 4階 編集室

議題 ・ポスター及びチラシのイメージ(デザイン)について
・開催日程について

(2) 第2回広報部会：令和3年12月9日

場所 福岡県歯科医師会館 4階 編集室

議題 ・令和3年度専修学校委託事業成果PR動画の作成について
・ポスターの作製について
・ホームページについて
・開催日程について

(3) 第3回広報部会：令和4年1月27日

場所 福岡県歯科医師会館 4階 編集室

議題 ・令和3年度専修学校委託事業成果PR動画の作成について
・ポスターの作製について
・ホームページについて
・バナーについて
・開催日程について

※4回目はプログラム開発部会・プログラム運用部会との合同会議

3. 調查報告

3. 調査報告

今年度はまず、「事例調査」と「実態調査」を実施した。また、「実態調査」では、「福岡歯科衛生専門学校在校生アンケート調査」と「卒業生・臨床実習指導歯科衛生士アンケート調査」の2系統の調査を実施した。

本章ではこれらの調査結果について報告を行う。

3.1 高等学校での歯科保健教育プログラム事例調査

3.1.1 調査概要

(1) 調査目的

高等学校での歯科保健教育プログラムの先行事例を整理し、本事業におけるプログラム開発の基礎資料とする。

(2) 調査対象領域

高等学校での歯科保健教育研究事例

(3) 事例一覧

以下に収集した事例の一覧を掲載する。

1. 高等学校で行われているもの

事例 01 石川県教育委員会 高等学校第1学年 健康の保持増進と疾病の予防
～歯肉炎～(保健体育科科目保健)

事例 02 同 高等学校第1学年 食事に関するからだのしくみ(福祉科)

事例 03 同 高等学校第2学年 かむことと健康(家庭科)

事例 04 同 高等学校第2学年 かむことと健康～幼児のおやつ～(家庭科)

事例 05 仙台市 歯と口の健康づくりネットワーク会議 歯と口の健康づくり
マニュアルより

事例 06 品川女子学院(東京都)の“whiteeeeth”活動紹介

事例 07 公益社団法人日本学校歯科医会 生きる力を育む歯・口の健康づくり
推進事業より 鹿児島県立曾於高等学校

事例 08 同 推進事業より 山口県立山口農業高等学校

(4) 調査結果まとめ

本事業で開発するプログラムが従来の高等学校における歯科保健教育の取り組みと異なる点は、高等学校と専門学校とが連携して行う事業の一環であり、生徒の歯科口腔

保健状態の維持・改善にとどまらず、キャリア教育につなげる目的で実施される点にある。先行事例を参考にしつつ、新しいプログラムの開発・実証が必要である。

高等学校における歯科保健教育の取り組みは、小中学校でのそれと比べると、報告例が少ない。しかしながら、教育委員会や地方自治体が指導例として示したプログラム(事例 01～04、05)に単元目標や指導と評価の計画などが詳細に記載されており、本事業におけるプログラム開発の参考になる。また、公益社団法人日本学校歯科医会は、長年にわたり、全国で、学校での歯・口の健康づくり推進事業を実施してきた¹⁾。実践報告であることから、評価方法も含めて記載されており、参考にすべきであるとする。

参考文献)

- 1) 公益社団法人日本学校歯科医会, <https://www.nichigakushi.or.jp/>

1. 高等学校で行われているもの

事例 01 石川県教育委員会 高等学校第1学年 健康の保持増進と疾病の予防～歯肉炎～
(保健体育科科目保健)

調査項目	内容
講座名	健康の保持増進と疾病の予防～歯肉炎～(保健体育科科目保健)
科目名	保健(単位数 1)
使用教科書	現代保健体育(出版社名 大修館書店)
单元名	現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防
受講対象者	高等学校第1学年
実施主体	高等学校
実施形態	集合学習のみ(座学)
実施期間	1 時間
学習時間数	総時数 11 時間 第一次 生活習慣病と日常の生活行動 1 時 生活習慣病とその予防 (1 時間) 2 時 食事と健康 (1 時間) 3 時 運動と健康 (1 時間) 4 時 休養・睡眠と健康 (1 時間) 5 時 歯と口の健康 (1 時間)…本時 第二次 喫煙、飲酒と健康 (2 時間) 第三次 薬物乱用と健康 (1 時間) 第四次 感染症とその予防 (3 時間)
講座内容	単元の目標 ・健康の保持増進と疾病の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。【関心・意欲・態度】 ・健康の保持増進と疾病の予防について、仲間の意見や考えを聞き、多角的に分類・整理してそれらを説明したり書き出したりできるようにする。【思考・判断】 ・健康の保持増進と生活習慣病の予防について、調和のとれた生活を実践する必要があることを理解できるようにする。【知識・理解】 指導に当たって 生涯にわたって調和のとれた健康的な生活を実践するために生活習慣病の要因について正しく理解させることに重点を置く。また、個人の生活習慣の改善や家族や集団の健康である公衆衛生との関わり合いも考えさせることができる单元分野でもある。また、食と健康については家

	庭科分野との深い関連があり、一層 QOL(Quality of Life)の考え方を深めさせることが可能な教材である。自己の生活習慣を見直すことによりより良い豊かな人生を創りあげる態度を育てたい。また、疾病予防の対策には社会的な対策とともに、個人の取組が必要であることを理解できるようにする。 指導と評価の計画(第一次第 5 時) (1) 目標 歯と口の健康づくりと生活習慣病の資料から読み取り分析し、我が国の歯科医療費改善のために必要なことを考え、説明することができるようにする。【思考・判断】 (2) 準備・資料等 ワークシート、教科書、プロジェクター (3) 展開 導入 10 分 ・挨拶・出欠確認 ・本時の学習内容を知る 展開 35 分 ・日本の歯と口の現状を知る ・資料より歯科医療の実態を知る ・医療費を減らすためにどんなことができるか考える ・生活習慣の改善点を考える まとめ 5 分 ・本時のまとめ 板書計画 課題〈65 歳未満で最も高い歯科医療費を減らすためにできることは何だろう?〉 都道府県別国民医療費 65 歳未満の医療費(臓器別) 歯科医院で受診した診療科目 WHO 世界の疾病負担研究 有病率 ○歯科保健教育 ○はみがきの促進 ○フロスの利用 ○フッ素塗布 ○かかりつけ歯科医 ○無料歯科検診
評価方法	評価なし(カリキュラム案の提示のため)
運営情報	教育委員会による指導資料集

	平成 29 年度 健康課題解決支援対策協議会委員(歯科保健指導資料集作成委員) 池本 美和 津幡町立太白台小学校 養護教諭 市川 洋子 石川県歯科衛生士会 会長 内野 佐智江 石川県歯科衛生士会 理事 菅 佐智子 宝達志水町立志雄小学校 養護教諭 辻森 美穂 県立羽咋工業高等学校 養護教諭 鳥越 滋子 能登町立小木中学校 養護教諭 橋本 富士子 七尾市立能登香島中学校 養護教諭 東 和香 小松市立松陽中学校 養護教諭 平田 佳永 石川県健康福祉部健康推進課 専門員 藤井 奈美 白山市立松任中学校 養護教諭 藤原 めぐみ 県立小松商業高等学校 養護教諭 松下 佳美 能美市立浜小学校 養護教諭 松本 明美 石川県歯科衛生士会 会員 南 亜紀 輪島市立門前東小学校 養護教諭 室木 俊美 石川県歯科医師会 学校歯科委員長 谷内 広美 県立野々市明倫高等学校 養護教諭 山本 典子 石川県歯科医師会 理事 山元 祐子 県立七尾特別支援学校 養護教諭
URL	https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/hotai/hoken/documents/shiryou.pdf

事例 02 石川県教育委員会 高等学校第 1 学年 食事に関するからだのしくみ(福祉科)

調査項目	内容
講座名	食事に関するからだのしくみ(福祉科)
科目名	こころとからだの理解(単位数 2)
使用教科書	こころとからだのしくみ(出版社名 中央法規出版)
单元名	食事に関するからだのしくみ 1(口腔)
受講対象者	高等学校第 1 学年
実施主体	高等学校
実施形態	集合学習のみ(座学)
実施期間	1 時間
学習時間数	総時数 3 時間 第一次 口腔 (3 時間) 第 1 時 口腔の構造・機能 (1 時間)

	第 2 時 嚥下 (1 時間) 第 3 時 歯周病 (1 時間)・・・本時
講座内容	単元の目標 ・口腔の構造について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。【関心・意欲・態度】 ・歯周病の予防のための生活について考えている。【思考・判断・表現】 ・適切な歯磨き方法について、実践し、身につけている。【技能】 ・歯周病が生命に関わる危険性のある病であることを理解している。【知識・理解】 指導に当たって 1. 教材観 利用者の生活支援を行っていくうえで口腔ケアは重要である。介護者として口腔ケアの支援を行っていく前に、歯肉炎や歯周病の危険性について学んでいく。介護者として支援をする前に自分の歯の健康について、考えさせたい。 2. 指導観 歯周病が全身の病気とかかわりがあることを理解させ、予防をするためにどのような生活をしたらよいかについてペアで考えさせ、今後の生活支援につなげたい。 本時の指導と評価の計画(第一次第 3 時) (1) 目標 歯周病が生命に関わる病気であることを理解する。【知識・理解】 (2) 準備・資料等 パソコン、プロジェクター、ワークシート、ホワイトボード、マジック (3) 展開 導入 5 分 ・既習事項の振り返り 展開 40 分 ・歯肉炎・歯周炎 ・歯周病を予防するために まとめ 5 分 ・まとめ 板書計画

	課題〈全身の病気とかかわる歯周病を予防するために必要なことは？〉 歯を失う原因 歯周病が及ぼす全身への影響 はみがき入れ歯清掃 かかりつけ歯科医受診 口腔内の清拭 うがいお茶の摂取
評価方法	評価なし(カリキュラム案の提示のため)
運営情報	教育委員会による指導資料集 平成 29 年度 健康課題解決支援対策協議会委員(歯科保健指導資料集作成委員) ※事例 01 と同じ
URL	https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/hotai/hoken/documents/shiryou_u.pdf ※事例 01 と同じ

事例 03 石川県教育委員会 高等学校第 2 学年 かむことと健康(家庭科)

調査項目	内容
講座名	かむことと健康(家庭科)
科目名	家庭総合(単位数 4)
使用教科書	家庭総合 ともに生きる明日をつくる(出版社名 教育図書)
題材名	かむことと健康
受講対象者	高等学校第 2 学年
実施主体	高等学校
実施形態	集合学習のみ(座学+実習)
実施期間	1 時間
学習時間数	総時数 1 時間 第一次 かむことと健康 (1 時間)…本時
講座内容	題材の目標 毎日の食事が健康と深く関わっていること、特にかむことが健康に及ぼす影響について理解した上で、健康を保つための食生活について考え、発表することができる。【思考・判断・表現】 指導に当たって 1. 教材(題材)観 かむことが健康に及ぼす影響を、写真資料や統計資料を用いてわかりやすく理解できるようにさせたい。自分の経験を活用できる教材である。また、最初に自分の咀嚼回数が多いか少ないか、自分のかみ癖

	についても知ること、自分の歯の健康についても意識し、治療未了者に対する啓発にもつなげたい。 2. 指導観 様々なデータや写真資料を用いることで、目で見えて情報を読み取り、自分の力で考える一助としたい。さらに自分の考えをグループ内で共有することで、より思考を深められるようにしたい。毎日の食事が健康と深く関わっていること、かむことが健康に及ぼす影響について自らの健康を保つためだけでなく、今後の自分や家族の健康管理につながることに気づけるよう指導したい。 本時の指導と評価の計画(第一次第1時) (1) 目標 毎日の食事が健康と深く関わっていること、特にかむことが健康に及ぼす影響について理解した上で、健康を保つための食生活について考え、発表することができる。【思考・判断・表現】 (2) 準備・資料等 パソコン、プロジェクター、スクリーン、ワークシート、するめ、付箋、模造紙(グラフ) (3) 展開 導入 5分 ・本日の学習内容を知る 展開 35分 ・自分の咀嚼回数とかみ癖を知る ・かむことが健康に与える影響を知る ・できるだけよくかむために、どのような食事を心がければ良いか考え、発表する。 まとめ 10分 ・学習のまとめ 板書計画 課題 〈どうすれば毎日の食事とかむ回数を増やすことができるだろう?〉 考えるポイント ①食材 ②調理方法 ③食べ方 実際に嚙んでみよう! ペアになってするめを交代で食べ、相手の咀嚼回数を数えよう。 ◎8020 運動 20 本以上の歯を有する者の割合
--	--

	自分の歯で噛める人は寝たきりになりにくい ◎かむことの効用 噛むことの 8 大効果 昔の食事と今の食事 ・咀嚼回数が多い食べ物(するめ、ナッツ類)を食事に取り入れる。 ・大きめに切る。 ・火を通しすぎない。 ・意識して多くかむ。味わって食べる。 ・歯を治療してかめるようにする。
評価方法	評価なし(カリキュラム案の提示のため)
運営情報	教育委員会による指導資料集 平成 29 年度 健康課題解決支援対策協議会委員(歯科保健指導資料集作成委員) ※事例 01 と同じ
URL	https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/hotai/hoken/documents/shiryou_u.pdf ※事例 01 と同じ

事例 04 石川県教育委員会 高等学校第 2 学年 かむことと健康～幼児のおやつ～(家庭科)

調査項目	内容
講座名	かむことと健康～幼児のおやつ～(家庭科)
科目名	子どもの発達と保育(単位数 2)
使用教科書	子どもの発達と保育(出版社名 実教出版)
題材名	かむことと健康～幼児のおやつ～
受講対象者	高等学校第 2 学年
実施主体	高等学校
実施形態	集合学習のみ(座学+実習)
実施期間	1 時間
学習時間数	総時数 4 時間 第一次 かむこと (1 時間) 第二次 かむ力を育てる幼児のおやつ (1 時間)…本時 第三次 幼児のおやつ作り (1 時間) 第四次 幼児の発育・発達に応じた養護 (1 時間)
講座内容	題材の目標 ・かむことと健康との関連について関心をもち、意欲的に学習に取り組む。【関心・意欲・態度】 ・かむことの効用を踏まえ、かむ力を育てる幼児のおやつについて考え

	る。【思考・判断・表現】 ・かむ力を育てる幼児のおやつを作ることができる。【技能】 ・基本的生活習慣(清潔)の定着や食習慣の形成を促す上で、幼児の発育・発達に応じた養護が重要であることを理解する。【知識・理解】 指導に当たって 1. 教材(題材)観 幼児期に基本的生活習慣(清潔)を定着させるためには、子どもの発育や発達をよく理解しそれに応じた援助が不可欠であることや、保育者自身の生活習慣や意識が子どもに影響を及ぼすことにも気づき、保育者の適切な養護のあり方や重要性について考えさせたい。また、幼児期に身についた基本的生活習慣がその後の生活習慣に深く関わっていくという生涯を見通した視点からも重要であることを理解させるとともに、今までの自分自身を振り返りこれからの歯や口の健康管理について考える契機としたい。 2. 指導観 ジグソー法や自分たちで考案したおやつ作り、相互評価等の五感を刺激した活動、ワークシートや ICT 教材を使った活動等、様々な学習形態を取り入れた授業を展開し、「子どもを育てる」視点から生徒が主体的に活動し、より考えを深め、実践的な活動となるよう工夫していきたい。また、その中から得られた生徒の気づきや学びも大切にしたい。 本時の指導と評価の計画(第一次第3時) (1) 目標 かむ力を育てる幼児のおやつについて考えることができる。【思考・判断・表現】 (2) 準備・資料等 パソコン、プロジェクター、スクリーン、ワークシート、ストップウォッチ (3) 展開 導入 5 分 ・前時の学習、内容の確認 ・本時の学習、内容の確認 展開① 12 分 ・エキスパート活動(個人) 移動
--	---

	・エキスパート活動(グループ) 展開② 8 分 移動 ・ジグソー活動 展開③ 20 分 ・クロストーク活動 ・発表 まとめ 5 分 ・振り返り ・次時の予告 板書計画 課題〈幼児のかむ力が育つおやつにはどんなものがあるだろう〉 ◎かむことの大切さ ◎エキスパート活動
評価方法	評価なし(カリキュラム案の提示のため)
運営情報	教育委員会による指導資料集 平成 29 年度 健康課題解決支援対策協議会委員(歯科保健指導資料集作成委員) ※事例 01 と同じ
URL	https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/hotai/hoken/documents/shiryou_u.pdf ※事例 01 と同じ

事例 05 仙台市 歯と口の健康づくりネットワーク会議 歯と口の健康づくりマニュアル
より

調査項目	内容
講座名	高校におけるむし歯ハイリスク者等への歯科講話及び歯科保健指導
受講対象者	歯科健康診断結果、CO や GO・未処置歯のある生徒及び将来歯科衛生士を目指している生徒等
実施主体	高等学校
実施形態	集合学習のみ(座学+実習)
学習時間数	放課後の時間帯 40 分
講座内容	(1) 目的 歯と口の大切さを理解し、生活習慣の見直しと行動変容を促す。 (2) 準備・資料等 手鏡、歯ブラシ、歯牙模型、デンタルフロス、パワーポイント資料、アン

	ケート用紙 (3) 学校歯科医による講話、歯科衛生士による保健指導、養護教諭 学校歯科医、養護教諭の視点から必要性の記載有 学校歯科医によるスライド使用 ・う蝕(虫歯)のメカニズム ・う蝕(虫歯)と飲み物の pH ・初期う蝕(虫歯) ・マウスガード ・成人の歯周病の割合(仙台市)
評価方法	評価なし(カリキュラム案の提示のため)
運営情報	仙台市 歯と口の健康づくりネットワーク会議 児童・生徒への保健指導や健康教育の参考にしていただくため、必要な 媒体を電子データでダウンロード可。
URL	https://www.city.sendai.jp/kenkosesaku-zoshin/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/hatokuchi/documents/gakur-eiki_manyual.pdf

事例 06 品川女子学院(東京都)の“whiteeeeth”活動紹介

調査項目	内容
講座名	品川女子学院(東京都)の“whiteeeeth”活動紹介
受講対象者	小学生・保護者等
実施主体	品川女子学院
実施形態	学校校舎内・郊外にて開催
実施期間	
学習時間数	
講座内容	(1) 目的 フロスを使った歯周病の予防の必要性を伝える (2) 実施した主な活動 1. 文化祭にてオリジナルのデンタルフロス販売 2. 近隣の小学校訪問・講演 3. 11月8日“いい歯の日” 保護者・生徒向けイベント開催 4. CM を作成し、SNS で動画を配信
評価方法	評価なし

運営情報	※事例 05 のコラムに紹介有り。 高校生が起業体験プログラムとして歯周病をテーマとした株式会社を設立した活動を紹介。
URL	https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/support/information/CO036554/20190807-OYT8T50032/ ※読売新聞の記事

事例 07 公益社団法人日本学校歯科医会 生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業より 鹿児島県立曾於高等学校

調査項目	内容
講座名	歯科治療完了率 100%を目指す SO(曾於)!!～保健委員から地域へ広がる健康教育～
受講対象者	高等学校第 1～3 学年
実施主体	鹿児島県立曾於高等学校
実施形態	集合学習のみ(座学+実習)
学習時間数	掲載なし
講座内容	(1) 研究のねらい 「教師から生徒」という従来の指導法ではなく、「生徒から生徒」という視点に立ち、本校の保健目標として「歯科治療完了率 100%を目指す SO(曾於)!!」を掲げ、保健委員と共に歯科治療率を上げる活動を行う。 (2) 研究仮説 ラーニングピラミッド(アメリカ国立訓練研究所)の考えを参考に、一番身につく指導方法として「保健委員自身が自分の所属するクラスで歯科指導を行うこと」と考えた。保健委員が努力する姿を見ることで、他の生徒の歯科に関する意識向上にもつながるのではないかと考えた。 (3) 研究の実際 令和 1・2 年度 以下成果と課題より 平成 27 年度より行っている「歯」に関する取り組みは、6 年目となる。 1. アンケートの実施 2. 歯に関する実験(保健委員の興味関心、動機付け) 3. 学校歯科医による保健委員への歯科指導 4. 保健委員による歯科指導

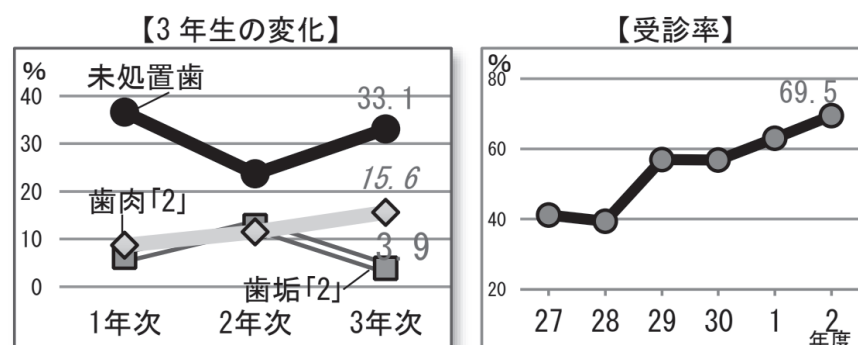
	5. 健康食レストラン 6. 治療勧告書の配付 7. 学校歯科医による歯科講話 8. 校内歯みがき一斉大会 9. 図書委員会とのコラボ 10. 新型コロナウイルスとのコラボ 11. 歯科キャラクター 12. 全日本学校歯科保健優良校 13. 歯ブラシエコプロジェクト 14. 災害時の口腔ケアについて 15. 鹿児島県歯科口腔保健推進協議会への協力																					
成果と課題	成果と課題 p.21 より 平成 27 年度より行っている「歯」に関する取り組みは、今年で 6 年目を迎える。開校当初から行っている染め出し液を使用したブラッシング指導は、小学生以来の体験という生徒もあり、磨き方のくせに気付くことができ、大きな成果をあげていると感じる。 実際、1 人当たりの DMF 歯数は 4.96 だった平成 28 年度をピークに減少傾向となり、今年度は初めて 3.0 以下である 2.89 という結果になった。生徒だけでなく、職員の意識も大きく変わり、学校全体で取り組むことができているように感じる。生徒の中には、小学生の出前授業を通して、教えることの楽しさに気付き、小学校教諭を目指し進学した生徒や、歯に携わる仕事がしたいと、歯科衛生士を目指して進学した生徒もあり、進路実現へもつなげることができたことは、とても嬉しいことであった。昨年度は、3 年生において 90%以上の生徒が卒業までに治療を終えることもでき、今年は既に 3 クラスにて治療率 100%を達成したクラスもある。 <table><tr><th>年度</th><th>歯肉炎要精検者</th><th>DMF 歯数</th></tr><tr><td>平成 27 年度</td><td>13.9%</td><td>3.50</td></tr><tr><td>平成 28 年度</td><td>5.2%</td><td>4.96</td></tr><tr><td>平成 29 年度</td><td>7.4%</td><td>3.43</td></tr><tr><td>平成 30 年度</td><td>5.0%</td><td>3.77</td></tr><tr><td>令和元年度</td><td>3.7%</td><td>3.04</td></tr><tr><td>令和 2 年度</td><td>7.7%</td><td>2.89</td></tr></table>	年度	歯肉炎要精検者	DMF 歯数	平成 27 年度	13.9%	3.50	平成 28 年度	5.2%	4.96	平成 29 年度	7.4%	3.43	平成 30 年度	5.0%	3.77	令和元年度	3.7%	3.04	令和 2 年度	7.7%	2.89
年度	歯肉炎要精検者	DMF 歯数																				
平成 27 年度	13.9%	3.50																				
平成 28 年度	5.2%	4.96																				
平成 29 年度	7.4%	3.43																				
平成 30 年度	5.0%	3.77																				
令和元年度	3.7%	3.04																				
令和 2 年度	7.7%	2.89																				
運営情報	令和 1・2 年度 公益社団法人日本学校歯科医会による生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業																					
URL	https://www.nichigakushi.or.jp/suishin/jigyohoukoku/pdf/r01-																					

	02/kyusyu_okinawa.pdf ※p.18-21, 別の事例も併せて掲載されている
--	---

事例 08 公益社団法人日本学校医師会 生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業より
山口県立山口農業高等学校

調査項目	内容
講座名	仲間とともに取り組む健口づくり～「歯ッと」気づき、「歯ッスル」な行動で、「歯ッピーライフ」へつなげよう～
受講対象者	高等学校第 1～3 学年
実施主体	山口県立山口農業高等学校
実施形態	集合学習のみ(座学+実習)
学習時間数	掲載なし
講座内容	(1) 研究の目標 成功体験を得やすい歯・口の健康づくり(健口づくり)を切り口として健康への関心を向上させ、「仲間とともに」をキーワードに学校全体でバージョンアップした取組を目指す。 すべての生徒が「仲間とともに」自分の健康課題に「歯ッと」気づき、その課題を解決しようと「歯ッスル(奮闘)」する。それが習慣化し、生涯にわたる健康行動へと繋がり「歯ッピーライフ」を送っていくことを願い、本主題を設定した。 (2) 実施した主な活動 令和 1・2 年度 1 年目は歯・口の健康に関心を持たせ、2 年目は行動化に重点を置いて活動した。 1. 歯科健康診断で「歯ッと」 2. 受診率UP作戦で「歯ッと」からの「歯ッピーライフ」 3. 生きる力をはぐくむ歯・口の健康教室で「歯ッと」 4. 歯・口のケガの防止対策で「歯ッと」 5. 優良生徒表彰で「歯ッスル」 6. 保健委員会を中心とした生徒活動で「歯ッスル」 7. 関連図書コーナーの設置で「歯ッと」
成果と課題	2 年間「仲間とともに」をキーワードとして活動に取り組んだ。1 年目は関心を持たせることを、2 年目は行動化へ進むことを目標に実施した。 「生徒間」では、保健委員会を中心に生徒同士で声を掛け合った。「教員間」「地域」からの力も加わり、ともに活動し、歯・口に関する関心度は上がった。学校全体で、バージョンアップした取組ができたと言える。 しかし、「家庭」との連携は、積極的に図ることができなかった。生徒に

として生活の基盤である「家庭」との連携は、高校生にとっても重要であり、今後も機会を捉えた連携の方法を考え、図っていききたい。行動化については、本校で実施率の低い昼食後の歯みがきに焦点を当てた。「昼ハミクラスマッチ」をきっかけに歯みがきをする生徒の姿が見られるようにはなったが、ほんの一部である。マスク生活となった今、口内の衛生状態への関心が薄れつつあることを感じる。積極的な声掛けが今まで以上に必要であり、今後も継続して取り組み、習慣化を図りたい。



数値で結果を見てみると、歯科検診の結果、歯垢の状態は改善したが、う歯、歯肉の状態については、改善がみられなかった。重点事項とした検診後の受診率については、過去最高値となった。受診率は上昇傾向にあるが、う歯が減少しなかったのは、長期の休校が一因と考えられる。そのことから、規則正しい生活習慣を含めた健口行動の習慣化も重要だと言える。また、学校再開後にも間食や清涼飲料水の問題は継続しており、まだまだ課題は山積みである。

運営情報

令和 1・2 年度 公益社団法人日本学校歯科医会による生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業

URL

https://www.nichigakushi.or.jp/suishin/jigyohoukoku/pdf/r01-02/chugoku_shikoku.pdf ※p.15-18, 別の事例も併せて掲載されている

3.2 非認知能力育成プログラム事例調査

3.2.1 調査概要

(1) 調査目的

高等学校ならびに歯科衛生士養成校における非認知能力育成プログラムを開発するにあたって、先行事例を調査し、基礎資料とする。調査対象領域には、歯科衛生士養成コースを持つ高等学校や高大連携の教育内容も含め、連携のための資料とする。

(2) 調査対象領域

- ・非認知能力の教育例
- ・歯科衛生コースを持つ高等学校や高大連携の教育内容
- ・歯科衛生士養成校(学科)における社会人基礎力の教育内容

(3) 事例一覧

以下に収集した事例の一覧を掲載する。

1. 高等学校以前での取組

- 事例 1-01 愛媛大学 教職大学院 社会情動的スキル(非認知能力)を育むカリキュラム・マネジメントの在り方
- 事例 1-02 文部科学省 東京都教育委員会提出資料より コミュニケーション能力の育成～言語能力向上推進事業を通して～
- 事例 1-03 同 チャレンジスクール・エンカレッジスクールにおける取組
- 事例 1-04 同 東京都設定教科・科目 「奉仕」について
- 事例 1-05 Edv Future 株式会社 生きる力を育む非認知能力成長支援サービス「EdvPath」

2. 専門学校・短期大学・大学での取組

- 事例 2-01 岡山大学 キャリア教育における多元的自己評価試論Ⅲ
- 事例 2-02 江戸川大学の情報教育と環境より 問題解決力を育成するための情報リテラシー・キャリア教育
- 事例 2-03 群馬県立県民健康科学大学 学生の学習への主体性促進を意図した看護学教員の教授活動
- 事例 2-04 名古屋学院大学論集 社会科学篇より キャリア教育科目におけるコミュニケーション能力の育成に関する一考察

3. 歯科衛生コースを持つ高等学校での教育内容

- 事例 3-01 学校法人平松学園 大分東明高等学校 歯科衛生コース(普通科)
- 事例 3-02 学校法人大淀学園 鵬翔高等学校 暮らしの科学科 医療歯科コース
- 事例 3-03 学校法人樫蔭学園 聖光高等学校 総合ビジネス科 医療ビジネスコース
- 事例 3-04 学校法人西日本短期大学 西日本短期大学附属高等学校 特進 看護医療進学コース
- 事例 3-05 学校法人岩手女子奨学会 岩手女子高等学校 普通科 医療系進学コース

4. 歯科衛生士学科との連携による高大連携の高等学校での教育内容

- 事例 4-01 学校法人梅花学園 梅花高等学校 アドバンスコース 医療看護専攻

5. 歯科衛生士養成校(学科)における社会人基礎力の教育内容

◎経済産業省 人生 100 年時代の社会人基礎力(定義)

- 事例 5-01 学校法人穴吹学園 穴吹カレッジグループ 穴吹医療大学校 歯科衛生学科
- 事例 5-02 学校法人大垣総合学園 大垣女子短期大学 歯科衛生学科
- 事例 5-03 学校法人大手前学園 大手前短期大学 歯科衛生学科
- 事例 5-04 学校法人東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校
- 事例 5-05 学校法人目白学園 目白大学短期大学部 歯科衛生学科

◎全国歯科衛生士教育協議会加盟校におけるキャリア教育・非認知能力教育のホームページへの掲載状況

(4) 調査結果まとめ

高等学校ならびに歯科衛生士養成校における非認知能力育成プログラムを開発するにあたり、先行事例を調査した。わが国の学校教育における非認知能力育成は「生きる力」の育成として以前から行われていた¹⁾が、高等学校学習指導要領の改訂に伴い、令和4年度より、社会に開かれた教育課程の一環として、新しい形で「これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと」、と示された²⁾。学力と異なり、教育方法・評価方法ともに確立されていないことから、新しいプログラムの開発にあたっては「非認知能力」をキーワードに、幅広く参考資料の収集を行ったが、対象となる事例は少なかった。

1. 高等学校以前での取組、2. 専門学校・短期大学・大学での取組、で収集した事

例に共通していたのは、それぞれに高めるべき非認知能力を定義し、その評価方法や向上のための教育プログラムを検討している段階である、ということである。

2. 専門学校・短期大学・大学での取組でみられたキャリア教育の事例は、本事業で開発する専門学校での非認知育成プログラムに、主体性、コミュニケーションスキルなどの具体的な向上例として参考になる。また、1-05.Edv Future 株式会社の生きる力を育む非認知能力成長支援サービス EdvPath は、高等学校と専門学校、短大などにおいて有効なアセスメントやカリキュラムを有しており、既に各地で非認知能力向上の効果が確認されている³⁾。しかしながら、歯科衛生士養成教育における試みはなく、本事業において協力を得ながら、新しいプログラム開発につなげることが効果的であると考えられる。

3. 歯科衛生コースを持つ高等学校での教育内容、4. 歯科衛生士学科との連携による高大連携の高等学校での教育内容は、高等学校2，3年次に実施予定の連携プログラムを作る上で、高校生の中に学習することが有効かつ可能な専門知識、あるいは関連する範囲知る際の基礎資料になる。

5. 歯科衛生士養成校(学科)における社会人基礎力の教育内容

令和4年1月現在、「非認知能力」を検索ワードとしたところ、歯科衛生士養成校のホームページ上ではその育成を掲げている例が見当たらなかった。そこで、以前より歯科衛生士養成に関連する学会(日本歯科衛生教育学会)において報告されていた「社会人基礎力」に絞って、再度事例を調査した結果をまとめた。全国に約180の歯科衛生士養成校・学科があり、「社会人基礎力」の育成が教育目標として掲載されていたのは9校であった。これらの内容も本事業でのプログラム開発にあたり、参考にすべきと考える。

参考文献)

- 1) 文部科学省 学習指導要領「生きる力」, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm
- 2) 文部科学省 新学習指導要領について, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/044/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2019/06/19/1418049_006.pdf
- 3) Edv Future 株式会社, <https://lp.edvpath.jp/>

1. 高等学校以前での取組

事例 1-01 愛媛大学 教職大学院 社会情動的スキル(非認知能力)を育むカリキュラム・マネジメントの在り方

調査項目	内容
講座名	社会情動的スキル(非認知能力)を育むカリキュラム・マネジメントの在り方
受講対象者	小学6年生 25名(男子16名、女子9名)
実施主体	西条市立多賀小学校
実施形態	集合学習のみ(座学+実習)
学習時間数	①年間指導計画の見直しによるカリキュラム・マネジメント(4月) ②修学旅行(学校行事)を核とした「命の尊さ」を考える学習(7月～10月) ③体育科(体ほぐしの運動)を核とした教科等における授業改善(10月～11月)
講座内容	・概要 本研究は、カリキュラム・マネジメントの工夫、実践により、予想が困難で変化の大きいこれからの時代をたくましく生き抜く力を児童に身に付けさせるカリキュラム・マネジメントの在り方を考察することを目的としている。特に、学校行事や特別活動を核としたカリキュラム・マネジメントの実践、社会情動的スキルの育成をねらいとした授業改善の方法を検討した。具体的には、置籍校の年間指導計画を「社会情動的スキルを育てる」という視点から見直しを行い、教科や特別活動等を組み合わせた2つの大単元を実践することとした。 ・目的 本研究では、「社会情動的スキル向上の視点に立ったカリキュラム・マネジメントの工夫・実践」及び「社会情動的スキルを高めるための授業改善の工夫(手立て)の明確化」の2つを視点とした。これらの視点から「学校行事等を核としたカリキュラム・マネジメントの実践」と「教科指導を核としたカリキュラム・マネジメントにおける授業改善」の2つを実践の柱とし、社会情動的スキル(非認知能力)を育むカリキュラム・マネジメントについて考察することを研究の目的とした。 ・研究の実際 1. 年間指導計画の見直しによるカリキュラム・マネジメント 2. 修学旅行(学校行事)を核とした「命の尊さ」を考える学習

	3. 体育科(体ほぐしの運動)を核とした教科等における授業改善 ①エンジョイ運動を通した仲間との豊かな関わり ②課題達成型の運動「チャレンジ運動」による取組 ③体ほぐしの運動における形成的評価 ・成果と課題 1. 成果 ①計画的、継続的な指導の充実 ②カリキュラム・マネジメントを行うことで、児童の知識と実践が つながった深い学びとなり、学級に支持的風土が醸成された ③学習や行事に粘り強く取り組む姿勢が育った 2. 課題 ①年間指導計画への実践プログラムの明確な位置付け ②学校全体としての取組(縦の系統性)の充実を図ること ③より正確な評価の在り方
評価方法	ダックワース(2016)の「やり抜く力測定尺度」を引用した。この測定尺度は、「根気」と「一貫性」の2因子8項目で構成されている。 東京都教職員研修センター(2013)では、「自尊感情測定尺度」を作成し、小・中・高等学校で様々な実践研究が行われている。この測定尺度は、「自己評価・自己受容」「関係の中での自己」「自己主張・自己決定」の3因子22項目で構成されている。「やり抜く力」の測定と合わせて、「自尊感情」についても児童の実態と変容を見取っていくこととした。 社会情動的スキルの一つの指標として「やり抜く力」と「自尊感情」を取り上げ、児童の変容を確認するために、4月と11月に次の2つの調査を実施した。 ①「やり抜く力(Grit)測定尺度」による評価(5点満点) ②「自尊感情測定尺度」による評価(4点満点)
運営情報	愛媛大学 教職大学院 教育実践開発コース 渡邊 尚志 指導教員 日野 克博 高橋 葉子
URL	http://ed.ehime-u.ac.jp/kyoushoku/wp-content/uploads/2021/03/a5c9a6cdef9a2c8d9844fb6d958f9772.pdf

事例 1-02 文部科学省 東京都教育委員会提出資料より コミュニケーション能力の育成
～言語能力向上推進事業を通して～

調査項目	内容
講座名	コミュニケーション能力の育成～言語能力向上推進事業を通して～
受講対象者	平成 23 年度 都立高校 12 校、特別支援学校 3 校、小・中学校 50 校 計 60 校(3 年間) 平成 24 年度 新規 65 校を指定
実施主体	高校、特別支援学校、小・中学校等
実施形態	集合学習のみ(座学+実習)
学習時間数	
講座内容	・「言語能力向上推進事業」実施の背景とねらい ①新学習指導要領の趣旨の徹底 すべての教科等における言語活動の充実 ②「言葉の力」再生プロジェクト 取組 1：言葉の力を教育段階から定着 ⇒思考力・判断力・表現力等の育成 取組 2：読書の機会拡充 ⇒「言葉の力」再生し、世界で活躍できる若者を育成 活字に親しむ学校づくりを通した言語活動「言語能力向上推進事業」を実施(平成 23 年度)、児童・生徒の言語能力の向上をねらいとする。 ・言語能力向上推進校での取組 必須の取組 ○読書活動 ○書くこと その他の取組 教育研修、専門家による児童・生徒対象の授業、授業での工夫 言語活動の質的向上→各教科等の学力向上 ・指導過程のポイント 1. 話題との出会い 2. 自己の考えの形成 「読書」「書く」 3. 考えの交流(話し合い) 4. 自己の考えの再構築 「読書」「書く」 ・各学校での特色ある取組例

	○都立西高等学校 ～各教科での取組～ 外国語(英語)…ディベートの実施 地理歴史・公民…3 分間スピーチやディベートの実施 ○都立荻窪高等学校 ～読書活動への取組～ 図書館ガイダンスの実施等による読書への関心の高揚 ～講師を招聘した講演会等～ 講演「コミュニケーションと言語」近石真介氏(俳優・声優・ナレーター) 「古典落語」立川談之介師匠・立川志ら乃師匠(落語家) ○都立葛飾商業高等学校 ～研究授業の実施～ 世界史…新聞の作成過程の解説や記事を読み取り、感想を話し合う ～講師を招聘した講義～ 言葉遣い・マナー指導(総合実践) 言語のトレーニング(国語表現)相沢早苗氏(元お天気キャスター) ・主な成果と今後の方向性 主な成果 ○コミュニケーションを図ることのすばらしさを実感 ○説得力のある話の構成や展開、表現を工夫 ○話合いの方向を捉え、よりの確に話す・聞く ○部活動や生徒会活動でも、多角的に考え発言 ○多角的な観点から話の妥当性や信頼性を吟味 今後の方向性 相手の意図や考えを的確に理解し、論理的に説明したり、反論・説得したりできる能力を育成するための実践の場を提供 先進的な英語教育を実践する学校の指定や実践研究の実施 ⇒日本語や英語による思考力・判断力・表現力等を育成 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や実践力を育成
評価方法	評価なし
運営情報	文部科学省 東京都教育委員会

URL	https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/___i_csFiles/afieldfile/2012/03/21/1318690_03.pdf
-----	---

事例 1-03 文部科学省 東京都教育委員会提出資料より チャレンジスクール・エンカレッジスクールにおける取組

調査項目	内容
講座名	チャレンジスクール・エンカレッジスクールにおける取組
受講対象者	高等学校 1 学年～3 学年
実施主体	チャレンジスクール・エンカレッジスクール
実施形態	集合学習のみ(座学+実習)
学習時間数	
講座内容	・チャレンジスクールとは 不登校や中途退学を経験するなど、これまで自分の個性や能力を十分に発揮できなかった生徒が、自分の夢や目標に向かってもう一度チャレンジする高校。 ・チャレンジスクールの特色 ○学力検査や調査書によらない入学者選抜 ○基礎・基本の学習や多様な選択科目を設置 ○生徒の生活環境等に合わせた学習時間の選択が可能 ○カウンセリング機能や教育相談機能が充実 ・チャレンジスクールの基本的な枠組み ○定時制課程の単位制総合学科高校 ○三部制(昼夜間)により生徒の生活環境に応じた多様な学習が可能 ○修業年限は 4 年が基本(他部履修により 3 年での卒業も可能) ・チャレンジスクールにおける取組 学校の特徴ある取組事例 ○大江戸高校 「生活実践(奉仕)」…社会生活に必要な知識や自活する力を育成 「生活とマナー」…日本の伝統・文化に親しみながら社会生活に必要な知識を育成 ○桐ヶ丘高校 重層的、複層的な教育相談機能(教育相談部の設置やスクールカウ

	ンセラー等) ○稔ヶ丘高校 学校設定科目「コーピング」の設置 ・エンカレッジスクールとは 小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する学校。 ・エンカレッジスクールの特色 ○学力検査によらない入学者選抜 ○基二人担任制による個に応じたきめ細かい指導 ○多彩な体験授業やキャリアガイダンスの実施 ○30分授業や習熟度別授業などにより基礎・基本を徹底 ・エンカレッジスクールの基本的な枠組み ○全日制課程・普通科及び専門学科の高校の中から指定 ○キャリアガイダンスや30分授業、学び直しなど他の高校にない特色 ・エンカレッジスクールにおける取組 学校の特色ある取組事例 ○蒲田高校 宿泊体験…豊かな人間性や社会性を育成 ○秋留台高校 生活指導の徹底…問題行動・中途退学の減少、授業規律の確保 ・チャレンジスクール、エンカレッジスクール設置の経緯 生徒の多様化や、社会経済の進展等への対応の必要性 ⇒平成9年9月に「都立高校改革推進計画」を策定し、新しいタイプの高校の設置、学区の撤廃などを推進 ・チャレンジスクール、エンカレッジスクールの課題 中途退学者の減少などの成果がある一方、進路が未決定のまま卒業していく生徒が未だ多く存在しているなどの課題も残っている。
--	--

	・課題解決に向けた今後の方向性 ○生徒の学習意欲向上に向けた方策 ○自立の基盤となる、「基礎学力の定着」「社会性の育成」 教育課程編成などの取組を多角的に検討し、必要な改善を順次実施
評価方法	評価なし
運営情報	文部科学省 東京都教育委員会 ※事例 1-03 と同じ
URL	https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/_i_csFiles/afieldfile/2012/03/21/1318690_03.pdf ※事例 1-03 と同じ

事例 1-04 文部科学省 東京都教育委員会提出資料より 東京都設定教科・科目 「奉仕」について

調査項目	内容
講座名	東京都設定教科・科目 「奉仕」について
受講対象者	高等学校 1 学年～3 学年
実施主体	全都立高校
実施形態	集合学習のみ(座学+実習)
使用教材	東京都教育委員会著作 準教科書「奉仕」と指導書
学習時間数	1 単位(35 時間)のうち 18 時間以上は「奉仕体験活動」を実施
講座内容	・目標 奉仕に関する基礎的・基本的な知識を習得させ、活動の理念と意義を理解させるとともに、社会の求めに応じて活動し、社会の一員であること及び社会に役立つ喜びを体験的に学ぶことを通して、将来、社会に貢献できる資質を育成する。 ・奉仕体験活動の取組事例 清瀬高校、荒川商業高校 ・教科「奉仕」の主な成果 (平成 22 年度 教科「奉仕」の実施状況調査：全都立高校対象) (1) 奉仕に関する基礎的・基本的な知識の習得 (2) 社会の一員としての自覚や規範意識の涵養 (3) 社会貢献の精神の醸成 ・教科「奉仕」体験後の生徒の自己評価 (平成 20 年度高等学校教育開発委員会調査：調査対象生徒 971 人)

	・課題と今後の方向性 課題 生徒の社会貢献意欲を一層高め、実際の行動に結び付けさせる取組を実施していく必要がある。 今後 自校の防災と、近隣住民の安全を支える高い社会貢献意識と実践力をもつ人間を育成 発災時に自分だけでなく身近な人を助けるなど、地域に貢献できる人間を育成
評価方法	評価なし
運営情報	文部科学省 東京都教育委員会 ※事例 1-03 と同じ
URL	https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/_i_csFiles/afieldfile/2012/03/21/1318690_03.pdf ※事例 1-03 と同じ

事例 1-05 EdvFuture 株式会社 生きる力を育む非認知能力成長支援サービス「EdvPath」

調査項目	内容
講座名	生きる力を育む非認知能力成長支援サービス「EdvPath」
対象分野	
受講対象者	中学校第 1 学年～ 3 学年および高等学校第 1 学年～ 3 学年
受講費用	生徒一人当たり月額 300 円(税抜)
実施主体	高等学校、専修学校
実施形態	
実施期間	
学習時間数	1 コマ 50 分×35 コマ
講座内容	「EdvPath」とは…生徒の非認知能力を可視化し、適正なコーチング・生徒管理ができる成長支援サービス。 特徴 ○クラウド上で生徒育成サポート 生徒の非認知能力や個性を一目で把握 クラウド上で生徒情報の管理ができます。 ・測定や評価が難しい非認知能力の数値化 ・他社とのデータ比較でフォローすべき生徒が明確に ・成績などの管理業務が効率化できる

	○コーチングで学校生活もサポート 授業外でも、生徒一人一人にあった適切なコーチングで、主体的な学びと自律的な進路選択を促します。 ・大学教授監修のコーチングプラン ・生徒に合わせてコーチングプランを割り当て ・コーチングの取り組み状況を確認できる ○探究学習運営サポート 「探究的な学習」の時間に活用できる！ 非認知能力向上のための授業内容を用意しています。 ・教育心理学をベースにした年間シラバスを用意 1コマ50分×35コマ ・全授業の指導案、教材を提供 煩わしい授業準備はなし ・オンライン、オフライン共に対応
評価方法	評価なし
運営情報	EdvFuture 株式会社
URL	https://lp.edvpath.jp/

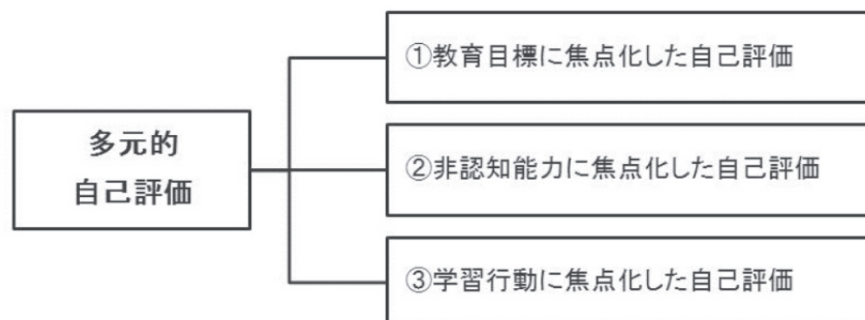
2. 専門学校・短期大学・大学での取組

事例 2-01 岡山大学 キャリア教育における多元的自己評価試論Ⅲ

調査項目	内容
文献名	キャリア教育における多元的自己評価試論Ⅲ－2017 年度の評価結果から－
対象者	大学1年生～4年生
実施主体	岡山大学
実施形態	集合学習のみ(座学)
学習時間数	多元的自己評価を用いた授業科目は2つあり、一つは「キャリア形成Ⅰ－コミュニケーション力に磨きをかける」であり、もう一つは「キャリア形成Ⅲ－企業を知り、業界を知る」である。 各授業科目は、いずれも60分を1回として、全15回のカリキュラムで構成されている。
内容	中山芳一(2016年)岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要第1号 「キャリア教育における多元的自己評価試論－非認知能力を手がかり

として－」を踏まえている。

【多元的自己評価の構成， p.128】



【本学におけるキャリア教育全体の教育目標， p.129】

キャリア教育全体の教育目標 (獲得・向上させたい力)			社会情動的スキル との関連性
i	人間関係を築くための力	自らの感情をコントロールしながら、他者とのコミュニケーションを豊かに取ることができる力	他者との協働 情動の制御
ii	課題を解決するための力	目の前の問題に気づき、その問題について自ら対応策を考え、主体的に行動して解決できる力	目標の達成 他者との協働
iii	社会や仕事に向かうための力	社会を知る中で職業観を形成し、将来的なビジョンを持つことで自分自身をマネジメントできる力	目標の達成 情動の制御

・要旨

岡山大学で開講しているキャリア教育関連授業科目の中で、2つの授業科目を選定して2016年度第4学期に多元的自己評価測定を行い、その結果からキャリア教育における教育効果測定には、多元的自己評価が有効であるという検証を試みた。

この多元的自己評価を活用して、2017年度にも同じ2つの授業科目へ同様の教育効果測定に取り組むことができた。そこで、2016年度と2017年度の年度間比較を行い、当該授業科目の教育効果を明らかにするとともに、年度間比較によって見えてきた課題と今後の改善点についても検討した。その結果、授業科目の基盤となるカリキュラムの確立が安定的な教育効果を生み出すとともに、年度ごとに変化する教育内容及び教育方法、受講生の属性の違いなどがもたらす教育効果の差異を見出すことができ、今後の改善につなげることが可能となった。また、多元的自己評価そのものについても成果と課題について検討した。

・研究の目的

	2017 年度の第 4 学期(2017 年 12 月から 2018 年 2 月)に開講した同様の授業科目についても同じ評価測定を実施することで、当該年度の授業科目に関する教育効果測定と 2016 年度との比較を行い、当該授業科目の成果と課題を明らかにするとともに、以降の授業改善にもつなげたい。そして、多元的自己評価方法のさらなる有効性についても検討したい。 ・ 2017 年度第 4 学期における多元的自己評価結果 1. キャリア形成授業科目における評価結果 2. キャリア形成 I における前年度との比較 ・ これまでの成果と今後の課題 1. 年度間比較から見てきた授業科目の成果と課題 2. 多元的自己評価に関する成果と課題
評価方法	自己評価に関しては、1 回目に受講学生の現状について前掲稿で提起した 3 領域(教育目標領域、非認知能力領域、意欲・姿勢領域)18 項目の設問による自己評価を行い、15 回目にも同様の設問項目に基づいて自己評価を行った。
運営情報	中山 芳一 岡山大学 全学教育・学生支援機構 准教授 岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要第 3 号(2018 年 12 月) 岡山大学高等教育開発推進室 岡山大学教育開発センター 岡山大学基幹教育センター 岡山大学学生総合支援センター 岡山大学グローバル・パートナーズ
URL	https://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/56592/20190404094912992139/biess_3_085_094.pdf

事例 2-02 江戸川大学の情報教育と環境より 問題解決力を育成するための情報リテラシー・キャリア教育

調査項目	内容
文献名	問題解決力を育成するための情報リテラシー・キャリア教育
対象者	具体的な就職先をイメージすることが必要なため既に 1 年次に幼稚園・保育所・施設での実習を経験し、就職を翌年度に控えた短期大学 2 年生
実施主体	短期大学

実施形態	集合学習のみ(座学)
学習時間数	90分授業5回分(事前に各自でスライド資料を読んだり、課された課題に取り組んできたりした上で授業に取り組むことを前提としている。)
内容	・ 要旨 私立大学情報教育協会が提案した「情報リテラシー教育のためのガイドライン」に基づき保育士のキャリアプランニング能力を育てるための授業案を提案した。「情報リテラシー教育のためのガイドライン」では、問題解決思考の枠組みを全学生に汎用的能力として身につけさせることを目標としている。保育士として長期的なキャリアを形成していくことは、各自が生涯にわたってより良い解を迫及する問題解決のプロセスであり、問題解決思考の枠組みを用いて取り組むことが有効であると考えられる。本稿で提案する授業案は、保育士養成校の学生を対象に、保育士としてのキャリア形成の第一歩である就職先選びを題材に扱い、問題解決思考の枠組みを用いて実際に就職先に関する情報を収集、整理しながら、保育士としてのキャリアを形成していく力を育てることを目指す。 ・ キャリアプランニングを高める授業案 私立大学情報教育協会が提案した「情報リテラシー教育モデル」に基づき、汎用的な力である問題発見・解決を思考する枠組みを修得した上(到達目標 A-1)で、その枠組みを利用した具体的な問題解決の例として、保育士養成校卒業後の就職先としてどのような職場を選択するのか(到達目標 A-2、A-3)を考え、意思決定できるようになるための授業案を提案する。 ○ 授業内容と対応する到達目標 1. 「よりよい職場」選びとは？ 使用スライド：問題解決の枠組みの説明 到達目標 A-1 2. 目標設定過程：「よい保育者」とは何か？ 到達目標 A-2 3. 目標設定過程②「よい職場」を考える 到達目標 A-2

	4. 解決策発想過程 到達目標 A-3 5. 合理的判断過程・最適化による解の導出過程 到達目標 A-3 ・まとめと今後の展開 今後、実際に授業実践を行い、受講生の就職後の離職率を調べる等、本授業案が保育士養成校の学生の就職先選びに有効であるのか検討する必要がある。また、本授業案によって高められた問題解決の枠組みを用いるキャリアプランニング能力は、卒業直後の就職先選びだけでなく、就職後、保育士として長期的にどのようなキャリアを形成していくのかを考え、意思決定する際にも有効であることを想定している。したがって、受講生を追跡し、就職後のキャリア形成の際にも、身につけた能力を活用できているのかどうか検討する必要があるだろう。
評価方法	評価なし
運営情報	松尾 由美 関東短期大学こども学科講師 松田 稔樹 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 江戸川大学情報教育研究所 学校法人江戸川学園 江戸川大学 雑誌名：江戸川大学の情報教育と環境(2019年3月30日発行)
URL	https://edo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=893&item_no=1&page_id=13&block_id=21

事例 2-03 群馬県立県民健康科学大学 学生の学習への主体性促進を意図した看護学教員の教授活動

調査項目	内容
文献名	学生の学習への主体性促進を意図した看護学教員の教授活動
対象者	全国の看護基礎教育課程を提供する大学、短期大学、専門学校に所属し、授業を担当する教員。
実施主体	全国の看護基礎教育課程を提供する大学、短期大学、専門学校
実施形態	集合学習のみ(座学+実習)
学習時間数	
内容	・研究目的

	学生の学習への主体性促進を意図した看護学教員の教授活動を明らかにし、その特徴を考察する。 ・ 方法 全国の看護系大学、短期大学、専門学校に所属し、授業を担当している教員 995 名を対象に、郵送法により質問紙を配布し、431 名(回収率 43.3%)から回答を得た。このうち、自由回答式質問に回答していた 421 名の記述を、Berelson,B.の方法論を参考にした看護教育学における内容分析を用いて分析した。 ・ 結果 【学生の思考が発展するように発問・質問する】など 32 カテゴリ(※)が形成された。 ・ 結論 学生の学習への主体性促進を意図した教員の教授活動を表す 32 カテゴリが明らかとなった。また、これら教授活動は《学生の理解促進と思考の発展を支援する》など 10 の特徴を示した。本研究の結果は、教員が自身の教授活動を客観的に評価し、学生の学習への主体性促進となる教授活動の継続や不十分な教授活動の改善を見出す資料となる。 ※学生の学習への主体性促進を意図した看護学教員の教授活動を表す 32 カテゴリ 1. 学生の思考が発展するように発問・質問する 2. 能動的に学習できる授業形態・学習形態を取り入れる 3. 授業展開時に教材・教具・教授技術を工夫する 4. 自ら思考し発言・行動するよう伝える 5. 学生自ら思考し発言・行動しやすい状況を作る 6. 授業の展開状況に応じた教授技術を用いて学習状況と成果を把握する 7. 当該科目の授業計画を説明する 8. 学習の手がかりとなる情報を提供する 9. 学習への取り組みと成果を認める 10. 授業前・後の学習課題を提示する 11. 目標達成状況に応じた個別の課題を学生に示す
--	--

	12. 学生自身が学習方法や内容を決定する機会を提供する 13. 学習の意義や必要性を説明する 14. 学習の進行状況に応じた学習方法を提案する 15. 学習方法や内容を一緒に考え実践する 16. 学生自ら学習状況と成果を評価する機会を設ける 17. 目標達成に不可欠な学習内容を強調する 18. 学習成果の評価結果を学生に示す 19. 学習成果を発表する機会を設ける 20. 授業時間外に自己学習の機会を設ける 21. 学習への動機付けを高めるように授業を計画する 22. 自己の行動に責任を持つよう伝える 23. 学生の発言を優先し考えを聴く 24. 看護の価値を伝える 25. 学生が自己の課題を明確にする機会を提供する 26. 予習できるよう事前に授業資料を配布する 27. 教員や実習指導者の支援が得られる機会を設ける 28. 学生の学習への要望に応じる 29. 学生の主体的学習を支援する自己の教授活動を評価する 30. 模範となるような主体的行動を学生に示す 31. 学習計画を実行できるように励ます 32. 卒業生の活躍を紹介する
評価方法	評価なし
運営情報	山口 幸恵 常磐大学 松田 安弘 群馬県立県民健康科学大学 山下 暢子 群馬県立県民健康科学大学 群馬県立県民健康科学大学(2017 年 3 月発行)
URL	https://gair.media.gunma-u.ac.jp/dspace/bitstream/10087/11191/1/02_Yamaguchi.pdf

事例 2-04 名古屋学院大学論集 社会科学篇より キャリア教育科目におけるコミュニケーション能力の育成に関する一考察

調査項目	内容
文献名	キャリア教育科目におけるコミュニケーション能力の育成に関する一考察～名古屋学院大学での授業実践を通して～
対象者	名古屋学院大学生
実施主体	名古屋学院大学

実施形態	集合学習のみ(座学)
学習時間数	
内容	・ 要旨 本学は、2019 年 6 月に発表された企業の人事担当者を対象にした経済紙調査にて、「対人力」側面で高評価を得た。そこで、本論では、本学のキャリア教育科目がコミュニケーション能力の育成において一定の成果を収めたと仮定し、その上で当該科目について、実施までの経緯、コースデザイン、シラバス等についてレトロスペクティブに整理・確認した。検討の結果、一瞥上は新奇な内容はないものの、コミュニケーション能力の育成に有益な要素として、「表層的取り組みとしての『コミュニケーション機会への曝露(exposure)』」と「深層的取り組みとしての『教員による関係性構築』」の 2 つの特徴を見出した。 ・ 目的 2013・2014 年当時の〈キャリアデザイン〉が、社会で通用するようなコミュニケーション能力の育成において一定の成果を収めたと仮定し、もしそうであるのならば、どのような取り組みが有益であったかについて、レトロスペクティブな解明を試みることを目的とする。 ・ 科目構成 キャリアデザインに関わる基礎的素養の修得を目指す 1 年生対象の指定科目〈1a・1b〉、その応用編で 2 年生以上対象の選択科目〈2a・2b〉、そして、就職活動のための実践スキル獲得を目指す 3 年生以上対象の指定科目〈3a・3b〉である。 ・ コースデザインの基本方針 1. 最重要目標としてのコミュニケーション能力の育成 2. 講義＋グループワークによる授業展開 3. ゲストスピーカーと SA の登用 ・ キャリアデザイン概要 ○ 〈1a・1b〉 2013 年度の授業スケジュール記載有 学習目標 〈1a〉 1. 「キャリア」に関する基本的事項を理解している。

	2. コミュニケーションにおける「自己開示」や「傾聴」の重要性を理解し、それらの資質向上に向けて努力することができる。 3. 「大学4年間のキャリア形成」について主体的な問題意識を持ち、それを解決のための行動につなげることができる。 〈1b〉 1. 現代社会における多様な「働き方」の現状を理解し、それに対する自分なりの見解を持っている。 2. 企業のしくみやそこで働くにあたり必要になる資質について理解している。 3. キャリアを能動的に形成していこうとする“構え”を身につけている。 ○ 〈2a・2b〉 2013年度の授業スケジュール記載有 学習目標 〈2a〉 1. キャリアに関して、他者と協同して情報、意見交換ができる。 2. 結果を、自分なりの問題意識に反映することができる。 3. これらの経験を、自分自身のアイデンティティ形成に能動的につなげることができる。 〈2b〉 1. 企業組織やそこで働く人々について、多様かつ現実に応じた検討視点を持つことができる。 2. 必要な情報を他者と協同して収集、探索し、上記で設定された課題解決に活用することができる。 3. その結果を、適切な技法と態度を用いて、分かりやすくプレゼンテーションすることができる。 ○ 〈3a・3b〉 2013年度の授業スケジュール記載有 学習目標 〈3a〉 就職活動において大多数の企業で必須である筆記試験対策(SPI など)を中心に学習し、就職活動における筆記試験を通過できる知識習得を
--	--

	目標とする。 〈3b〉 就職活動に実際に必要な知識、表現力を習得する。具体的には、社会人として必要と言われている会話力、文章力、思考力を磨くことから始め、社会で必要とされる人材となるための「働く意味」を考えさせることを目標とする。 ・表層的取り組みとしての「コミュニケーション機会への曝露」 ・深層的取り組みとしての「教員による関係性構築」 1. 学生との関係性構築 2. 教員間の関係性 3. 授業外リソースとの関係性 ・まとめと今後の課題
評価方法	評価なし
運営情報	名古屋学院大学 現代社会学部 安藤 りか (2020 年 01 月 31 日発行)
URL	https://ngu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1245&item_no=1&page_id=13&block_id=49

3. 歯科衛生コースを持つ高等学校や高大連携の教育内容

事例 3-01 学校法人平松学園 大分東明高等学校 歯科衛生コース(普通科)

調査項目	内容
学校名	大分東明高等学校
所在地	大分県大分市
コース名	歯科衛生コース(普通科)
人数	40 名(女子)
学習時間数	
コース内容	大分東明高等学校には、個性や能力、希望進路に合わせて 9 つのコースがある。 歯科衛生コース(普通科) 高校卒業とともに日本歯科医師会認定の歯科助手の資格が取れるコース。 ○資格という強み+卒業後の進路選択に幅

	授業は歯科助手のための専門教科がカリキュラムに組み込まれているが、基本的には一般の普通科と同じで、一般大学や短大、専門学校への進学も可能。 卒業後の進路選択にも幅ができ、可能性が広がる。 ○スペシャリストによる指導 専門授業は、平松学園併設の「大分歯科専門学校」のスタッフが行う。専門家による授業は具体的、実際的でわかりやすく、歯科衛生への関心を高めてくれる。 ○資格は財産 秘書検定の取得には、電話対応や人との接し方など「接遇」の授業や実習を通して学んだことを活かすことができるという、本コースならではの利点がある。
進路実績	・進学 (京都大学、山口大学、久留米大学、福岡大学 他)
運営情報	学校法人平松学園 大分東明高等学校 ※東明高校の現役卒業生は、本学園併設の大分歯科専門学校への進学の場合は、入学金(24万円)が免除となる。 大分歯科専門学校〈本学園併設〉 …歯科助手の上級資格である歯科衛生士(国家試験)の学校
URL	https://www.hiramatsu.ac.jp/

事例 3-02 学校法人大淀学園 鵬翔高等学校 ぐらしの科学科 医療歯科コース

調査項目	内容
学校名	鵬翔高等学校
所在地	宮崎県宮崎市
コース名	ぐらしの科学科 医療歯科コース
人数	ぐらしの科学科(医療歯科コース・商業情報コース)60名 ※医療歯科コースは女子のみ
学習時間数	
コース内容	鵬翔高等学校には、5つの学科があり、ぐらしの科学科は医療歯科コースと商業情報コースに分かれている。 ぐらしの科学科 医療歯科コース 医療人としての基礎について学びながら、歯科についての専門的な知識・技術を磨く。

	・学科の特色 宮崎県歯科医師会【歯科衛生士・歯科技工士】 宮崎歯科技術専門学校 5 年連続 100% 合格。 1. 「歯科助手」として現場で生きる知識とスキルの即戦力を養成 2. 実践力アップのための校内実習が充実 ○医療福祉で活躍する人材を育てる県内唯一のコース 歯科医師の先生や、歯科衛生士と連携し、授業を行っている。 県内の歯科医院と密接に連携をとり、実習先としての受け入れはもちろん、歯科医師による講義もある。 また、歯科衛生士として現場で活躍している本校の卒業生や、歯科技術専門学校に進学した卒業生による体験談を聴く機会も設けている。 ○校内には歯科実習室があり、実際の歯科医院と同じ機材を導入 歯科実習は 1 年次から始まる。3 年次では、歯科基礎実習に加えて、臨地実習として歯科医院へ赴き、現場で経験を積む。 ・取得を目指す資格一覧 商業系資格…珠算・電卓実務検定、情報処理検定、ビジネス文書実務検定 ビジネス系資格…サービス接客検定 一般的な資格…実用英語技能検定、日本漢字能力検定、硬筆書写検定
進路実績	※就職・進学率 100% ・進学 (宮崎産業経営大学(法学部・経営学部)、南九州短期大学、精華女子短期大学、福岡医療短期大学、宮崎歯科技術専門学校、日本医歯薬専門学校、宮崎看護専門学校、宮崎医療管理専門学校 他) ・歯科医院への就職 ・一般企業への就職
運営情報	学校法人大淀学園 鵬翔高等学校(鵬翔中学校)中高一貫校 併設校：宮崎産業経営大学(法学部・経営学部) 下記項目のいずれかに該当する受験生は、専願・併願ともに入学検定料 10,000 円免除。 英検 3 級/漢検 3 級/数検 3 級/理検 3 級/歴検 4 級/生徒会会長、副会長 鵬翔高等学校では、併設校である宮崎産業経営大学へ特別入試制度を利

	用して進学することができる。 鵬翔高等学校から入学した場合、入学金 200,000 円・受験料 30,000 円全員免除。 鵬翔高校生・特別特待生の場合は、授業料 4 年間 2,400,000 円免除。
URL	https://www.hosho.ed.jp/

事例 3-03 学校法人樺蔭学園 聖光高等学校 総合ビジネス科 医療ビジネスコース

調査項目	内容
学校名	聖光高等学校
所在地	山口県光市
コース名	総合ビジネス科 医療ビジネスコース
人数	総合ビジネス科(医療ビジネスコース・情報ビジネスコース)40 名、うち AO は 10 名程度。※医療ビジネスコースは女子のみ。
学習時間数	各学科に共通する教科科目(国語、数学、理科等)に加え、主として専門学科において開設される各教科科目がある。 1 年次：歯科助手知識 1 単位 歯科器材及材料 1 単位 歯科基礎実習 1 単位 2 年次：歯科基礎概論 2 単位 歯科臨床概説 2 単位 歯科基礎実習 1 単位 看護一般 1 単位 3 年次：臨床実習 3 単位
コース内容	聖光高等学校には 3 つの学科があり、総合ビジネス科は、医療ビジネスコースと情報ビジネスコースに分かれている。 総合ビジネス科 医療ビジネスコース 歯科助手資格が取得できる中国地方唯一のコース。 全国でも数少ない、高校卒業時に甲種歯科助手資格が取得できる。 ・取得可能資格 (日商簿記検定、全商簿記検定、全商情報処理検定、全商ビジネス文書実務検定、甲種歯科助手資格、全商珠算・電卓検定)
進路実績	・進学 (福岡医療短期大学、福山歯科衛生士学校、IGL 医療福祉専門学校、山口県高等歯科衛生士学院 他) ・歯科医院や一般企業への就職

運営情報	学校法人櫛蔭学園 聖光高等学校
URL	https://www.seiko-h.ed.jp/

事例 3-04 学校法人西日本短期大学 西日本短期大学附属高等学校 特進 看護医療進学
コース

調査項目	内容
学校名	西日本短期大学附属高等学校
所在地	福岡県八女市
コース名	特進 看護医療進学コース
人数	特進(選抜、看護・医療進学、総合進学)コース 50 名
学習時間数	
コース内容	西日本短期大学附属高等学校は、なりたい自分を創造する 6 コースが揃っている。 特進 看護・医療進学コース 看護・医療系大学・短期大学・高専への進学を目指すクラス。 教育環境の整った「立志館」で大学専門学校進学に必要な 5 教科の学習を中心に行う。また、実習・講義・医療現場の実情を理解するための実践教育等にも力を注ぐ。 久留米市にある「久留米ゼミナール」と連携し、「久ゼミ講座」(英・数・国の 3 講座を各 30 回)を行っている。 ○1 年次・2 年次 一般教科＋チーム看護・医療講座＋1 日病院体験 ○3 年次 一般教科＋小論文・面接対策講座＋1 日病院体験 ・主な訪問先 (帝京大学、九州看護福祉大学、久留米歯科衛生専門学校 等) ・取得可能な資格、検定 (英語検定、漢字検定、数学検定、ワープロ検定、情報処理能力検定、歯科助手認定、医療請求事務能力検定 等)
進路実績	・進学 (福岡大学、福岡看護大学、久留米大学、国際医療福祉大学 他) ・一般企業等へ就職

運営情報	学校法人西日本短期大学 西日本短期大学附属高等学校 ・西日本短期大学への優待入学制度 ○9月実施の西短大奨学生・特別入試で合格した者は減免制度あり ○受験料1万円免除 ○往復無料高速通学バス運行
URL	https://www.nishitan.ed.jp/

事例 3-05 学校法人岩手女子奨学会 岩手女子高等学校 普通科 医療系進学コース

調査項目	内容
学校名	岩手女子高等学校
所在地	岩手県盛岡市
コース名	普通科 医療系進学コース
人数	普通科 120名
学習時間数	
コース内容	岩手女子高等学校には3つの学科があり、医療系進学コース・文系進学コース・総合コースに分かれている。 普通科 医療系進学コース ・特色 ○医療系への幅広い進路選択が可能 薬剤師、看護師、作業療法士、歯科衛生士、栄養士、管理栄養士等 ○医療系の学校へ進学 岩手医科大学、岩手リハビリテーション学院、岩手看護専門学校等 ・カリキュラム(2～3年次) ○2年次 論理国語/文学国語/古典探究/公共/数学Ⅱ/数学B/物理基礎/生物/体育/保健/英語コミュニケーションⅡ/論理・表現Ⅱ/総合的な探究の時間 ○3年次 論理国語/文学国語/古典探究/地理総合/政治・経済/数学探究α/数学探究β/化学/体育/英語コミュニケーションⅢ/コンピュータ活用/総合的な探究の時間
進路実績	・進学 (岩手医科大学、岩手リハビリテーション学院、岩手看護専門学校、岩手医科大学医療専門学校 他)

	・就職
運営情報	学校法人岩手女子奨学会 岩手女子高等学校
URL	http://www.iwatejoshi-h.ed.jp/index.html

4. 歯科衛生士学科との連携による高大連携の高等学校での教育内容

事例 4-01 学校法人梅花学園 梅花高等学校 アドバンスコース 医療看護専攻

調査項目	内容
学校名	梅花高等学校
所在地	大阪府豊中市
コース名	アドバンスコース 医療看護専攻
人数	リベラルアーツ・アドバンスコース約 280 名 ※募集人員には内部進学者約 70 名及び帰国子女を含む。
学習時間数	各学科に共通する教科科目に加え、2・3 年次それぞれに看護特別講座 2 単位が組み込まれている。
コース内容	高等学校で何を学びたいかに主眼をおいた、リベラルアーツコース(6 つの専攻)、アドバンスコース(2 つ)の専攻を設置。 アドバンスコース 医療看護専攻 ・ポイント 1. 国語・英語・数学に重点を置いたカリキュラム 3 年次では現代文 6 単位で国語力を身につける。また、看護系予備校講師による特別講座も実施。 2. 専門分野の講義でモチベーションを高める 現役医師による週 1 回の講義や、現役看護師、救命救急センターの医師など外部講師による講義を受講することにより、看護師の仕事だけでなく、さまざまな職種と一緒にチームで働くことの大切さを学ぶ。 3. 医療関連施設を見学・体験 1 年生は赤十字血液センターを見学。また、救命講習を受講し、普通救命講習修了証を取得する。 2 年生は近畿ブロック血液センターを訪れ、献血や輸血事業について詳しく学ぶ。 4. 小論文の指導 自らの考えを論理的に人に伝える力を鍛える。 学年が進むのに合わせてステップアップできるように、小論文模

	試を繰り返し受験し確実に書く力を身につける。 ○実習ノート 実習ノートを梅花の授業プログラムに合わせて作成、梅花女子大学教員による授業や見学レポート、看護体験レポートなど講義や体験の記録をとる習慣を身につけ、文章表現力を磨く。 ・高大連携 ○梅花女子大学の看護学科、口腔保健学科と連携。 最新設備を備える梅花女子大学の演習室・実習室で看護師と歯科衛生士の仕事を体験できる。 2・3 年次医看護保健学部看護学科と口腔保健学科の教員から指導を受ける。3 年生では、毎週土曜日の授業は大学に行くことにより専門的な学びへ不安なく臨める環境を用意している。
進路実績	・進学 (大阪大学、山口大学、横浜国立大学、梅花女子大学、京都薬科大学 他) ・指定校推薦入試枠 (関西大学、同志社大学、立命館大学 他)
運営情報	学校法人梅花学園 梅花中学校・梅花高等学校 ※中高一貫校 梅花女子大学看護学科・口腔保健学科への優先的な学内推薦枠がある。 学内推薦の特典として、入学検定料や入学金の免除、梅花高校での成績により梅花女子大学の授業料免除などの特待生制度がある。
URL	https://www.baika-jh.ed.jp/

5. 歯科衛生士養成校(学科)における社会人基礎力の教育内容

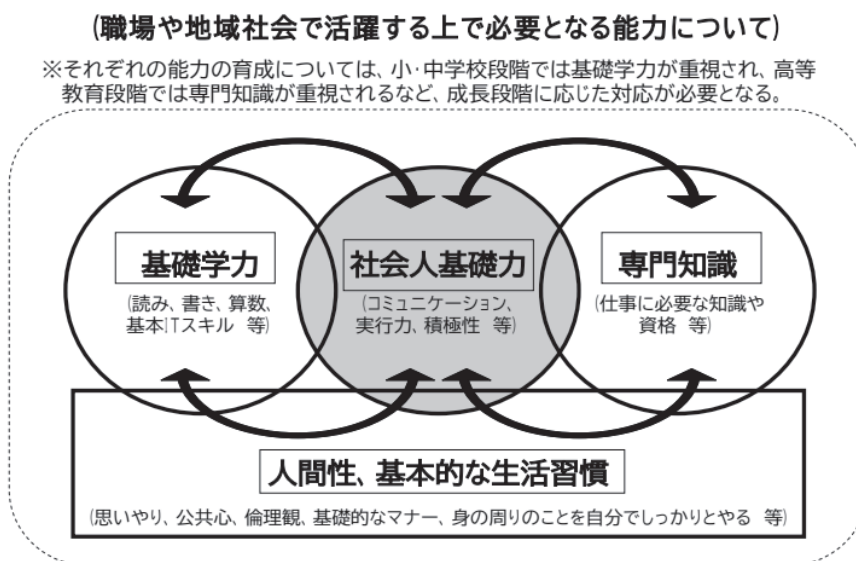
全国の歯科衛生士養成校(学科)の一部においては、経済産業省がその向上を謳う「社会人基礎力」の育成に取り組んでいる。社会人基礎力は、非認知能力の一部として整理されていることから(日本生涯学習総合研究所、2020)、先行事例を検討した。以下に、まず社会人基礎力の定義を示し、ホームページ上で社会人基礎力に関する教育内容の記載が確認できた例を示す。

◎経済産業省 人生 100 年時代の社会人基礎力(定義)：経済産業省ホームページより

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。

「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006年に発表した「社会人基礎力」はむしろその重要性を増しており、有効ですが、「人生100年時代」ならではの切り口・視点が必要となっていました。こうした状況を踏まえ、平成29年度に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」において、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。社会人基礎力の3つの能力／12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション(振り返り)しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられます。

経済産業省「社会人基礎力に関する研究会-中間取りまとめ-」(平成18年1月)より



(社会人基礎力の能力要素)

分 類	能力要素	内 容
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力 例) 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む。
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力 例) 「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。
	実行力	目的を設定し確実に行動する力 例) 言われたことをやるだけでなく自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力 例) 目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 例) 課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、「その中で最善のものは何か」を検討し、それに向けた準備をする。
	創造力	新しい価値を生み出す力 例) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力 例) 自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力 例) 相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す。
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力 例) 自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する。
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 例) チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する。
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力 例) 状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する。
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力 例) ストレスを感じることがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する。

内閣府「人間力戦略研究会報告書」(平成 15 年 4 月)より

人間力の定義

- ①「基礎学力(主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力)」「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」「創造力」などの知的能力的要素
- ②「コミュニケーションスキル」「リーダーシップ」「公共心」「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」などの社会・対人関係力的要素
- ③これらの要素を十分に発揮するための「意欲」「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」などの自己制御的要素

URL

「人生 100 年時代の社会人基礎力」と「リカレント教育について」経済産業省 産業人材政策室

https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180319001_3.pdf

文部科学省 キャリア教育・職業教育特別部会第 30 回配布資料より 資料 2-3.参考資料(データ集)2

https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/c_hukyo10/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2010/12/08/1299768_4.pdf

内閣府「人間力戦略研究会報告書」(平成 15 年 4 月)

<https://www5.cao.go.jp/keizai1/2004/ningenryoku/0410houkoku.pdf>

事例 5-01 学校法人穴吹学園 穴吹カレッジグループ 穴吹医療大学校 歯科衛生学科

調査項目	内容
学校名	穴吹医療大学校
所在地	香川県高松市
受講対象者	歯科衛生学科 1～3 年生
講座名	複数にわたるため、実施形態に記載
実施形態	人間関係論：演習 心理学：講義 文章表現法：講義 英語コミュニケーション：講義
学習時間数	人間関係論：2 単位(60 時間) 30 回×90 分 心理学：1 単位(16 時間) 8 回×90 分 文章表現法：1 単位(16 時間) 8 回×90 分 英語コミュニケーション：2 単位(30 時間) 15 回×90 分
講座内容	カリキュラム 1 年次 前期 ○人間関係論 ・授業のねらい 患者と向き合い、不安や緊張を安心へと導くコミュニケーションの基本知識と実践力を身につける。 教育理念であるホスピタリティ(おもてなしの心)実現に向けた土台作りをする。 1 年次 後期

	○人間関係論 ○心理学 ・授業のねらい 良好な対人関係を構築するために、基本的な知識と人の一生の間に生じるさまざまな心理・行動上の変化である発達について、理解を深める。 2 年次 前期 ○文章表現法 ・授業のねらい 社会人基礎力と多様な思考力を形成することを目指す。適切な表現方法を実際に考えることで、社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することをねらいとする。日本語の適切な表現法を点検し語彙力を増やすことで、実習日誌などに必要となる学術的表現や読み手の理解と共感を得るための書き方ができるような基本的知識と文章作成力を身に付ける。 2 年次 後期 ○英語コミュニケーション ・授業のねらい 歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。 3 年次 前期 ○社会人基礎教育 ・内容 円滑な就職活動のために社会人としての基本的マナーや、主体的に自己のキャリアデザインに取り組む姿勢を身につける。
評価方法	心理学 1)科目終了時の最終試験の評価：90% 2)出席率：10% 人間関係論 1)授業評価・レポート評価：100% 文章表現法

	指示した日時までに課題レポートを提出しなければ評価を受けることができない。 1)課題レポート内容：90% 2)出席率：10% 英語コミュニケーション 1)科目終了時の最終試験の評価：60% 2)授業態度：30% 3)出席率：10% ※学習に主体的に参加すること
運営情報	学校法人穴吹学園 穴吹カレッジグループ 穴吹医療大学校
URL	学校法人穴吹学園 穴吹カレッジグループ https://web.anabuki-college.net/ 歯科衛生学科カリキュラムブック https://web.anabuki-college.net/content/uploads/a8ce86dea7e2b580e33dcb12c3c96d76.pdf 1 年生シラバス https://web.anabuki-college.net/content/uploads/shika1.pdf 2 年生シラバス https://web.anabuki-college.net/content/uploads/shika2.pdf 3 年生シラバス https://web.anabuki-college.net/content/uploads/shika3.pdf

事例 5-02 学校法人大垣総合学園 大垣女子短期大学 歯科衛生学科

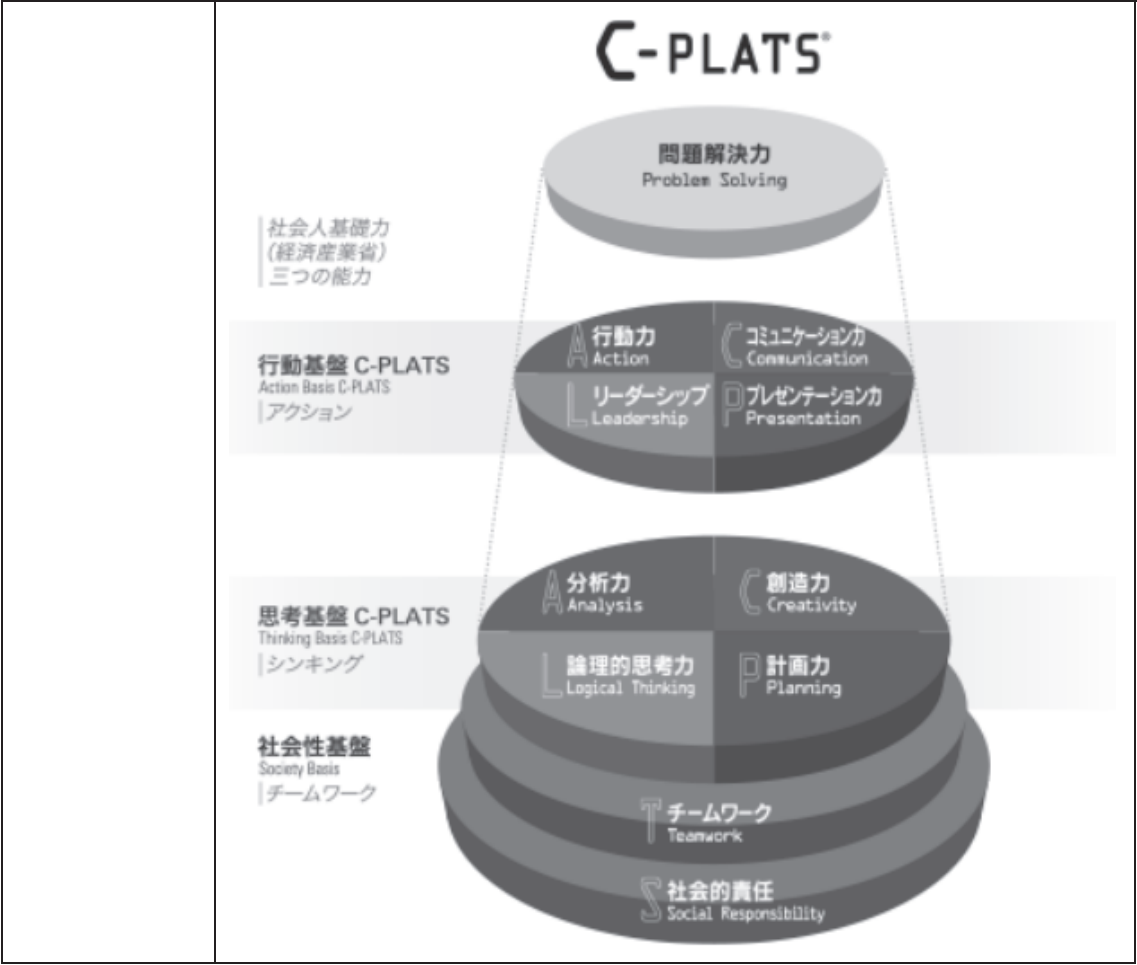
調査項目	内容
学校名	大垣女子短期大学
所在地	岐阜県大垣市
受講対象者	歯科衛生学科 1 年生
講座名	教養・キャリア基礎演習
実施形態	演習
学習時間数	教養・キャリア基礎演習Ⅰ：1 単位(30 時間) 教養・キャリア基礎演習Ⅱ：1 単位(30 時間)
講座内容	ホームページに「教養・キャリア基礎演習」について謳われている。 1 年生の 6～7 月に「教養・キャリア基礎演習」で、幅広い教養や社会人基礎力を身につける。“スーツの着こなし”を専門家から学び、美しい装いとマナーを身につけ、日本の伝統文化を学ぶために“ゆかたの着付け

	にも挑戦する。 ○教養・キャリア基礎演習Ⅰ ・授業のねらい 本学の建学の精神と教育方針に沿った学修成果の達成に向けて、受講生が主体的に学び、幅広い視野を持ち知的基盤等を教養として身につけるようにします。その基礎となる短期大学での学び方や人間の理解を中心に、学問的知識・技能や思考方法、社会人となるための知識・行動様式などを学んでいくための基本的内容を総合的に理解することを目的とします。 ○教養・キャリア基礎演習Ⅱ ・授業のねらい 社会人として自立していくための基本的な知識や技能、一般常識を学び、社会人に求められる望ましい就業観・勤労観を身につけていきます。また、社会性と協調性の基本となる行動様式を身につけ、考える力とコミュニケーション能力を養います。
評価方法	教養・キャリア基礎演習Ⅰ 学修ノートの記録、発表(欠席した場合、レポート作成を課す)、受講態度(課題提出状況)で評価。 学修記録ノート：30点 発表内容：10点 発表技術：10点 受講態度：50点 教養・キャリア基礎演習Ⅱ 学修記録ノートは、受講内容要約と考察の記入内容を評価します。 日本語能力検定の結果も授業態度に含めます。 第15回教養・キャリア基礎演習Ⅱのまとめを欠席した場合は、発表に準じた課題があります。 全授業の1/3以上欠席の場合、単位を与えません。 受講態度：40点 学修記録ノートの記述：50点 発表：5点 レポート作成：5点
運営情報	学校法人大垣総合学園 大垣女子短期大学

URL	大垣女子短期大学ホームページ https://www.ogaki-tandai.ac.jp/ 教養・キャリア基礎演習Ⅰ・Ⅱシラバス https://portal.ogaki-tandai.ac.jp/mfufg_s2/view/Syllabus12310.xhtml
-----	--

事例 5-03 学校法人大手前学園 大手前短期大学 歯科衛生学科

調査項目	内容
学校名	大手前短期大学
所在地	兵庫県西宮市(さくら夙川キャンパス)
受講対象者	歯科衛生学科
講座名	複数にわたるため、実施形態に記載
実施形態	キャリアデザイン：講義 フォーラム A・B：講義 ストレスマネジメント演習：演習
学習時間数	キャリアデザイン：15 回 フォーラム A・B：各 15 回 ストレスマネジメント演習：15 回
講座内容	能力開発型教育 【大手前大学が独自に開発した「10 の問題解決能力」=C-PLATS®】 本学は、卒業生が社会に貢献できる価値ある人材として受け入れられる教育をめざしています。社会に貢献できる価値ある人材とは問題解決能力を備え、困難な問題を解決して価値を生み出す人材です。 本学では、この問題解決能力を発揮するために必要な 10 のチカラを設定し、その頭文字をとって C-PLATS®と名付けています。 本学で開講されるすべての科目は、この 10 の問題解決能力が修得できるよう設計されています。 すなわち本学で学ぶ学生は、自分の興味や関心、将来目標に合わせた授業を履修していくなかで、自ずと問題解決能力を身につけることができるのです。



Competency (能力)		Definition (定義)
Action Basis	Problem Solving	社会において困難な問題を解決してビジョン(目標)を達成する能力
	Communication	他者と知識・情報、思考、意志、感情等を交換し共通の理解を深める能力
	Presentation	アイデアや計画を効果的に説明し、聞き手の理解・共感を得たり、説得することができる能力。
	Leadership	集団・組織を統率してメンバーに影響を及ぼし、その問題を解決して目的を達成する能力
	Action	迅速で的確な意思決定とその実行により、問題を解決してミッション(達成目標)をやり遂げる能力
Thinking Basis	Creativity	独自の発想を生み出し、形にする能力
	Planning	目標に効率よく到達するための方法や手順を考えて、やり遂げる能力
	Logical Thinking	物事を思考の形式に従って筋道立てて考察し論証する能力
	Analysis	課題となる物事や事象に対して論点や問題点を明確にする能力
Society Basis	Teamwork	集団・組織の一員として目的を共有し、協働して問題を解決する能力
	Social Responsibility	社会的責任を果たす必要性を理解し、自らの人生の理念によって社会に貢献しようとする意志

C-PLATS®を修得するための大きな2つの仕組み
PBL(問題解決型学修)+SDL(自己主導型学修)
教員の指導に頼らず、自ら問題点・疑問点を見つけ、自ら調べて分析・考察を重ねていく。さらに、レポートやプレゼンテーションの資料に自分なりの考えをまとめ、調査研究発表・ディベート・ディスカッションを展開する。これがPBL+SDL 授業です。本学では、全科目において講義形式の授業とPBL+SDL 授業をバランスよく配置しています。
PBL+SDL 授業を重ねることで、自己の成長を実感しながら、社会で問題解決力を発揮するために必要となる10の能力、C-PLATS®を身につけられます。また、PBL+SDL 授業を反復・継続することで「行動できる力」を養うことができます。

	コア教育プログラム すべての学生が各学年の必修科目として「コア科目」を学びます。コア科目は人生における「学びの方法」を修得するものです。言い換えると、学び方を学ぶのです。高校までの学びは「教わる学び」が中心でした。大学から社会人における学びは目的と目標を持ち、それに向かって自ら思考し、計画を立てて行動して目標達成を積み重ねるものです。その思考と行動の積み重ねが思考力や行動力を高め人格を形成していくのです。 コア科目の例としてキャリアデザインなどがある。 ○キャリアデザイン (C-◎ P-◎ L-◎ A-◎ T-◎) ・授業のねらい 職業観を涵養し、卒業後に職業をもって自立することの必要性を理解する。また、キャリア形成に関わる基本的な知識を修得し自らのキャリアデザインを構想する。 くわえて、タクナルメソッドを活用することにより、主体性、チームワーク、問題解決力を養成し、グループワークやその発表を通じてコミュニケーション能力をはじめとする汎用的能力の向上を図る。 その他にも、社会人基礎力をつける授業が組み込まれている。 ○フォーラム A (C-◎ P-◎ L-◎ A- T-◎) ・授業のねらい フォーラム A では、高校から大学への移行を円滑に行えるよう支援するとともに、自らのキャリア育成のために必要な力をつけることを目的とする。教員とのコミュニケーションを通して、履修指導、論文・レポートの書き方、基礎学力のサポート、マナー指導、進路相談などの他、学生同士の交流、学生生活を送る上での相談にも応じる。 ○フォーラム B (C-◎ P-◎ L-◎ A- T-◎) ・授業のねらい フォーラム B では個人のキャリア形成に焦点をあて、その実現化に
--	---

	つないでいく。フォーラム A に引き続き、教員とのコミュニケーションを通して、履修指導、基礎学力のサポート、マナー指導、就職を含む進路相談などの他、学生同士の交流、学生生活を送る上での相談にも応じる。 ○ストレスマネジメント演習 (C-◎ P-◎ L-◎ A-◎ T-◎) ・授業のねらい 「ストレスマネジメント教育」の視点から、ストレス概念の理解、ストレス反応に対する気づき、ストレス対処法の習得・活用を目的とする。現代社会は、家庭・学校・職場・地域などにおいて、様々な問題を抱え、ストレスの増大が心身の健康に影響を及ぼしている。近年、これら増え続けるストレス関連問題を「予防」の観点からとらえた「ストレスマネジメント」が注目され、健康教育としての「ストレスマネジメント教育」の必要性も高まっている。ストレス対処法については、リラクセーション法を体験的に学習する。
評価方法	キャリアデザイン 課題提出・作文：30% 授業の取り組み姿勢、チームビルディングの貢献度：30% グループ発表：10% 期末試験：30% フォーラム A・B 平常点：60% 期末試験：40% この科目は合否の2段階評価である。 上記平常点にはレポート提出・プレゼンテーションも含む。 ストレスマネジメント演習 授業への取り組み姿勢：30% 【評価基準】受講態度、授業内発表等の参加意欲について評価を行う。 授業内課題：30% 【評価基準】各回授業内容の理解度について評価を行う。 授業課題：20% 【評価基準】学習した主な授業課題の理解度について評価を行う。 期末レポート：20%

	【評価基準】ストレスマネジメントに関する文献の読解力とレポート作成能力について評価を行う。
運営情報	学校法人大手前学園 大手前短期大学
URL	大手前短期大学ホームページ https://college.otemae.ac.jp/ 大手前短期大学シラバス http://sb.otemae.ac.jp/syllabus/SyllabusSearch.aspx

事例 5-04 学校法人東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校 歯科衛生士科

調査項目	内容
学校名	新東京歯科衛生士学校
所在地	東京都大田区
受講対象者	新東京歯科衛生士学校
講座名	複数にわたるため、実施形態に記載
実施形態	■歯科衛生士科Ⅰ部 歯科英語：講義 国語表現法：講義 カウンセリング学：講義 コミュニケーションスキルアップ検定：講義 手話：講義 国内国際性講座：講義・演習 ■歯科衛生士科Ⅱ部 キャリアデザイン講座Ⅰ：講義 患者接遇教育：講義 歯科英語：講義 手話：講義 カウンセリング学：講義
学習時間数	■歯科衛生士科Ⅰ部 歯科英語：1単位(15時間) 国語表現法：1単位(15時間) カウンセリング学：1単位(15時間) コミュニケーションスキルアップ検定：2単位(30時間) 手話：1単位(15時間) 国内国際性講座：1単位(15時間)

	■ 歯科衛生士科Ⅱ部 キャリアデザイン講座Ⅰ：2 単位(30 時間) 患者接遇教育：1 単位(15 時間) 歯科英語：1 単位(15 時間) 手話：1 単位(15 時間) カウンセリング学：1 単位(15 時間) キャリアデザイン講座Ⅴ：1 単位(15 時間)
講座内容	新東京歯科衛生士学校には歯科衛生士科Ⅰ部とⅡ部に分かれている。 歯科衛生士科Ⅰ部…昼間部 3 年制 週 4 日登校で月曜日は自分の好きな時間割を組む 養成目的…社会人基礎力とコミュニケーション力を兼ね備え、歯科医療チームの一員として活躍できる歯科衛生士となる。 歯科衛生士科Ⅱ部…夜間部 3 年制 週 4 日登校で臨地実習は夜間に行う。 新東京独自の学習システム「新東京スマホキャンパス」を利用し、スマホ学習も可 養成目的…社会人基礎力とコミュニケーション力を兼ね備え、多職種と連携して活躍できる歯科衛生士となる。 ■ 歯科衛生士科Ⅰ部 1 年生 ○ 歯科英語 ・ 授業のねらい 実際に歯科クリニックで使用される英会話を扱ったテキストを読み、聞き取り、発音することによって、歯科衛生士として知っておくべき実用的な英語知識・能力に磨きをかけること。将来、英語を勉強しなければならない状況が生じることを予想し、どのように英語を独学すれば良いかという方法論を自分で探し出すことができるようになること。 ・ 科目概要 基本的な英語力を身につけ、英語でコミュニケーションが図れるように理解を深める。 ○ 国語表現法

	・授業のねらい 生活するうえで、また社会人として大変重要な国語力を高めることができるようになる。 ・科目概要 人と話すときに大切なボキャブラリー、読解力、文章を書く力、伝える力などがスムーズに行えるように練習を繰り返し行う。 双方向の会話ができるようになり、相手の気持ちを考えて、信頼関係が築けるようになるために国語力を習得する。 文章を読んで、相手の意図を理解し、それに対して求められるリアクションを言葉もしくは行動で返すことができる力を身につける。 ○カウンセリング学 ・授業のねらい 社会に出て役に立つ考え方を学び、身に着け実践できるようになる。自分の心を守り、周りの力になり、最大の結果を出せるチームの一員になれるようになる。 ・科目概要 心の健康を健全な状態にできるコミュニケーションを学び、身につける。 ○コミュニケーションスキルアップ検定 ・授業のねらい 社会に出て役に立つ考え方を学び、身につけ実践できるようになる。 ・科目概要 自分の心を守り、周りの力になり、最大の結果を出せるチームの一員になれるようになる。 ○手話 ・授業のねらい 手話の基本技術を修得し、聴覚障害の患者様の対応ができるようになる。 ・科目概要 コミュニケーション方法の一つとして手話の基本技術を習得し、聴覚障がいについての理解を深める。
--	--

	2 年生 ○国内国際性講座 ・授業のねらい 日本文化および異文化への理解を深めることにより国際的に活躍できる歯科医療人材としての観点をもてるようになる。 ・科目概要 日本文化に興味を持ち、日本の伝統芸能に親しむことにより、日本人としてのアイデンティティを確立する。 国際的なボランティア活動の内容を知り、広い視野で物事を捉える国際的な感性を養い、グローバルな人材について興味を持つ。 社会人基礎力である、「前に踏み出す力」と「考え抜く力を身につける」ため、主体性を持って参加し、課題発見力やチームワーク力を養う。 ■歯科衛生士科Ⅱ部 1 年生 ○キャリアデザイン講座Ⅰ ・授業のねらい 社会人としてキャリア選択に必要とされる自ら考える力と、考え方の基となる状況分析能力を学び身につけることによって、自らのキャリアをデザインできるようになる。 ・科目概要 キャリア選択に必要な、主体性とコミュニケーション力を通じて、最適な選択ができるために必要な行動指針について理解を深める。 ○患者接遇教育 ・授業のねらい 医療人として、患者視点のコミュニケーションスキル・知識を学び、実践できるようになる。 ・科目概要 歯科衛生士が医療チームの一員として、病院や診療所、地域において活躍できるように、対象(患者・利用者)を理解することに基づいた視点をおき、必要な基礎知識について習得する。
--	--

	○歯科英語 ・授業のねらい 実際に歯科クリニックで使われる英会話を扱ったテキストを使用して、読み、聞き取り、発音することによって、歯科衛生士として知っておくべき実用的な英語知識を理解できるようになる。 ・科目概要 歯科衛生士として、外国人の接遇に必要な歯科英語を実践的にできるように身につけるとともに、どのように英語を独学すれば良いか方法論を理解できるようになる。 ○手話 ・授業のねらい 聴覚障がい者のコミュニケーション方法の一つである手話の基礎を身に付ける。 ・科目概要 コミュニケーション方法の一つとして手話の基本技術を習得する。 2年生 ○カウンセリング学 ・授業のねらい カウンセリングの基本的考え方と技法を習得し、患者の心理的な問題に対して、援助的なコミュニケーション技法を活用できるようにする。 ・科目概要 歯科疾患を持つ患者さんの心理的不安や精神症状について、基本的な知識を講義やグループワークを用いて理解する。また、心理的ケアに資する言語的・非言語的コミュニケーションを工夫し、不安の軽減や精神疾患に関して、他の専門職との適切な連携を取れることを目指す。 3年生 ○キャリアデザイン講座Ⅴ ・授業のねらい
--	--

	将来、歯科衛生士としての活動に必要な社会福祉についての概要を理解するとともに、高齢者の総合保障制度に関わる知識を習得することを目的とする。 ・科目概要 社会人として、医療従事者として、身につけておくべき礼儀作法、言葉遣い、良好な人間関係を構築できるよう情操を豊かにする基礎の理解を深める。 ～新東京の特徴～ ○チーム歯科医療実習室での特別授業 新東京歯科衛生士学校では、新東京歯科技工士学校の学生が同じ校舎で学んでいるため、歯科技工士学校との特別授業(合同実習)がある。 チーム歯科医療実習室とは、チーム歯科医療に対応した歯科技工士、歯科衛生士を育成するため、診療室・レントゲン室・技工室を再現した実習室。 特別授業で歯科技工士科と歯科衛生士科の学生が互いに学び合うことによって知識が深まることはもちろん、歯科技工士と歯科衛生士、そして歯科医師がチームの中で果たすべき役割を「感じ・考え・学ぶ」環境がある。 * 互いの専門性を理解し、患者さんへチームとして関わっていく行動力を身に付ける * チーム歯科医療の一員として総合的な判断能力を養う * 最新機器を扱うスキルを磨く
評価方法	■歯科衛生士科Ⅰ部 歯科英語・国語表現法・カウンセリング学・コミュニケーションスキルアップ検定・手話・患者接遇 筆記試験 国内国際性講座 レポート ■歯科衛生士科Ⅱ部

	キャリアデザイン講座Ⅰ・患者接遇教育・歯科英語・手話・カウンセリング学・キャリアデザイン講座Ⅴ 筆記試験 学則に定める評価とする。 100点～90点 A(4.0)、89点～80点 B(3.0)、79点～70点 C(2.0)、69点～60点 D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。
運営情報	学校法人東京滋慶学園 新東京歯科衛生士学校
URL	新東京歯科衛生士学校ホームページ https://www.dh.ntdent.ac.jp/ 歯科衛生士科Ⅰ部・Ⅱ部シラバス https://www.dh.ntdent.ac.jp/information/syllabus/

事例 5-05 学校法人目白学園 目白大学短期大学部 歯科衛生学科

調査項目	内容
学校名	目白大学短期大学部
所在地	東京都新宿区(新宿キャンパス)
受講対象者	歯科衛生学科 1～3 年生
講座名	複数にわたるため、実施形態に記載
実施形態	■基礎教育科目 キャリアデザイン：演習 ビジネスコミュニケーション：講義 ■専門教育科目 ベーシックセミナー：演習 医療コミュニケーション学：講義 医療福祉連携活動論：講義
学習時間数	■基礎教育科目 キャリアデザイン：1 単位 ビジネスコミュニケーション：2 単位 ■専門教育科目 ベーシックセミナー：1 単位 医療コミュニケーション学：1 単位

	医療福祉連携活動論：1 単位
講座内容	目白短大では、全員が履修する「基礎教育科目」の中に教養やマナー教育の科目を設置。歯科衛生士としての専門性に加えて、将来患者さんと接する上で欠かせないコミュニケーションスキルなどの社会人基礎力を養う。 23 区内で唯一、保健医療、看護、心理、福祉など、歯科衛生士に関する分野の学科が設置されている総合大学に併設している。これらの学科教員による授業も実施され、多面的な知識を修得し、チーム医療についても学ぶことができる。 カリキュラム ■基礎教育科目 ○キャリアデザイン ・授業のねらい 歯科衛生士のキャリアは今後ますます多様化すると考えられる。将来の職業世界への関心を深め、働くことの意義や職業世界の構造について知ることを通して、意欲的な人生設計の実現に向けた実践的な選択行動がとれるようにする。生涯発達としての人生のキャリアの考え方を学び、その判断材料としての事例研究、ロールモデルとしての多様な職域で活躍する先輩歯科衛生士を通じて自らが社会でどのように生きていくか、どのようなキャリアを目指すのかを学び理解する。これまでの経験を活用し、グループワークや発表などを中心とした学びとする。 ○ビジネスコミュニケーション ・授業のねらい 医療現場で求められるコミュニケーションに関する学問的な背景を学び、歯科衛生士として通用する対人関係能力を獲得することを目的とする。そこで、組織マネジメントに関する基礎的な知識を学習することを含めた科目内容とする。なお、授業では、患者様対応で求められる知識やスキルを考えるために、知識の定着と併せて課題解決や実技を学ぶためのロールプレイングも導入する。 ■専門教育科目 1 年生

	○ベーシックセミナー ・授業のねらい 大学生活においては、在学中の3年間をどのように過ごすかを主体的に考え、能動的に授業に取り組む姿勢が求められる。そこで専門教育科目に対応できるようにする基本的スキルや、時間管理や学習習慣などの自己管理能力を身につける。卒業後に歯科衛生士として社会で活躍することを見通した計画を立てて、充実した学生生活を送ることを目的とする。 2年生 ○医療コミュニケーション学 ・授業のねらい 基本的なコミュニケーションの手法である歯科医療面接技法の傾聴テクニック、共感テクニックなどを学ぶ。また、歯科衛生過程で重要なコーチングや行動変容のための基礎について学び、患者さんとのコミュニケーションのあり方について考えを深めていく。また、多職種連携の協働の中で、歯科衛生士として必要なコミュニケーション方法についても理解する。 3年生 ○医療福祉連携活動論 ・授業のねらい 歯科衛生士が人びとの健康を支援するためには、医療福祉及びその他の多職種と連携した活動が必要である。医療機関及び地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を理解するとともに、他職種の活動を理解する。また、歯科衛生士が他職種から何を期待されているのかを知り、連携に必要な知識、技術、態度を身につける。
評価方法	■基礎教育科目 キャリアデザイン 課題レポート及びワークシート等の提出物(60%)、授業への取り組み姿勢(40%)により、総合的に評価する。 学習目標1、3、4については、提出物と授業への取り組み姿勢により評価を行う。2については、提出物により評価を行う。

	学習目標 1：就職活動に必要な知識やマナー、基礎力などの実践的スキルを獲得する。 A：すべての課題を提出し、就職活動に必要な知識やマナー、基礎力などの実践的スキルを獲得している。 B：すべての課題を提出し、就職活動に必要な知識やマナー、基礎力などの実践的スキルを概ね獲得している。 C：就職活動に必要な知識やマナー、基礎力などの実践的スキルの獲得に不足がみられるが、すべての課題を提出できている。 D：課題のいくつかを提出できていない、もしくは就職活動に必要な知識やマナー、基礎力などの実践的スキルが欠落している。 学習目標 2：自己分析を行い、自分の職業観を客観的に考える。 A：すべての課題を提出し、自己分析を行い、自分の職業観を客観的に考えることができている。 B：すべての課題を提出し、自己分析を行い、自分の職業観を概ね客観的に考えることができている。 C：自己分析を行い、自分の職業観を客観的に考える力に不足がみられるが、すべての課題を提出できている。 D：課題のいくつかを提出できていない、もしくは自己分析を行い、自分の職業観を客観的に考えることができていない。 学習目標 3：歯科衛生士の活動の領域を理解し、キャリア意識を明確にする。 A：すべての課題を提出するとともに、歯科衛生士の活動の領域を理解し、キャリア意識を明確にできている。 B：すべての課題を提出するとともに、歯科衛生士の活動の領域を理解し、キャリア意識を概ね明確にできている。 C：歯科衛生士の活動領域の理解、キャリア意識の明確化に不足がみられるが、すべての課題を提出できている。 D：課題のいくつかを提出できていない、もしくは歯科衛生士の活動領域の理解、キャリア意識が欠落している。 学習目標 4：自分の進路、今後の計画を书面化し、主体的な就職活動・進学準備を実践する。 A：すべての課題を提出し、自分の進路、今後の計画の书面化、主体的な就職活動・進学準備が実践できている。
--	--

	B：すべての課題を提出し、自分の進路、今後の計画の書面化、主体的な就職活動・進学準備が概ね実践できている。 C：自分の進路、今後の計画の書面化、主体的な就職活動・進学準備に不足がみられるが、すべての課題を提出できている。 D：課題のいくつかを提出できていない、もしくは自分の進路、今後の計画の書面化、主体的な就職活動・進学準備が実践できていない。 ビジネスコミュニケーション 課題・提出レポート(55%)、授業への取り組み(45%)で評価する。ビジネスコミュニケーションの基礎知識についての理解と、医療現場に即した対人関係能力を修得したかが評価の基準となる。 事前学習、事後学習の状況も評価の対象とする。 A：歯科医療現場で通用するビジネスコミュニケーションスキルが身に付いている。 B：歯科医療組織を理解して基本的なビジネスコミュニケーションスキルが身に付いている。 C：歯科医療組織とビジネスコミュニケーションの基礎は理解できているが応用できない。 D：歯科医療組織とビジネスコミュニケーションの基礎が理解できていない。 ■専門教育科目 ベーシックセミナー 提出課題(55%)、授業への取り組み姿勢(45%)で評価する。授業に真剣に取り組んでいるかを評価の最重要ポイントとする。 学習目標①については、授業への取り組み姿勢で評価する。 学習目標②については、提出課題と授業への取り組み姿勢で評価する。 学習目標③については、提出課題で評価する。 事前学習、事後学習の状況も評価の対象とする。 医療コミュニケーション学 学期末試験 70%・授業中の課題(小テスト等)20%・受講態度 10%で評価を行う。基礎的問題を 20%、基本問題を 60%、応用問題を 20%程度出題する。受講態度は、授業への取り組みと、質疑応答などの積
--	---

	極性を評価する。ただし、学期末試験に不合格の場合には再試験を行う。 【ルーブリック評価】 S 評価またはA 評価：応用問題を含めほぼ理解できている B 評価：基本問題までの問題がほぼ理解できている C 評価：基礎的問題・基本問題を含め 60%以上理解できている ① 小テストと学期末テストで知識と理解度を確認する。 ② 小テストと学期末テストで知識と理解度を確認する。 ③ 小テストと学期末テストで知識と理解度を確認する。 医療福祉連携活動論 各回授業内テストまたはレポート(80%)、授業への取り組み姿勢(20%) 学習目標①③については、授業内テストとレポートによって評価を行う。 学習目標②については、授業内テストまたはレポートによって評価を行う。 学習目標①：医療機関及び地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を理解する。 A：すべての課題を提出し、歯科衛生士の役割を深く理解している。 B：すべての課題を提出し、歯科衛生士の役割を概ね理解している。 C：歯科衛生士の役割について理解が不足している点はあるが、すべての課題を提出できている。 D：課題のいくつかを提出できていない、もしくは歯科衛生士の役割を理解していない。 学習目標②：医療機関及び地域包括ケアシステムにおける他職種の活動を理解する。 A：すべての課題を提出し、他職種の活動を深く理解している。 B：すべての課題を提出し、他職種の活動を概ね理解している。 C：他職種の活動について理解が不足している点はあるが、すべての課題を提出できている。 D：課題のいくつかを提出できていない、もしくは他職種の活動を理解していない。
--	---

	学習目標③：歯科衛生士が他職種から何を期待されているのかを知り、連携に必要な知識、技術、態度を身につける。 A：すべての課題を提出し、連携に必要な知識、技術、態度を積極的に身につけようとしている。 B：すべての課題を提出し、連携に必要な知識、技術、態度を身につけようとしている。 C：連携に必要な知識、技術、態度を身につけようとする姿勢にやや不足がみられるが、すべての課題を提出できている。 D：課題のいくつかを提出できていない、もしくは連携に必要な知識、技術、態度を身につけようとする姿勢がみられない。
運営情報	学校法人目白学園 目白大学短期大学部
URL	目白大学短期大学部ホームページ https://www.mejiro.ac.jp/college/ 目白大学短期大学部シラバス https://pwb.mejiro.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

3.3 福岡歯科衛生専門学校在校生アンケート調査

3.3.1 調査概要

(1) 調査目的

高等学校で学習した内容のうち、専門学校の講義・実習(臨床実習を含む)で特に役立ったこと、もっと学習しておけば良かったことを調査し、開発するプログラムに反映させる。

(2) 調査対象

令和3年度の福岡歯科衛生専門学校在校生 166 名

(3) 調査方法

調査は、学年ごとにホームルームの時間を 5～10 分程度利用して、専任教員が説明した上で実施した。回答には、本校にて使用中の e ラーニングシステムのアンケート機能を用いた。匿名かつ一人 1 回のみ回答可能な設定とし、学生個人のスマートフォンよりアクセスしてもらった。なお、社会人経験のある学生の匿名性を担保するため、年齢は調査項目より除外した。

(4) 調査項目

調査項目は次の項目である。

1. 回答者情報

- (1) 学年
- (2) 社会人経験の有無

2. 高校までの学習について

- (1) 高校までの学習内容のうち、特に役立ったこと
- (2) 専門学校へ進学する前に、習得しておきたかったと感じること

3. 現在の自己の能力について

- (1) 自己の能力に対する自信
 - ・全体
 - ・学年別
 - ・社会人経験の有無別
- (2) 各能力の必要性の認識
- (3) 3-(2)の理由

(5) 回収件数

166 件中 162 件(回収率 97.6%)

(6) 調査結果まとめ

1. 回答者について[p1, 1-(1) 学年]

本調査の回答率は 97.6%である。回答した学生数は、学年間で偏りが無く、比較が可能である。社会人経験のある学生が 16.7%、約 2 割含まれていることから、社会人経験の有無による比較も行った[p1, 1-(2) 社会人経験の有無]。

2. 高校での学習について

2-(1) 高校までの学習内容のうち、専門学校での講義・実習で特に役立ったこと [p2, 2-(1) 高校までの学習内容のうち、特に役立ったこと(N=162)]

高校までの学習内容のうち、専門学校での講義・実習で特に役立っているとして選択された教科は「生物」が 56.8%と最も多く、次いで「化学」が 45.7%であった。「中学理科」や「高校生物」の学習内容は歯科衛生士国家試験の出題内容と直接つながっている¹⁾。また、「高校化学」の内容は、国家試験には直接出題されることはあまりないが、化学式、pH、濃度計算など、専門科目の学習をするのに「前もって知っておくべき知識」として必要である¹⁾。「数学」「英語」「国語」も約 30%の者が役立ったと回答していたのは、一部、薬剤の中毒量や濃度の計算の学習があること、専門用語は英語に由来するものが多いことや微生物名等は英語表記であること、国語は様々なレポートの作成時に漢字や文章力が必要とされること等によると思われる。生物・化学・物理に比べ、日本語・数的処理の成績が伸びづらく、つまりく学生も多い²⁾ことから、高校の在学期間中にこれらの教科の学習を強化して欲しい内容である。

高校生が、「これらの教科は、専門学校に在籍する先輩たちが特に勉強しておいて良かったと感じている」ということを認知することは、高校生の学習意欲向上に繋がると考えられる。

2-(2) 専門学校へ進学する前に習得しておきたかったこと [p4, 2-(2) 専門学校へ進学する前に、習得しておきたかったと感じること(N=162)]

専門学校へ進学する前に習得しておきたかったことは、「学習習慣」が 53.7%と最も多く、次いで「規則正しい生活習慣」が 42.0%であった。これらが上位にあるということは、習得しないまま進学している者の多さを示しているとともに、専門学校において必要性を感じた内容であるともいえる。初等中等教育において、生活習慣が身についていると学習習慣にも好影響である³⁾とされているなど、両者には関連がある。

習得しておきたかったことの三番目は、「人と交流する力」で 36.4%の回答率であった。歯科衛生士養成校においては、高等学校までと比較して、実習先の指導者や患者さ

人など、多様な人々とのコミュニケーションが求められ、必要性を実感したと考えられる。

3. 現在の自己の能力について

3-(1) 自己の能力に対する自信

非認知能力の育成と発揮に関する要素から「新しい学力観」「価値観・人間性」に分類された16の能力⁴⁾について調査を行った。自信がない者の割合が最も多かったのは、①基礎学力で55.6%、次いで⑩自己肯定感の51.2%であった[p5, 3-(1) 自己の能力に対する自信の強さ]。16項目中8項目の能力に関しては、選択肢「全くない」を選択した者が一人もいないにも関わらず、⑩自己肯定感の2.5%の者が「全くない」を選択していた。非認知能力の中でも自己肯定感はその他の能力発揮の原動力として位置づけられ⁴⁾、高等学校終了までに習得できるものとされている。しかし、専門学校新入生の課題として自己肯定感の礎となる自己効力感の欠如があげられている。勉強で自信が持てなかった生徒が専門学校に入学するケースが多く、それらの学生は自己効力感を持ちにくい。本校においても同様の傾向であることが確認された。したがって、非認知能力の育成には、専門学校入学以降も自己肯定感を高める取り組みが必要である。

一方、自信がある者の割合が最も多かったのは、⑮規範意識で93.2%、次いで⑬道徳心の89.5%であった[p5, 3-(1) 自己の能力に対する自信の強さ]。「十分にある」を選択した者が最も多かったのは⑮規範意識で22.8%、次いで⑬道徳心の19.8%であった。⑮規範意識は、道徳・倫理および法律等の社会のルールを守ろうとする意識、との説明文を加えて尋ねている。本校では服装や遅刻・欠席時の連絡方法、提出物の期限などのルールが厳しく、これらに従っているという自信が表れた結果であると考えられる。

各能力について、学年別に比較すると、学年を追うごとに「かなりある」「十分にある」と回答した者が増える傾向がある。特に③専門性・専門知識においてその傾向が強かった。また、社会人経験の有無別の比較では、社会人経験がある者の方が、自信がある者の割合が多い傾向にあり、特に④問題解決力にその傾向が強かった。③専門性・専門知識は、社会人経験がある者において自信がある者からない者まで有意にばらつきが認められたが、社会人経験者の中には歯科助手経験のある者が含まれているためと考えられる。

3-(2) 各能力の必要性の認識

最も高める必要があると思う能力(1位)は、③専門性・専門知識が26.5%と最も多く、次いで⑦コミュニケーション力が24.1%、②基礎的な知識・技能が13.0%と続いた[p24, 「最も」高める必要があると思う能力]。2番目に高める必要があると思う能力(2位)は、③専門性・専門知識、⑦コミュニケーション力がいずれも24.1%と最も多く、②基礎的な知識・技能が11.7%と続き、上位3つは、最も高める必要があると

同じであった[p25, 「2 番目」に高める必要があると思う能力]。3 番目に高める必要があると思う能力(3 位)は、「コミュニケーション力」「問題解決力」がいずれも 13.0%で最も多く、③専門性・専門知識が 11.7%でこれに続いた[p26, 「3 番目」に高める必要があると思う能力]。

高める必要があると思う能力について、1 位から 3 位までを合計し、能力ごとに総回答者数で除して比較したところ、③専門性・専門知識が 62.3%、⑦コミュニケーション力が 61.1%であった[p27, 高める必要があると思う能力(N=162)(1 位から 3 位の合計)]。両能力は、在校生の約 6 割が現在よりも高める必要があると認識しており、専門学校において、教育に力を入れるべき項目であると考えられる。

3-(3) 3-(2) 各能力の必要性の認識の理由[p29～p37]

「高める必要がある」を選択した理由の内容についてカテゴリー化を行った。その結果、③専門性・専門知識は、「歯科衛生士になる上で専門知識はとても大切だから」という必要性の認識が 45 名で最も多く、次いで「歯科衛生士としての専門知識が足りていないと思うから」という不足の自覚も 34 名と多かった。「国家試験があるから」は 3 名にとどまっており、歯科衛生士として働き始めた後のことをイメージできている学生が多いことが認められた。

⑦コミュニケーション力を選んだ理由は、「社会で必要だから」が 29 名と最も多く、次いで「患者さんとのコミュニケーションが大切だから」などの患者のためとする理由も 43 名にみられた。これらの回答からも、学生が専門学校卒業後のイメージを持っていることが示される結果となった。

3-(4) 「3-(1) 自己の能力に対する自信」と「3-(2) 各能力の必要性の認識」との関連 [p39, 各能力の必要性の認識と自信の強さ(全体)]

各能力の必要性の認識と自信の強さとの関連を検討したところ、最も必要性を認識しているのは、③専門性・専門知識であり、これに対する自信は 2.5 で全項目の平均(2.9)よりも低かった。つまり、自信がなく、かつ必要だと思っており、教育内容として最優先すべき項目であると考えられる。次に必要性を認識している能力は、⑦コミュニケーション力であるが、能力に対する自信は 3.1 であり、全項目の平均(2.9)よりも高かった。これは、自信は中程度あるにも関わらず、もっと高めるべきと認識しているということであり、彼らが求めている、より高いコミュニケーション力とは何かを定義し、開発・実証する教育プログラムに反映する必要があると考えられる。

参考文献)

- 1) 株式会社進研アド. 入学前教育プログラム歯科衛生士科コース総合テキスト, p2.
- 2) 株式会社進研アド専門学校事業部. 基礎力リサーチにみる初年次教育のポイント【進級を控えた時

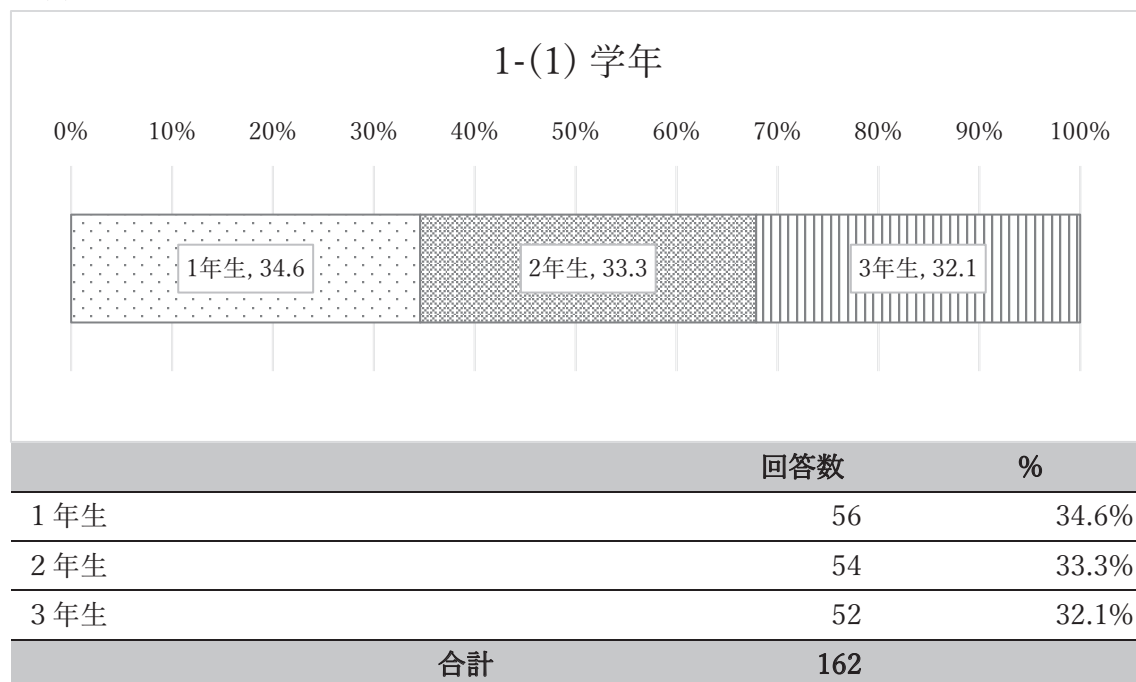
期の基礎学力について】. 2022 年 1 月.

- 3) ベネッセ教育総合研究所. データで教育を読む Benesse Report, 規則正しい生活習慣が子どもに与える影響は? VIEW21 教育委員会版 2020.
- 4) 一般財団法人日本生涯学習総合研究所. 「非認知能力」の概念に関する考察(Ⅱ)改訂版. 2020 年 11 月.

3.3.2 調査結果

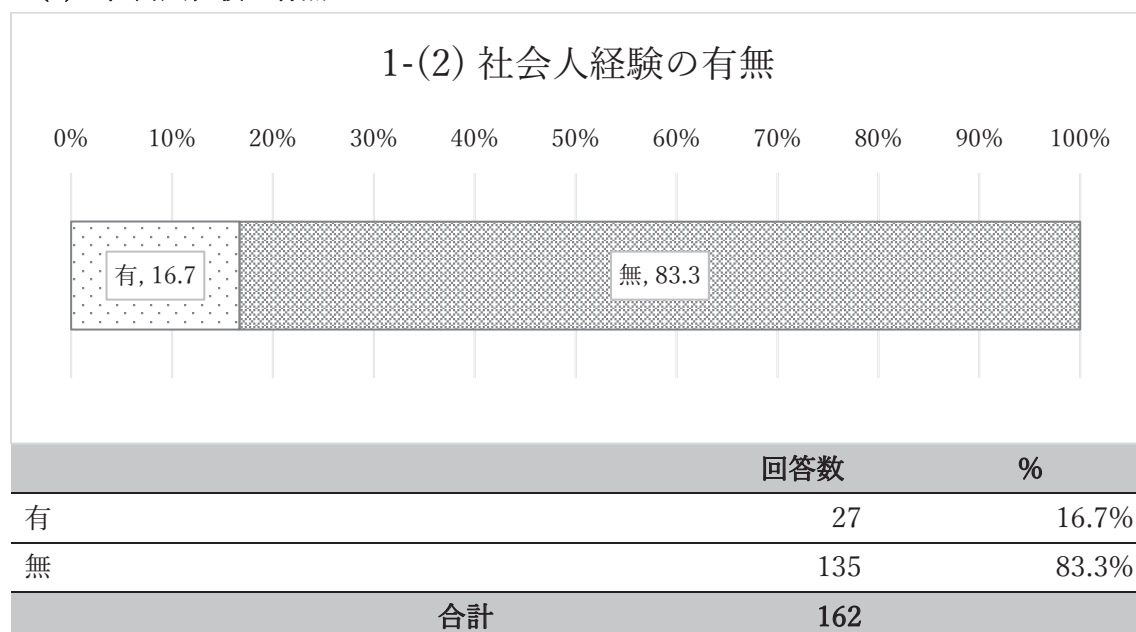
1. 回答者情報

1-(1) 学年



各学年の回答者数に偏りはみられない。

1-(2) 社会人経験の有無

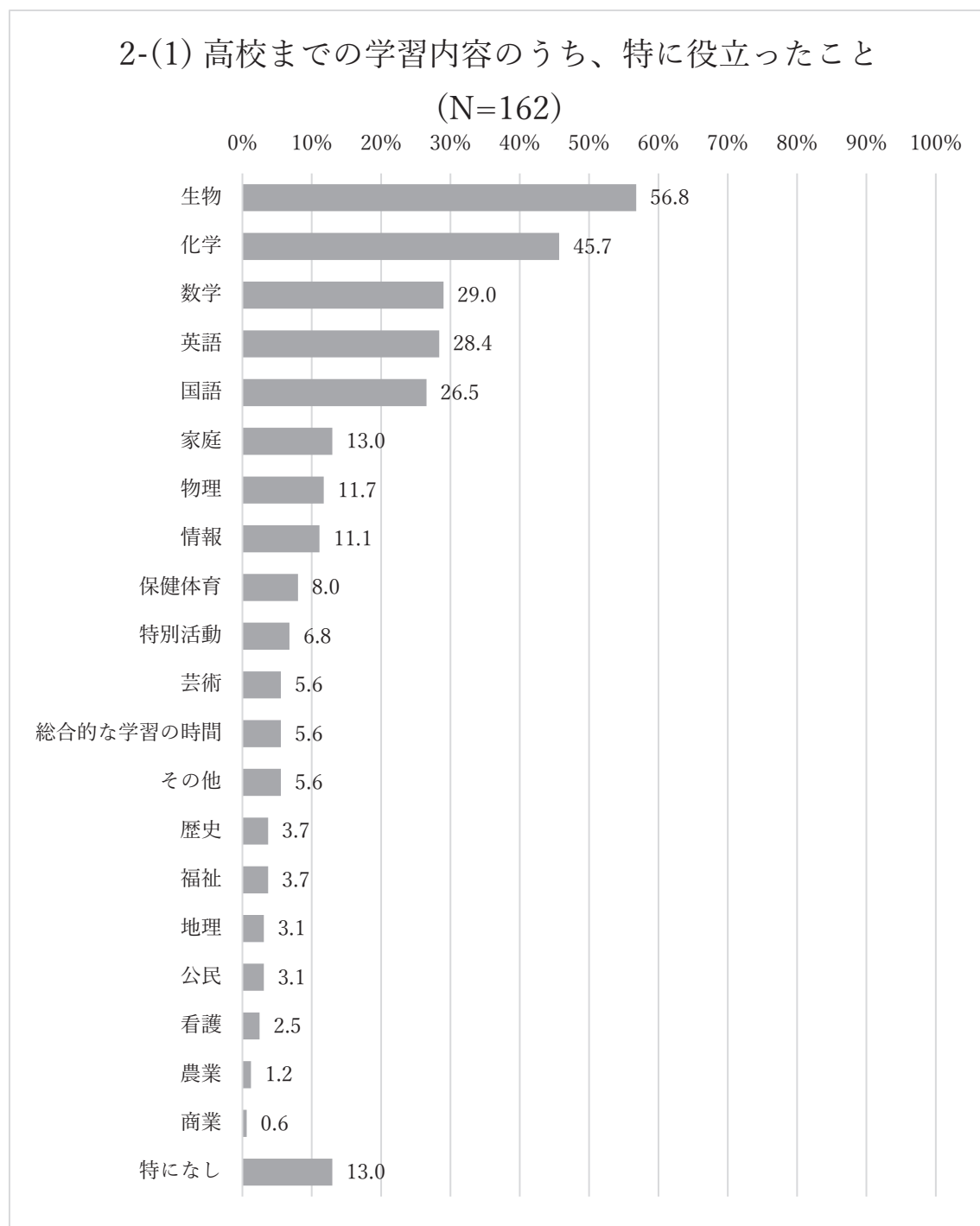


社会人経験のある学生が 16.7%、約 2 割含まれている。

2. 高校までの学習について

2-(1) 高校までの学習内容のうち、特に役立ったこと

高校までに学習してきたことのうち、専門学校での講義・実習で特に役立っている教科は何ですか？当てはまるものをすべて選んで下さい。（複数回答可）



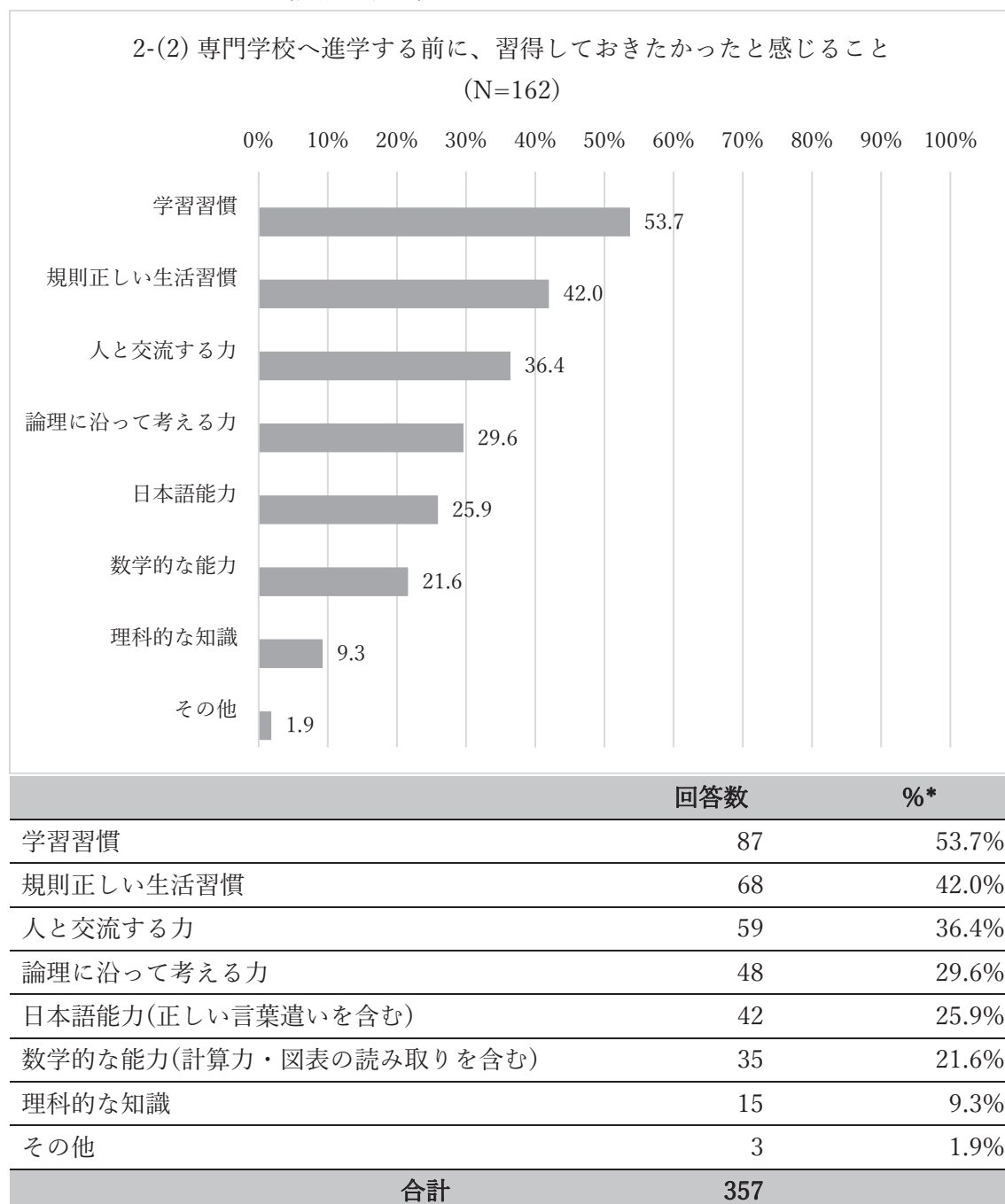
	回答数	%*
生物	92	56.8%
化学	74	45.7%
数学	47	29.0%
英語	46	28.4%
国語	43	26.5%
家庭	21	13.0%
物理	19	11.7%
情報	18	11.1%
保健体育	13	8.0%
特別活動(ホームルーム)	11	6.8%
芸術(音楽、美術、その他)	9	5.6%
総合的な学習の時間	9	5.6%
その他	9	5.6%
歴史	6	3.7%
福祉	6	3.7%
地理	5	3.1%
公民	5	3.1%
看護	4	2.5%
農業	2	1.2%
商業	1	0.6%
特になし	21	13.0%
合計	461	

*：回答者数(162 人)を 100%として選択肢ごとに計算

専門学校での講義・実習で特に役立っている教科について、「生物」が 56.8%と最も多く、次に「化学」が 45.7%であった。「数学」「英語」「国語」も約 30%の者が役立ったと回答していた。

2-(2) 専門学校へ進学する前に、習得しておきたかったと感じること

専門学校へ進学する前に、習得しておきたかったと思うことは何ですか？当てはまるものをすべて選んで下さい。(複数回答可)



*：回答者数(162人)を100%として選択肢ごとに計算

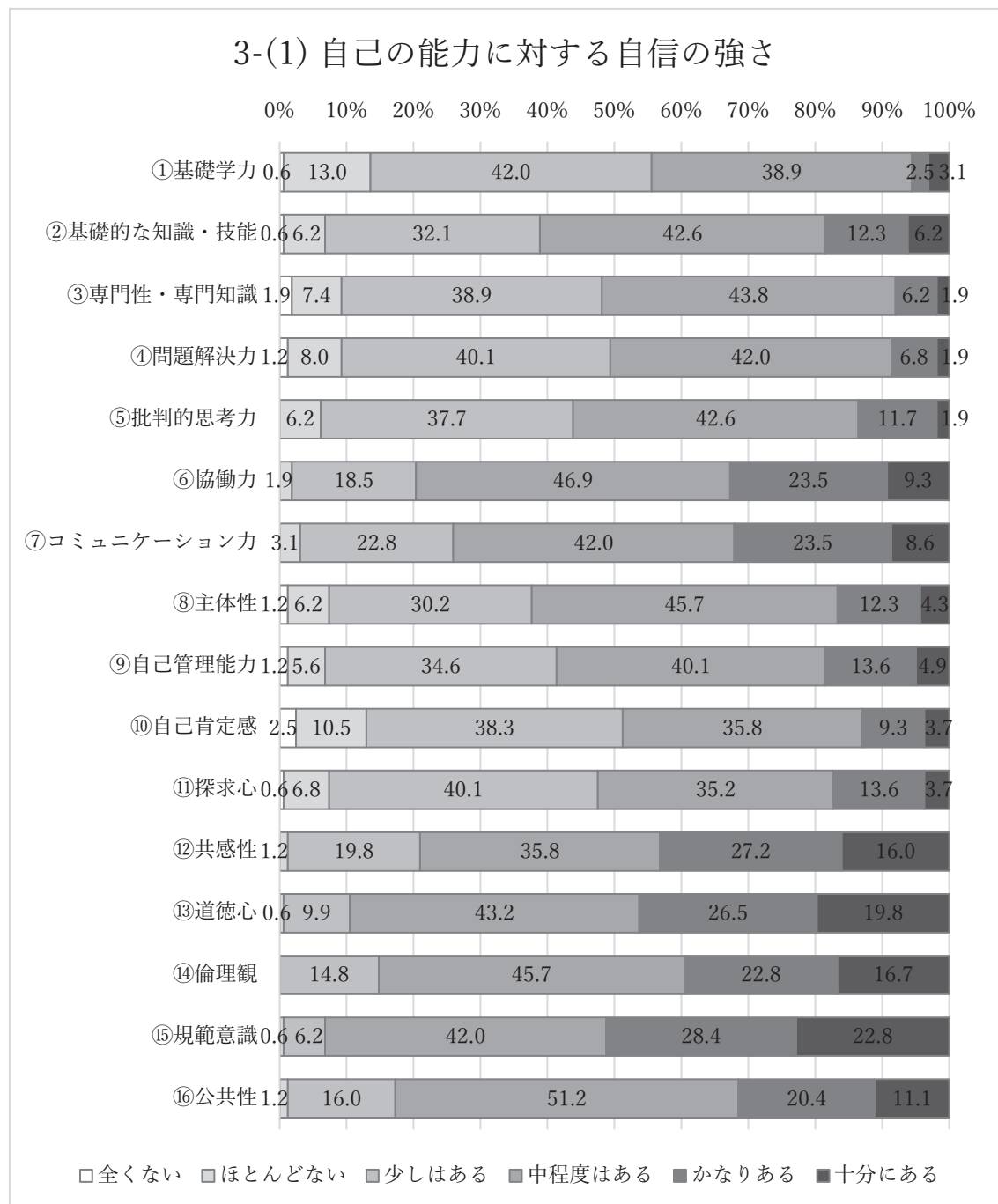
専門学校へ進学する前に、習得しておきたかったと思うことについて、「学習習慣」が53.7%と最も多く、次に「規則正しい生活習慣」が42.0%であった。

3. 現在の自己の能力について

3-(1) 自己の能力に対する自信

次にあげる能力について、あなたにはどのくらいあると思いますか？

「全くない」「ほとんどない」「少しはある」「中程度はある」「かなりある」「十分にある」から当てはまるものを1つ選んでください。



	自信がない ¹⁾		自信がある ²⁾		全くない		ほとんどない		少しはある		中程度はある		かなりある		十分にある	
	回答数	%*	回答数	%*	回答数	%*	回答数	%*	回答数	%*	回答数	%*	回答数	%*	回答数	%*
①基礎学力	90	55.6	72	44.4	1	0.6	21	13.0	68	42.0	63	38.9	4	2.5	5	3.1
②基礎的な知識・技能	63	38.9	99	61.1	1	0.6	10	6.2	52	32.1	69	42.6	20	12.3	10	6.2
③専門性・専門知識	78	48.1	84	51.9	3	1.9	12	7.4	63	38.9	71	43.8	10	6.2	3	1.9
④問題解決力	80	49.4	82	50.6	2	1.2	13	8.0	65	40.1	68	42.0	11	6.8	3	1.9
⑤批判的思考力	71	43.8	91	56.2	0	0.0	10	6.2	61	37.7	69	42.6	19	11.7	3	1.9
⑥協働力	33	20.4	129	79.6	0	0.0	3	1.9	30	18.5	76	46.9	38	23.5	15	9.3
⑦コミュニケーション力	42	25.9	120	74.1	0	0.0	5	3.1	37	22.8	68	42.0	38	23.5	14	8.6
⑧主体性	61	37.7	101	62.3	2	1.2	10	6.2	49	30.2	74	45.7	20	12.3	7	4.3
⑨自己管理能力	67	41.4	95	58.6	2	1.2	9	5.6	56	34.6	65	40.1	22	13.6	8	4.9
⑩自己肯定感	83	51.2	79	48.8	4	2.5	17	10.5	62	38.3	58	35.8	15	9.3	6	3.7
⑪探求心	77	47.5	85	52.5	1	0.6	11	6.8	65	40.1	57	35.2	22	13.6	6	3.7
⑫共感性	34	21.0	128	79.0	0	0.0	2	1.2	32	19.8	58	35.8	44	27.2	26	16.0
⑬道徳心	17	10.5	145	89.5	0	0.0	1	0.6	16	9.9	70	43.2	43	26.5	32	19.8
⑭倫理観	24	14.8	138	85.2	0	0.0	0	0.0	24	14.8	74	45.7	37	22.8	27	16.7
⑮規範意識	11	6.8	151	93.2	0	0.0	1	0.6	10	6.2	68	42.0	46	28.4	37	22.8
⑯公共性	28	17.3	134	82.7	0	0.0	2	1.2	26	16.0	83	51.2	33	20.4	18	11.1
平均	53.7	33.1	108.3	66.9	1.0	0.6	7.9	4.9	44.8	27.6	68.2	42.1	26.4	16.3	13.8	8.5
最小	11.0	6.8	72.0	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	6.2	57.0	35.2	4.0	2.5	3.0	1.9
最大	90.0	55.6	151.0	93.2	4.0	2.5	21.0	13.0	68.0	42.0	83.0	51.2	46.0	28.4	37.0	22.8

1) 「全くない」「ほとんどない」「少しはある」と回答した者の割合、2) 「中程度はある」「かなりある」「十分にある」と回答した者の割合

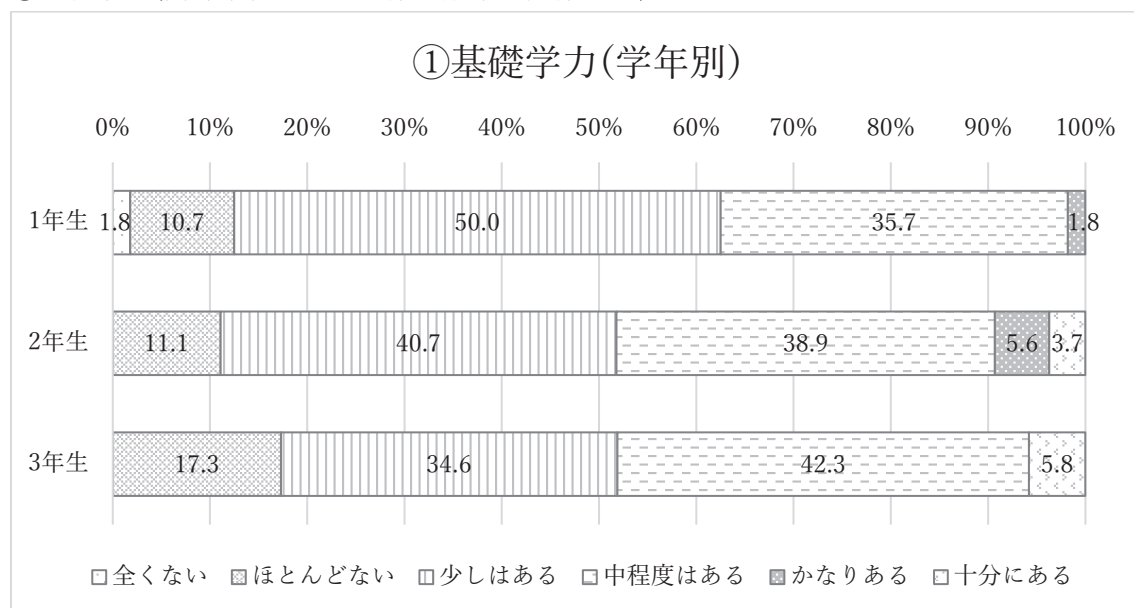
*: 回答者数(162人)を100%として選択肢ごとに計算

①基礎学力から⑯公共性まで、各能力に対する自信の強さについて、「全くない」「ほとんどない」「少しはある」と回答した者の合計を自信がない、「中程度はある」「かなりある」「十分にある」と回答した者の合計を自信があるとして比較した。自信がない者の割合が最も多かったのは、①基礎学力で 55.6%、次いで⑩自己肯定感の 51.2%であった。自信がある者の割合が最も多かったのは、⑮規範意識で 93.2%、次いで⑬道徳心の 89.5%であった。

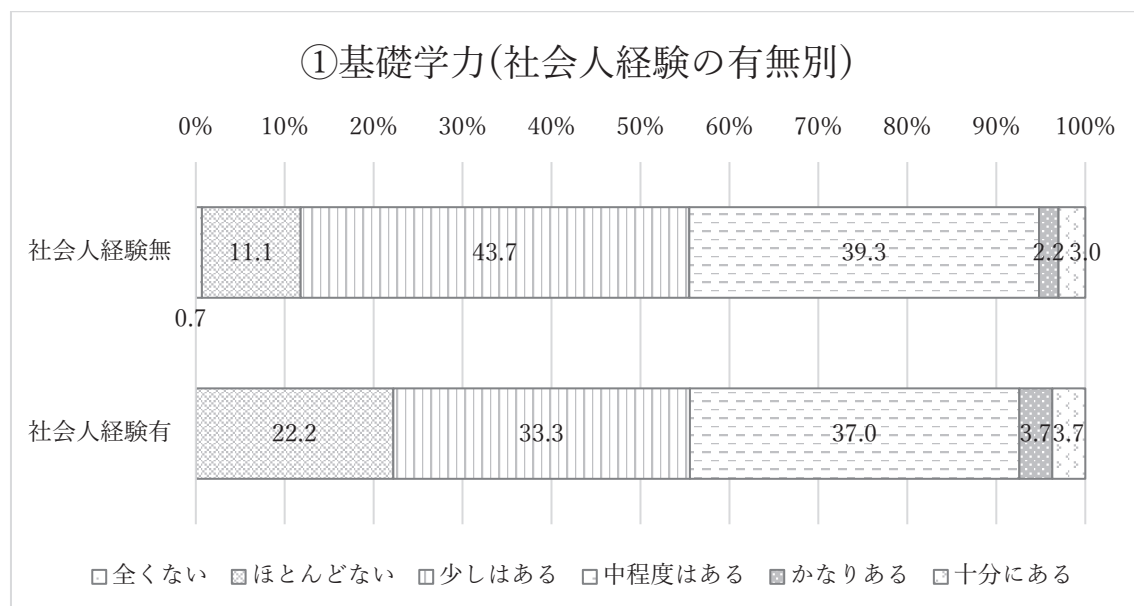
選択肢のうち、「全くない」を選択した者は 0.0%である能力が 16 項目中 8 項目であったが、⑩自己肯定感 は 2.5%、③専門性・専門知識は 1.9%の者が「全くなし」を選択していた。一方、「十分にある」を選択した者が最も多かったのは⑮規範意識で 22.8%、次いで⑬道徳心の 19.8%であった。

次にあげる能力について、あなたにはどのくらいあると思いますか？

①基礎学力(高等学校までの国語、数学、英語など)

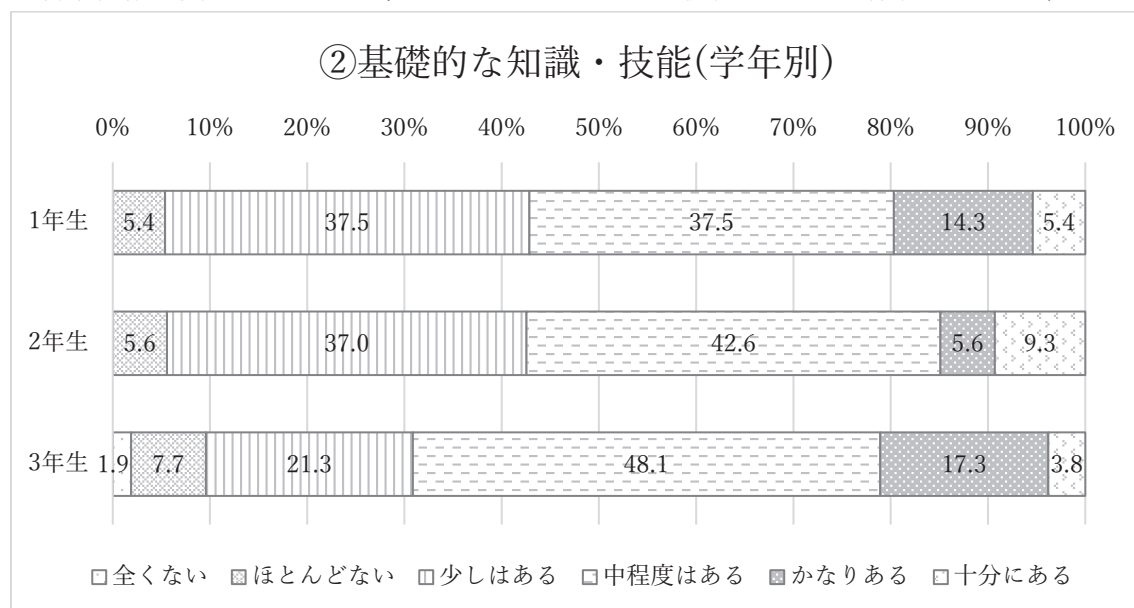


基礎学力について、「少しはある」と回答した人が1年生は50.0%、2年生は40.7%と最も多かった。3年生は「中程度はある」と回答した人が42.3%と最も多かった。

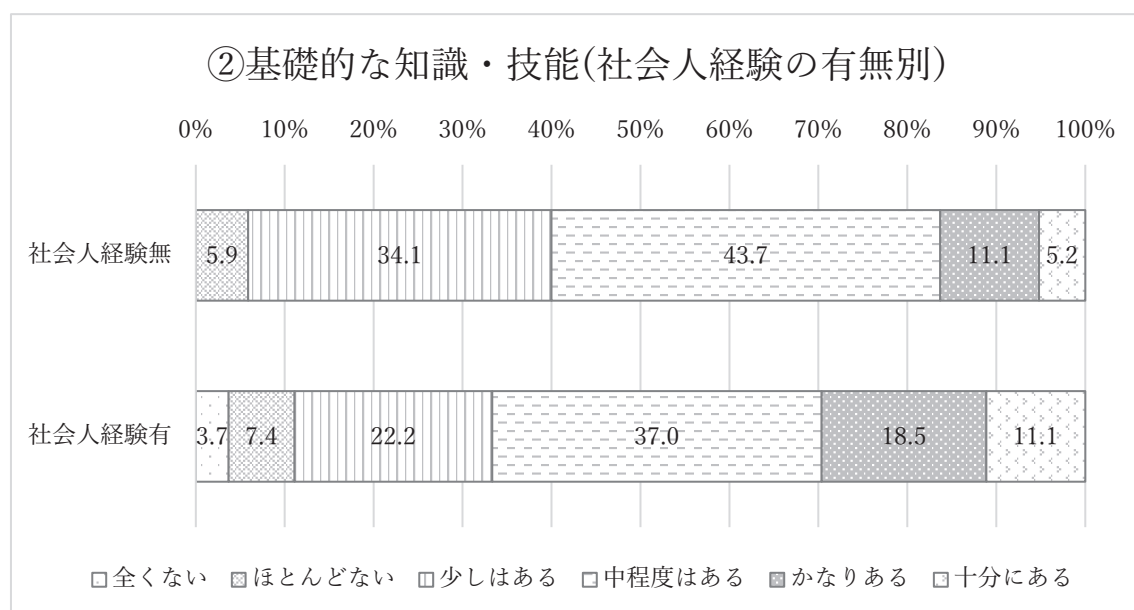


社会人経験の有無別で①基礎学力をみると、社会人経験有では、「ほとんどない」が22.2%で社会人経験無と比べると、2倍である。

②基礎的な知識・技能(ニュースなどで得る社会情勢や法律、スマホやPCを使いこなすなど科学技術に関するもの、日常生活におけるマナー：挨拶をする、時間を守るなど)

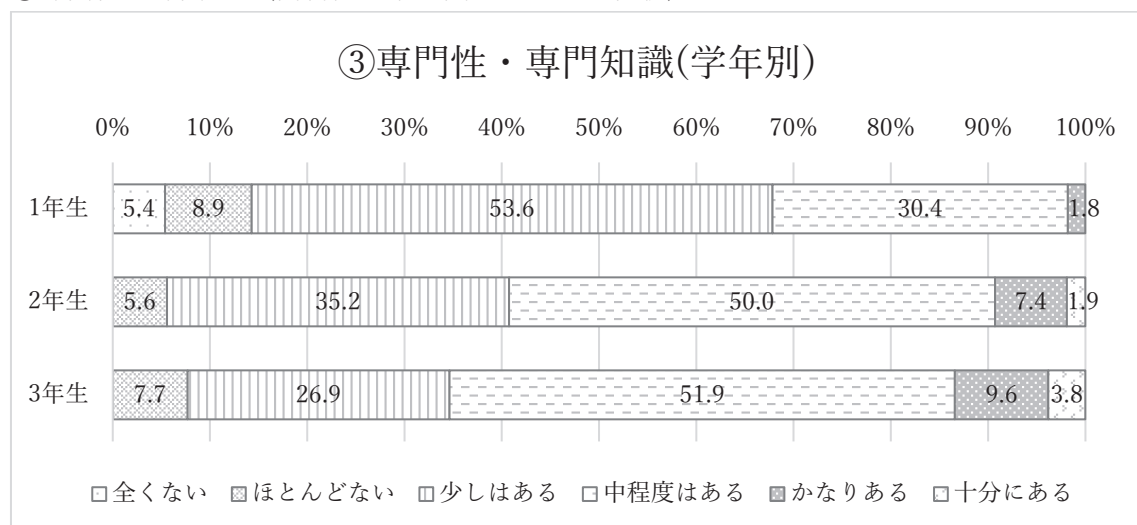


基礎的な知識・技能について、1年生は「少しはある」「中程度はある」と回答した人が37.5%と横並びであった。2・3年生は「中程度はある」と回答した人が最も多く2年生42.6%、3年生48.1%であった。学年が上がるにつれ、「ある」と回答した人が多い傾向にある。



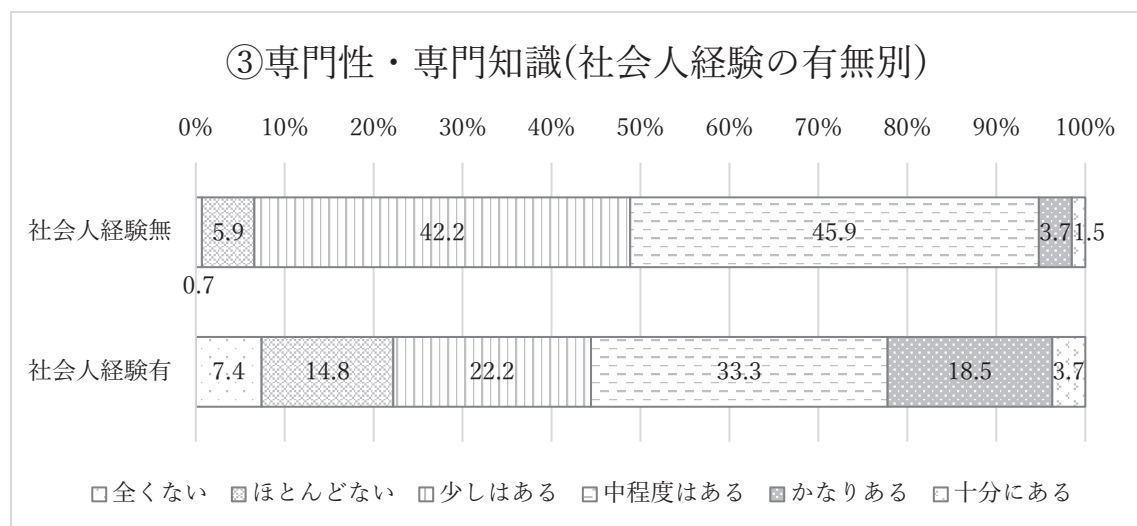
社会人経験の有無別で②基礎的な知識・技能をみると、社会人経験有は「全くない」「ほとんどない」が11.1%と社会人経験無の5.9%に比べて多いが、「かなりある」「十分にある」の割合も多くなっている。

③専門性・専門知識(歯科衛生学に関する知識と経験)



χ^2 検定、 $p=0.03$

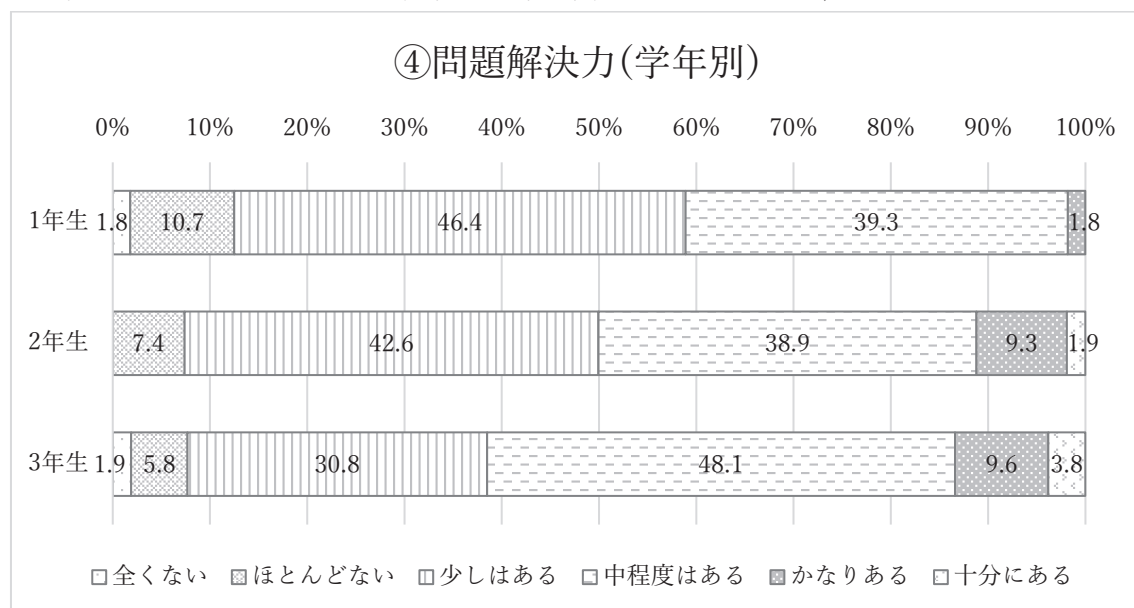
専門性・専門知識について、1年生は「少しはある」と回答した人が53.6%と過半数であった。2・3年生については、「中程度はある」と回答した人が過半数を占めているが、学年を追うごとに、「かなりある」「十分にある」と回答した人の割合も増えている。



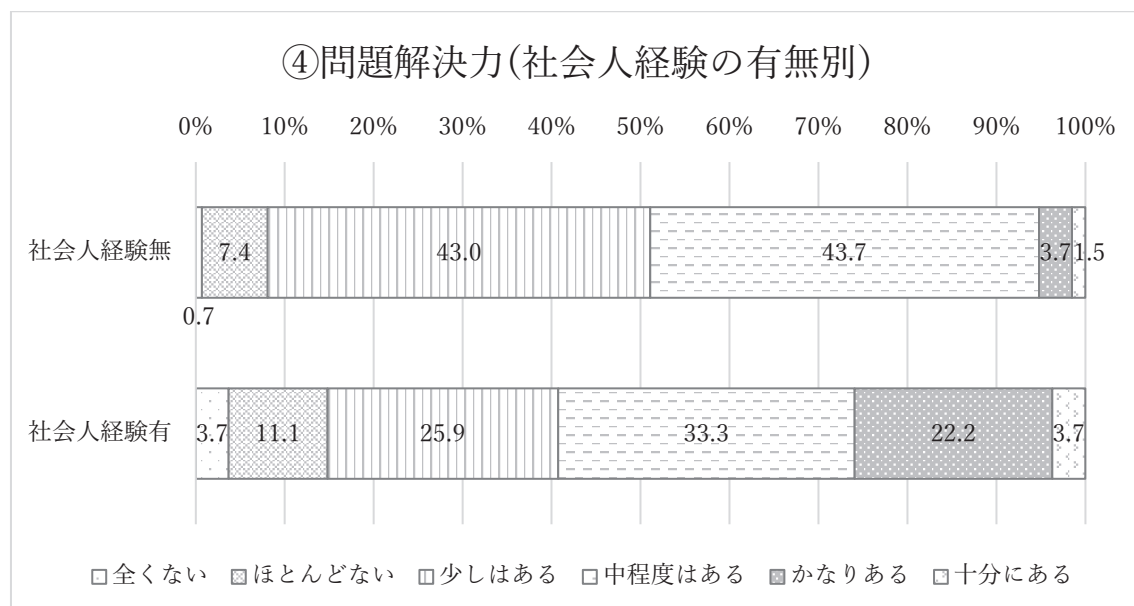
χ^2 検定、 $p=0.02$

社会人経験の有無別で③専門性・専門知識をみると、社会人経験が有る者の方が、自信の無いものから有るものまで、ばらついている。具体的には「かなりある」「十分にある」の回答も多かった。

④問題解決力(自分で考え、本質的な問題を発見し、解決策を立案し、さらに、それを臨機応変かつ適切に対応しながら実行し成果を出すことができる力)



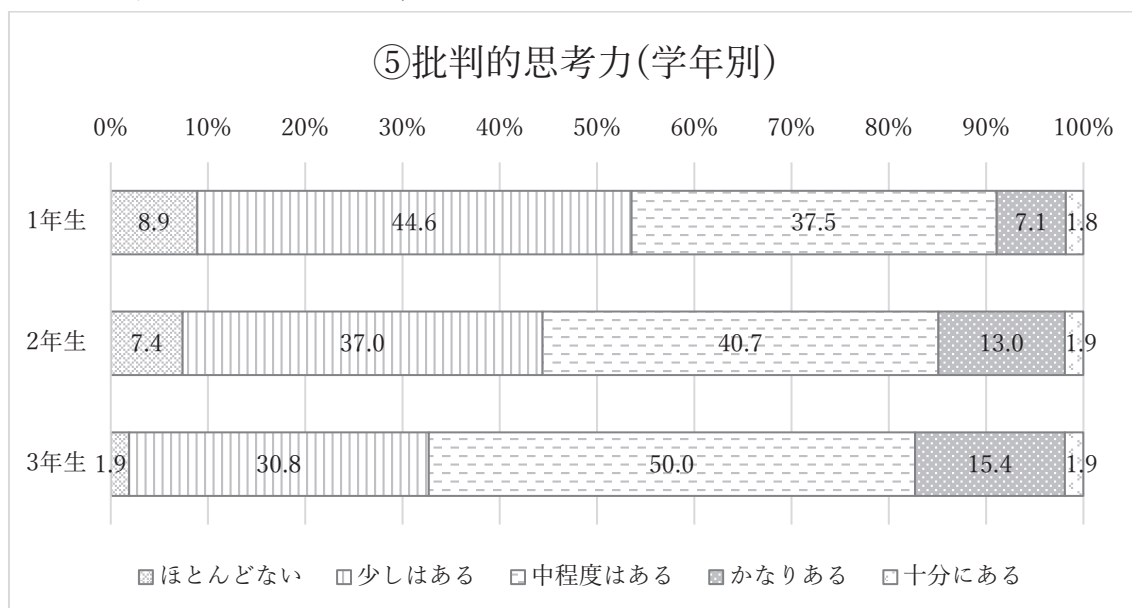
問題解決力については、1・2年生は「少しはある」と回答した人が最も多く、1年生46.4%、2年生42.6%であった。3年生は「中程度はある」と回答した人が48.1%で最も多かった。



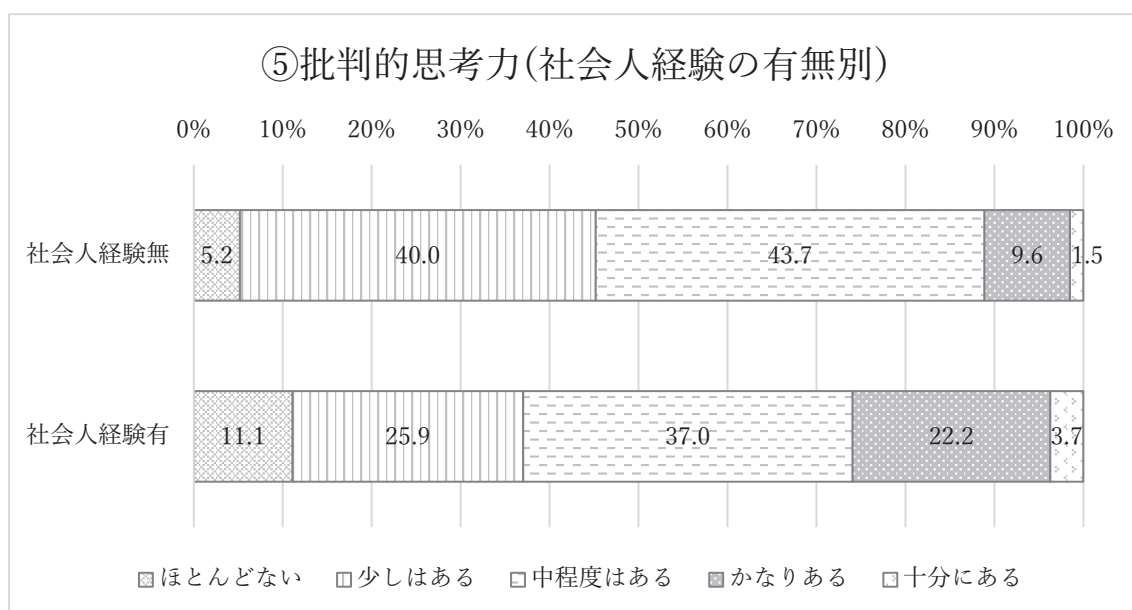
χ^2 検定、 $p < 0.01$

社会人経験の有無別で④問題解決力をみると、社会人経験が有る者の方が、自信の有る者（「中程度はある」「かなりある」「十分にある」）が59.2%と多い。

⑤批判的思考力(他者および自分の考えに対して熟考し、先入観にとらわれずに、様々な視点から考えることができる力)

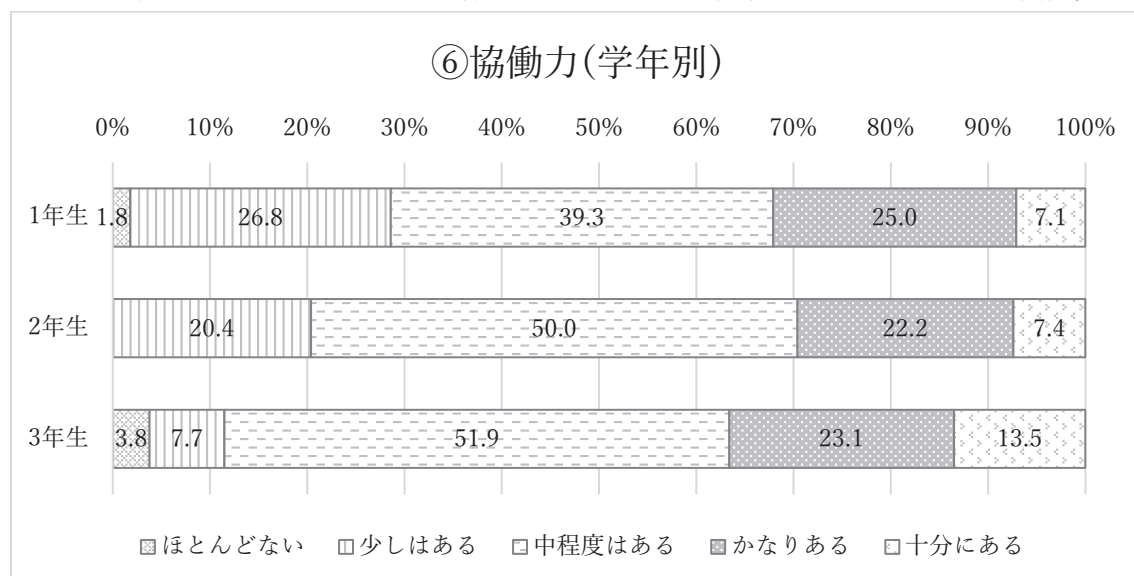


批判的思考力については、1年生は「少しはある」と回答した人が44.6%と最多であった。2・3年生については「中程度はある」と回答した人が最も多く、2年生40.7%、3年生50.0%であった。「全くない」という回答はなかった。

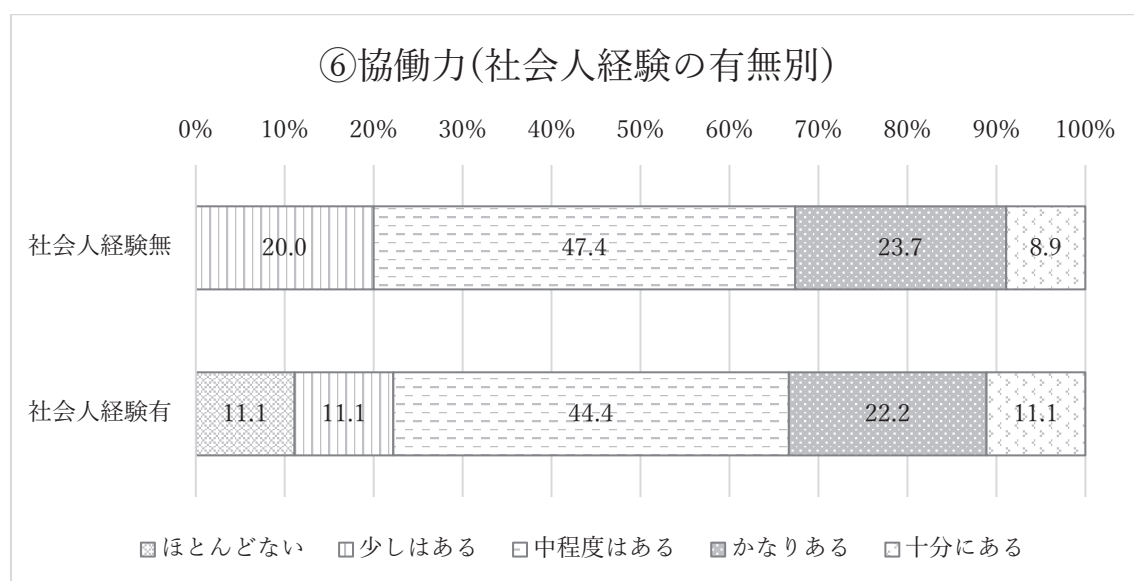


社会人経験の有無別で⑤批判的思考力をみると、社会人経験有では、「ほとんどない」の回答が11.1%で社会人経験無と比べると2倍であるが、「かなりある」「十分にある」の割合も多い。「全くない」という回答はなかった。

⑥協働力(異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢)



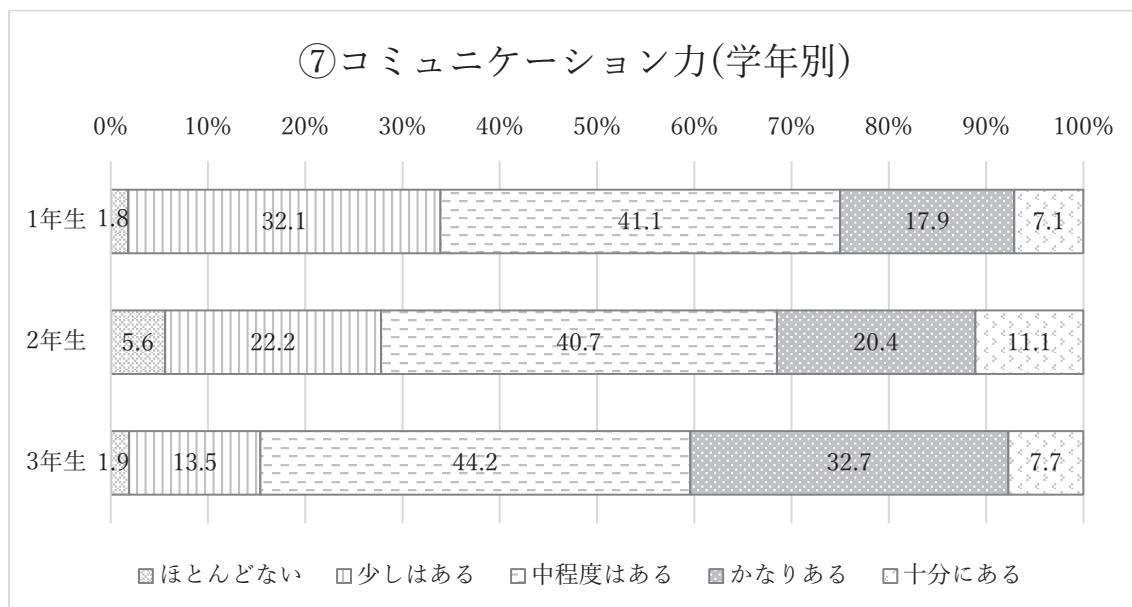
協働力については、全学年「中程度はある」と回答した人が最も多く、1年生 39.3%、2年生 50.0%、3年生 51.9%であった。「全くない」という回答はなかった。



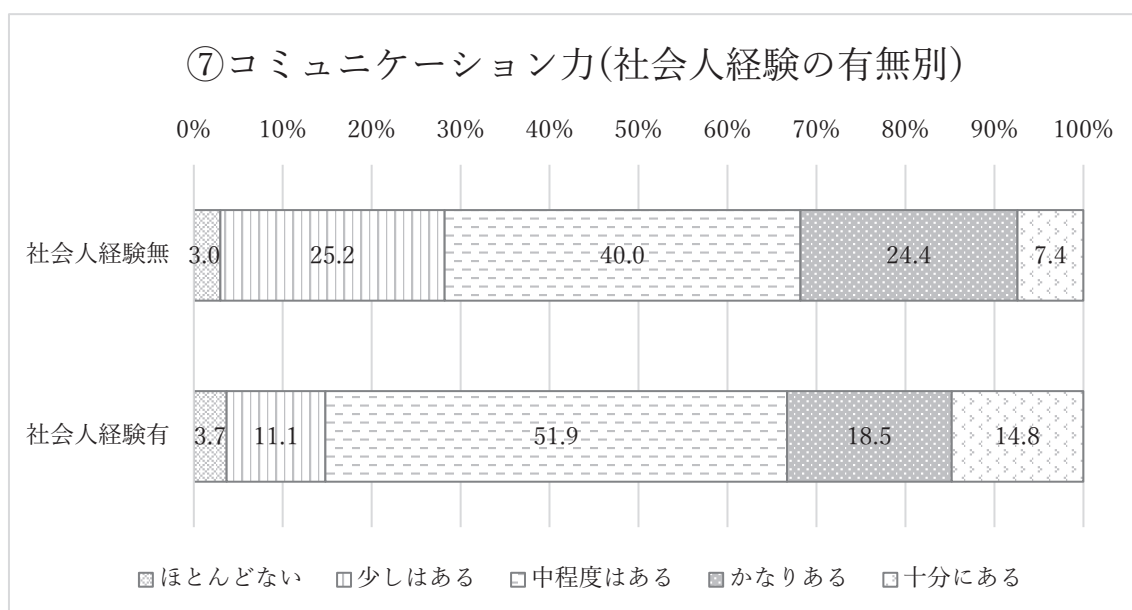
χ^2 検定、 $p < 0.01$

社会人経験の有無別で⑥協働力をみると、社会人経験無では、「ほとんどない」という回答はみられなかったが、社会人経験有では、11.1%であった。「ほとんどない」「少しはある」を合算すると、社会人経験による差は無い。「全くない」という回答はなかった。

⑦コミュニケーション力(お互いの気持ちや感情を理解・尊重し合いながら、適切なタイミングや表現方法で自分の感情や意思を伝えたり、受け止めたりして、信頼関係を築くことができる力)

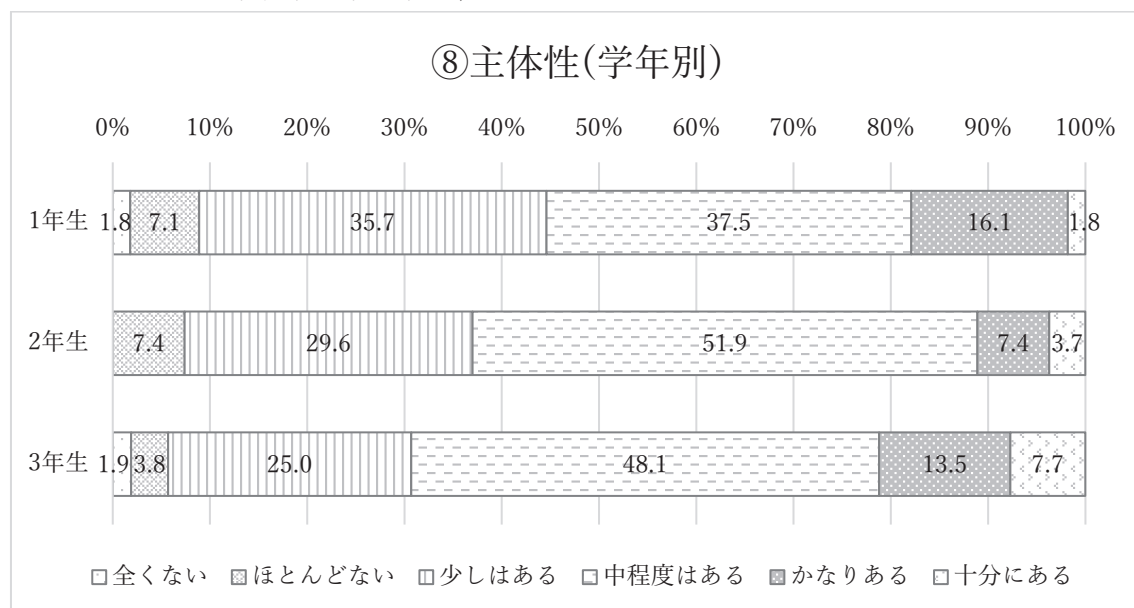


コミュニケーション力について、全学年「中程度はある」と回答した人が最も多く、1年生 41.1%、2年生 40.7%、3年生 44.2%であった。「全くない」という回答はなかった。

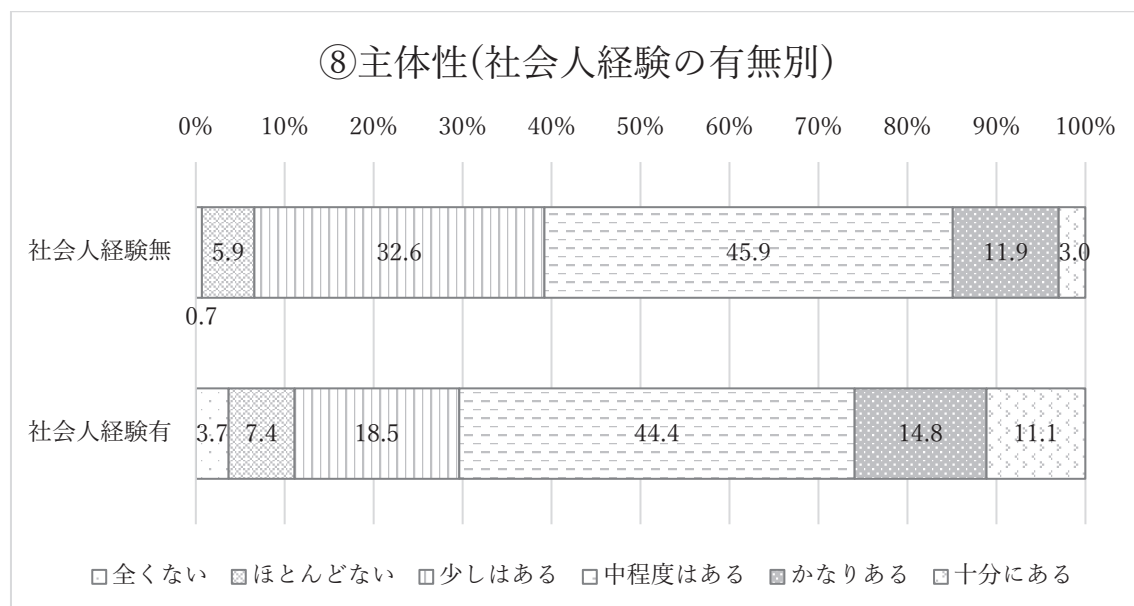


社会人経験の有無別で⑦コミュニケーション力をみると、社会人経験有の自信のある者(「中程度はある」「かなりある」「十分にある」)は 85.2%で、社会人経験無の 71.8%と比べて多かった。「全くない」という回答はなかった。

⑧主体性(自分の意志や判断によって責任を持って行動する姿勢、および実行し成果を出そうとする意欲。自発性、自主性。)

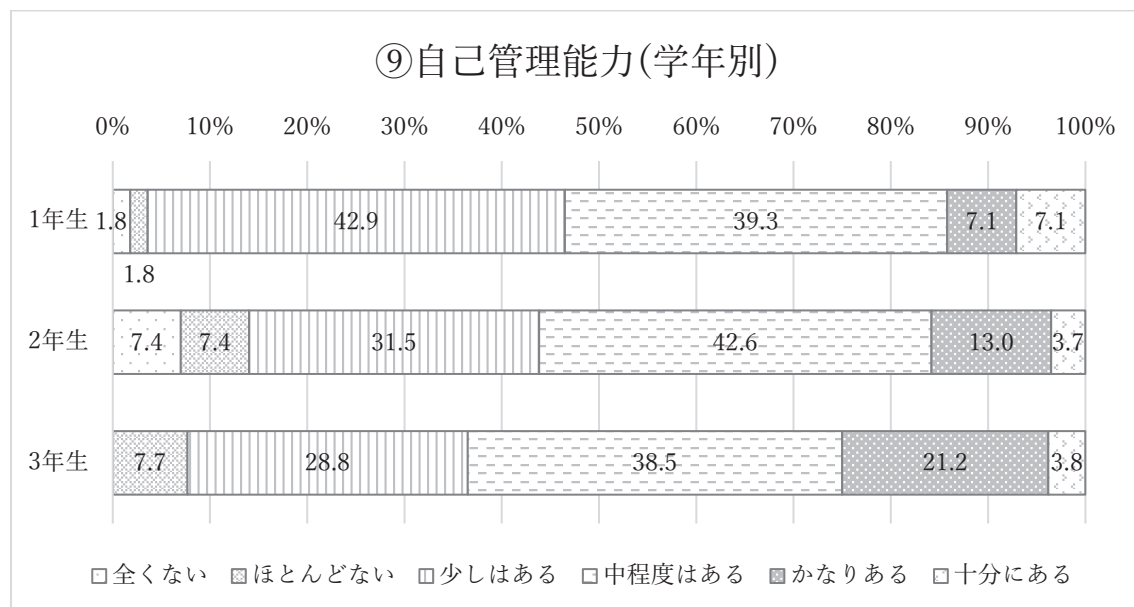


主体性については、全学年「中程度はある」と回答した人が最も多く、1年生 37.5%、2年生 51.9%、3年生 48.1%であった。

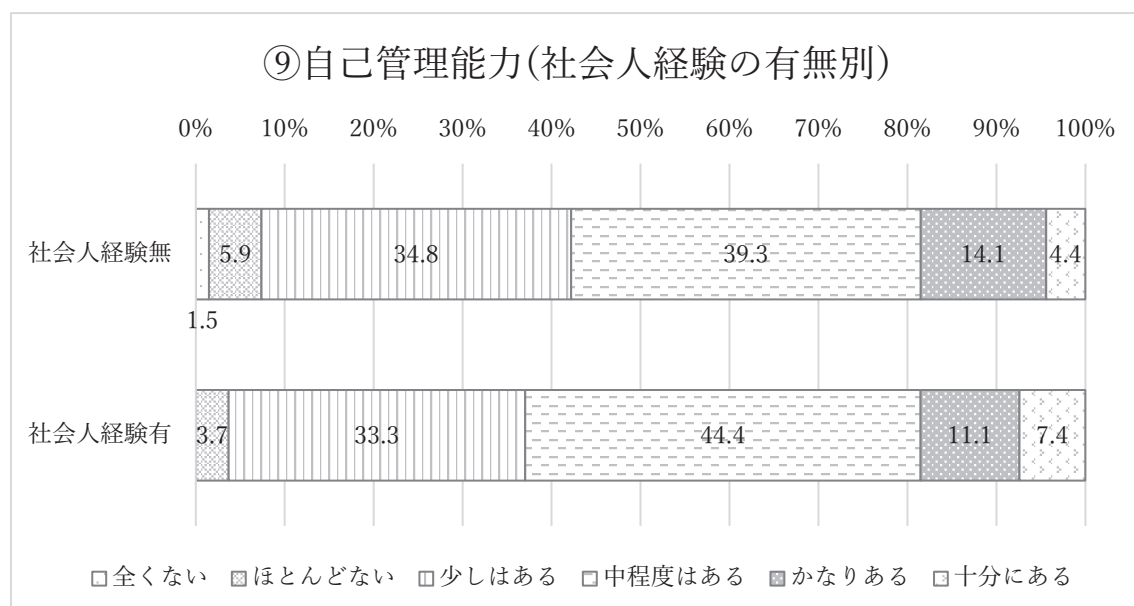


社会人経験の有無別で⑧主体性をみると、社会人経験有の自信のある者(「中程度はある」「かなりある」「十分にある」)は 70.3%で、社会人経験無の 60.8%と比べて多かった。

⑨自己管理能力(自分の目標や目的を達成するため、または集団のルールの中で自分の役割を果たすために、自分を律し、管理し、自己を分析することができる力。感情や行動のセルフコントロール、ストレスマネジメントや健康管理を含む。)

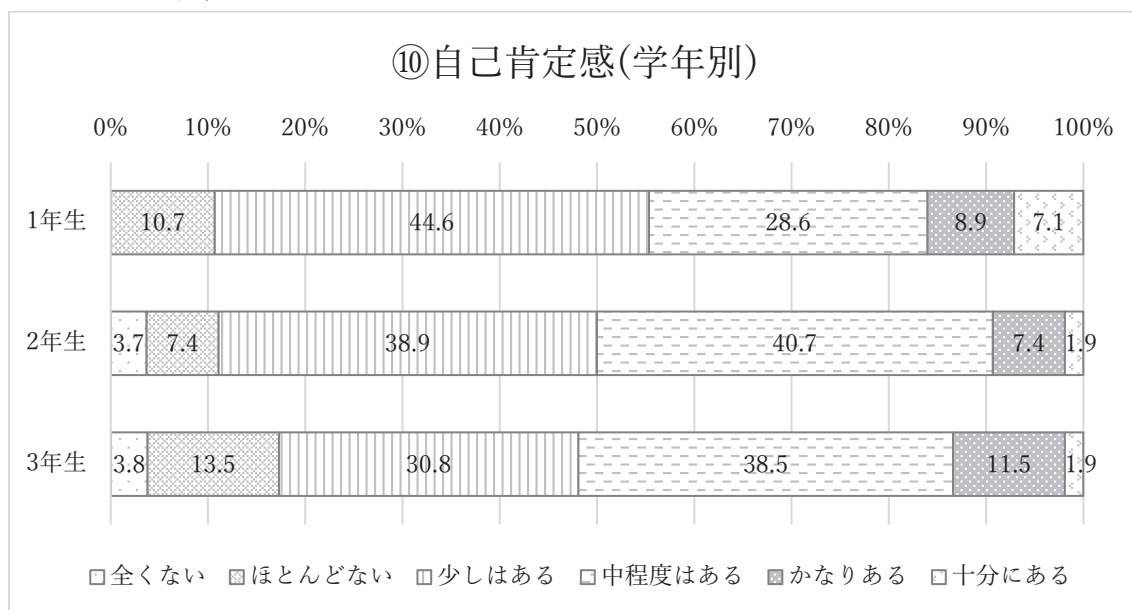


自己管理能力については、1年生は「少しはある」と回答した人が最も多く42.9%であった。2・3年生は「中程度はある」と回答した人が最も多く、2年生42.6%、3年生38.5%であった。

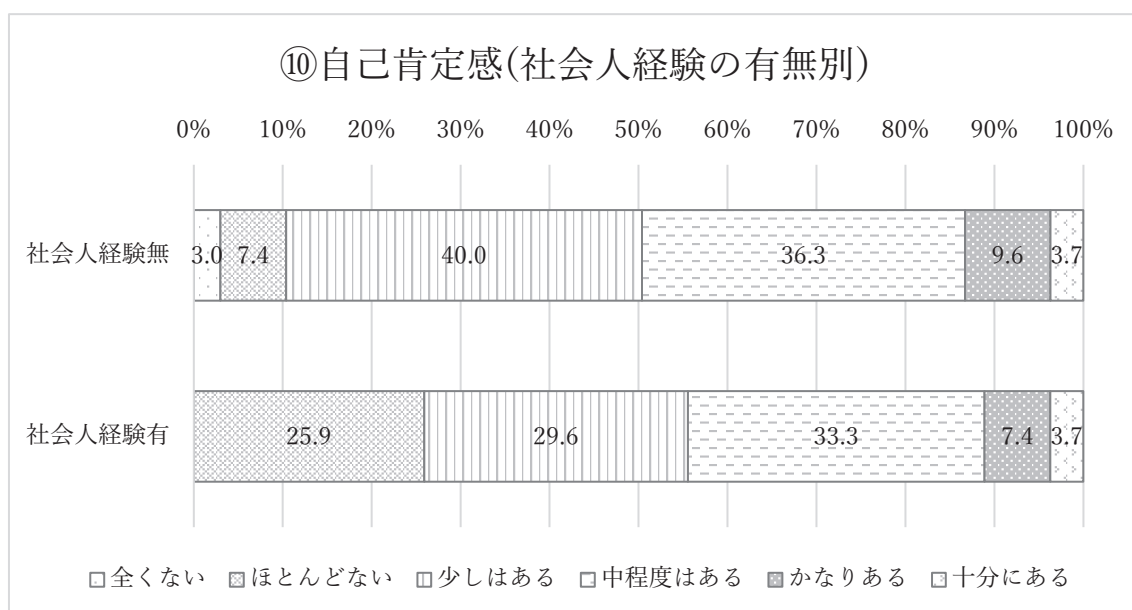


社会人経験の有無別で⑨自己管理能力をみると、社会人経験有は、「全くない」という回答はなかった。「十分にある」という回答は7.4%であり、社会人経験無に比べてやや自信のある者が多い。

⑩自己肯定感(自分の在り方を積極的に評価できる感覚、および自分の価値や存在意義を肯定できる感覚)

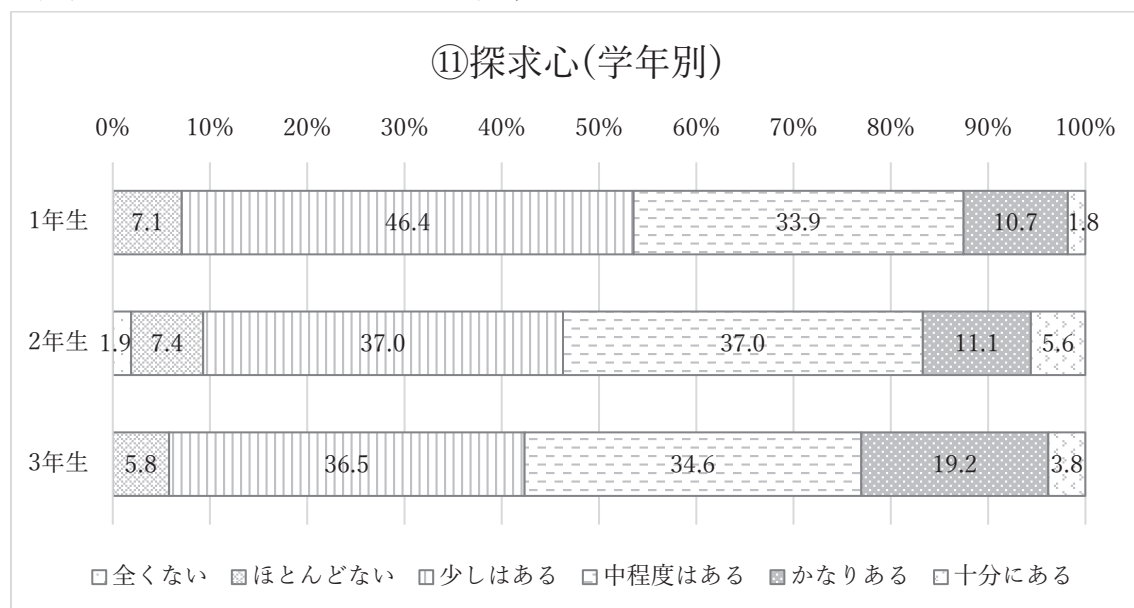


自己肯定感については、1年生は「少しはある」と回答した人が最も多く 44.6%であった。2・3年生は「中程度はある」と回答した人が最も多く、2年生 40.7%、3年生 38.5%であった。

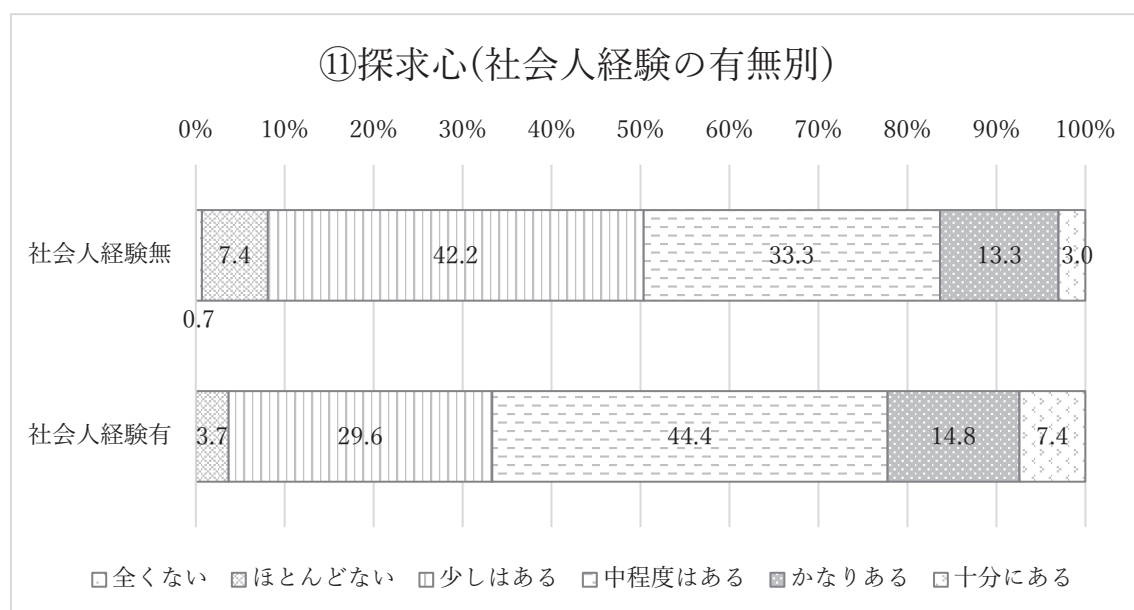


社会人経験の有無別で⑩自己肯定感をみると、社会人経験有は、「全くない」という回答はなかった。社会人経験無の自信のある者(「中程度はある」「かなりある」「十分にある」)は 49.6%で、社会人経験有の 44.4%と比べて多かった。

⑪探求心(物事の本質を捉えようとする姿勢、および本質や意義について、より掘り下げて見極めようとする意欲、および好奇心)

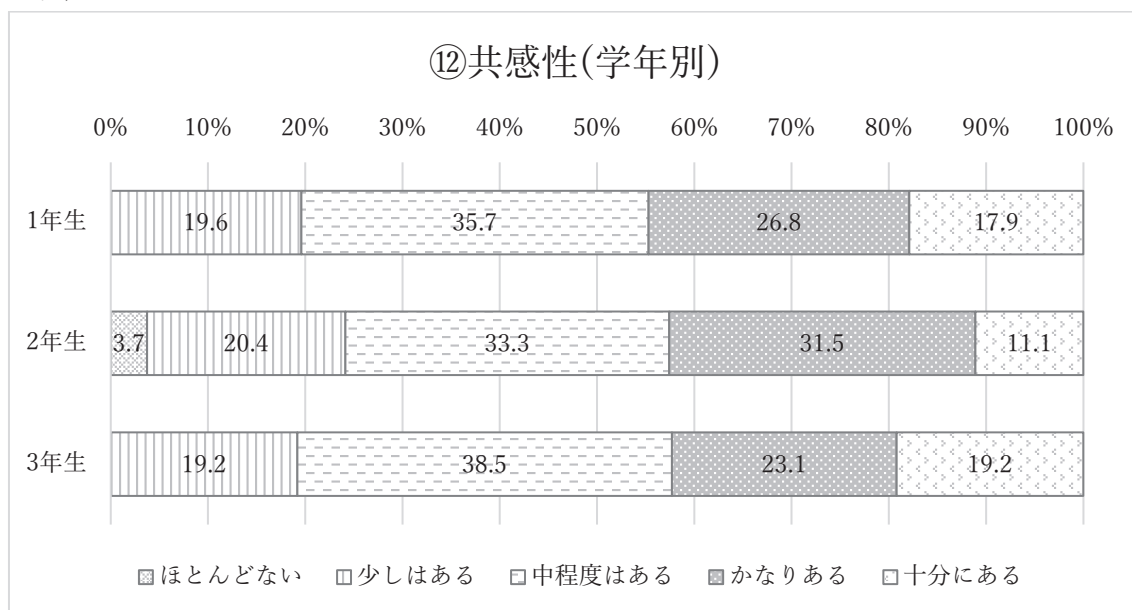


探求心については、1年生は「少しはある」と回答した人が最も多く46.4%であった。2年生は「少しはある」「中程度はある」と回答した人が37.0%で横並びであった。3年生は「少しはある」が36.5%、「中程度はある」が34.6%であった。

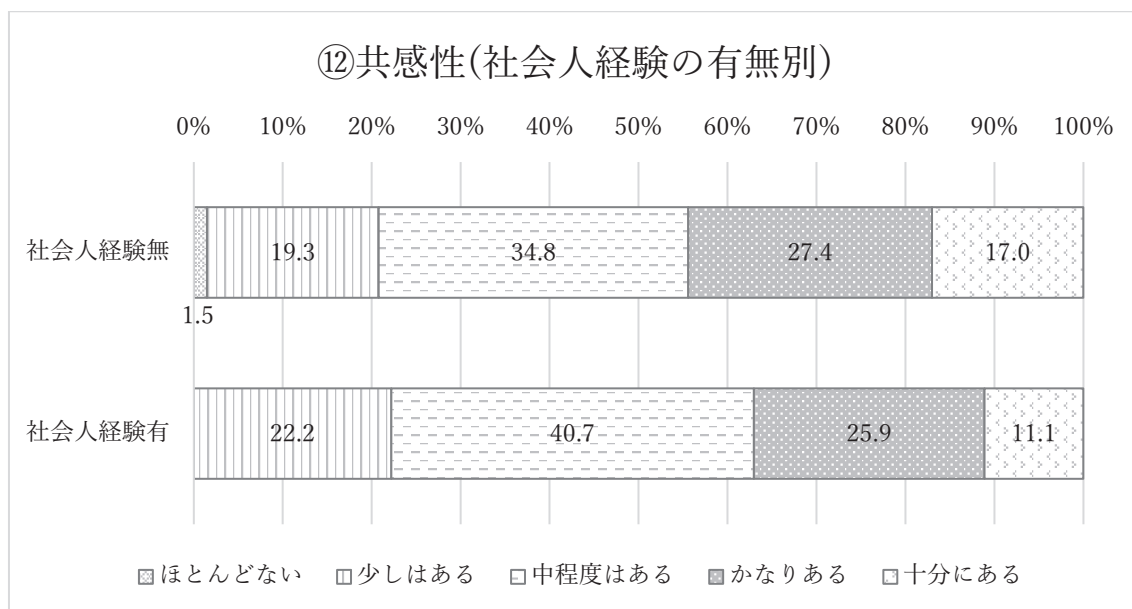


社会人経験の有無別で⑪探求心をみると、社会人経験有の自信のある者(「中程度はある」「かなりある」「十分にある」)は66.6%で、社会人経験無の49.6%と比べて多かった。

⑫共感性(他者と喜怒哀楽の感情を共有すること、またはそれらを感じ取ることができる感性)

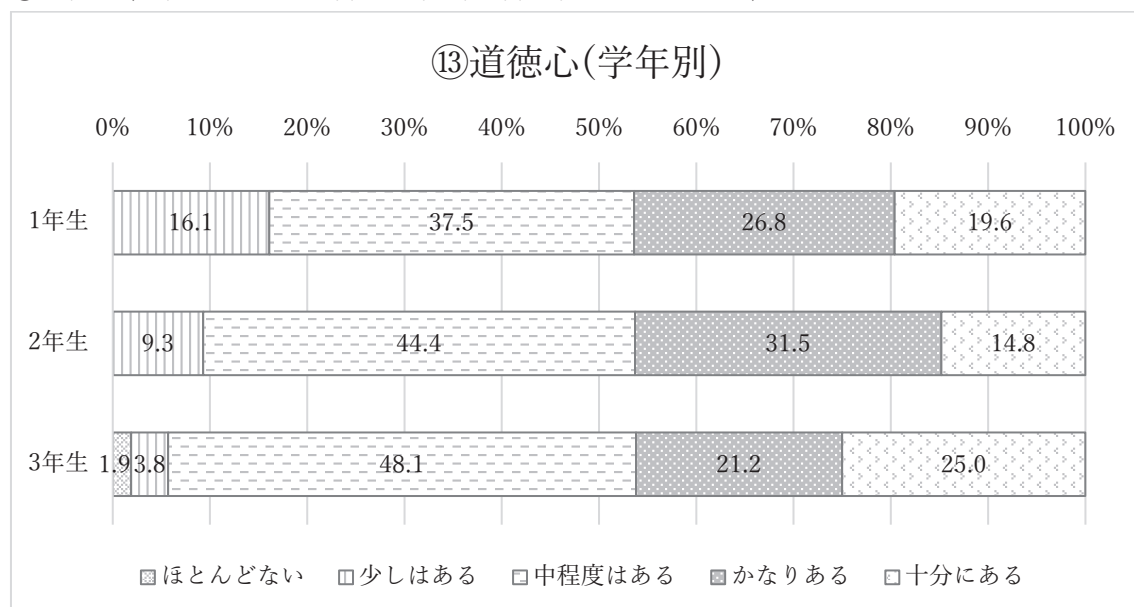


共感性については、全学年「中程度はある」と回答した人が最も多く、1年生 35.7%、2年生 33.3%、3年生 38.5%であった。「全くない」という回答はなかった。

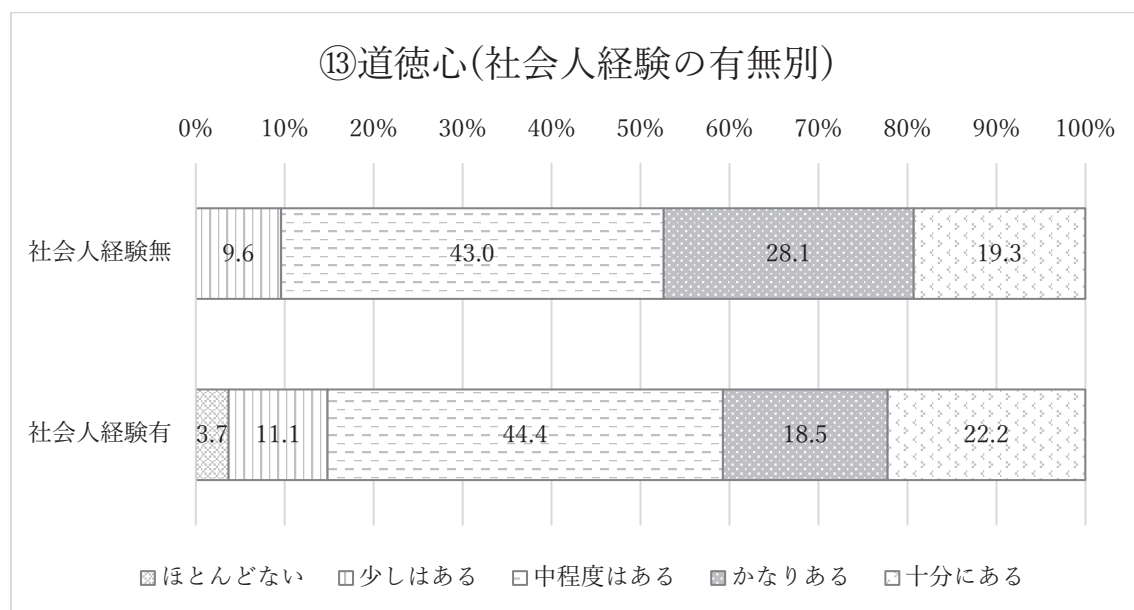


社会人経験の有無別で⑫共感性をみると、自信のある者(「中程度はある」「かなりある」「十分にある」)について、社会人経験有は 77.7%、社会人経験無は 79.2%で、どちらも約 8 割は自信があると回答している。「全くない」という回答はなかった。

⑬道徳心(道徳を守る心、善悪を判断し善を行おうとする心)

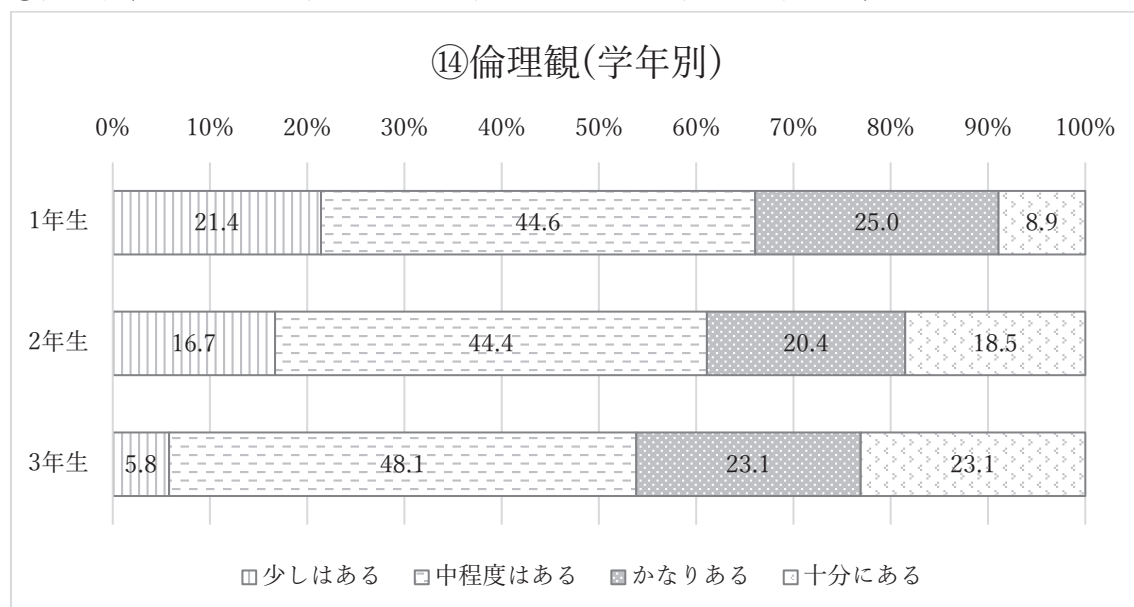


道徳心については、全学年「中程度はある」と回答した人が最も多く、1年生 37.5%、2年生 44.4%、3年生 48.1%であった。「全くない」という回答はなかった。

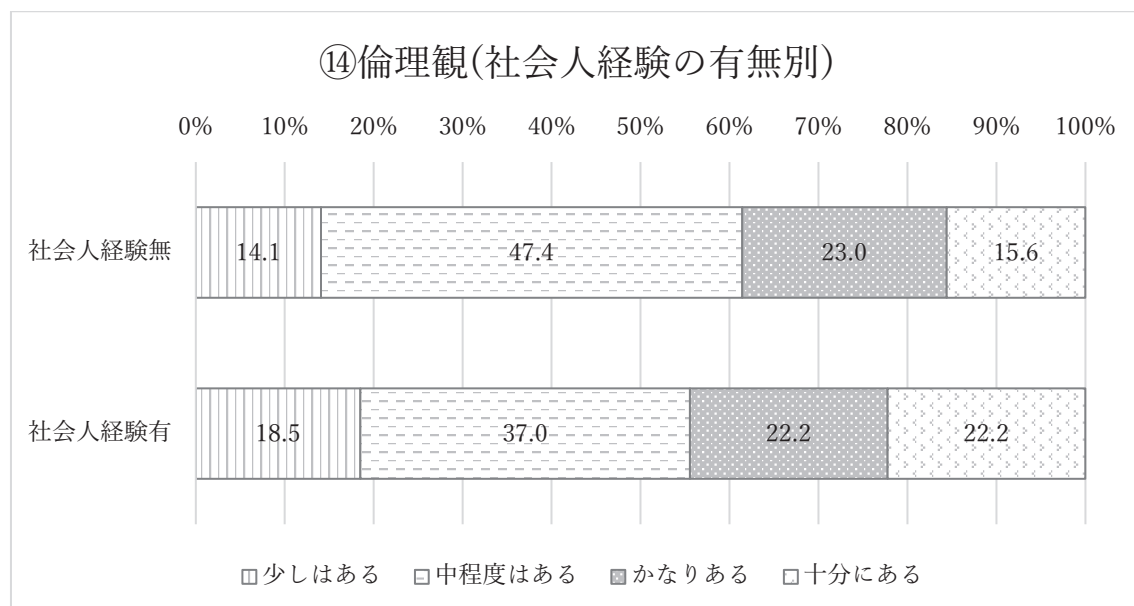


社会人経験の有無別で⑬道徳心をみると、社会人経験無の自信のある者(「中程度はある」「かなりある」「十分にある」)は 90.4%で、社会人経験有の 85.1%と比べて多かった。「全くない」という回答はなかった。

⑭倫理観(人として守り行うべき道、倫理についての考え方や捉え方)

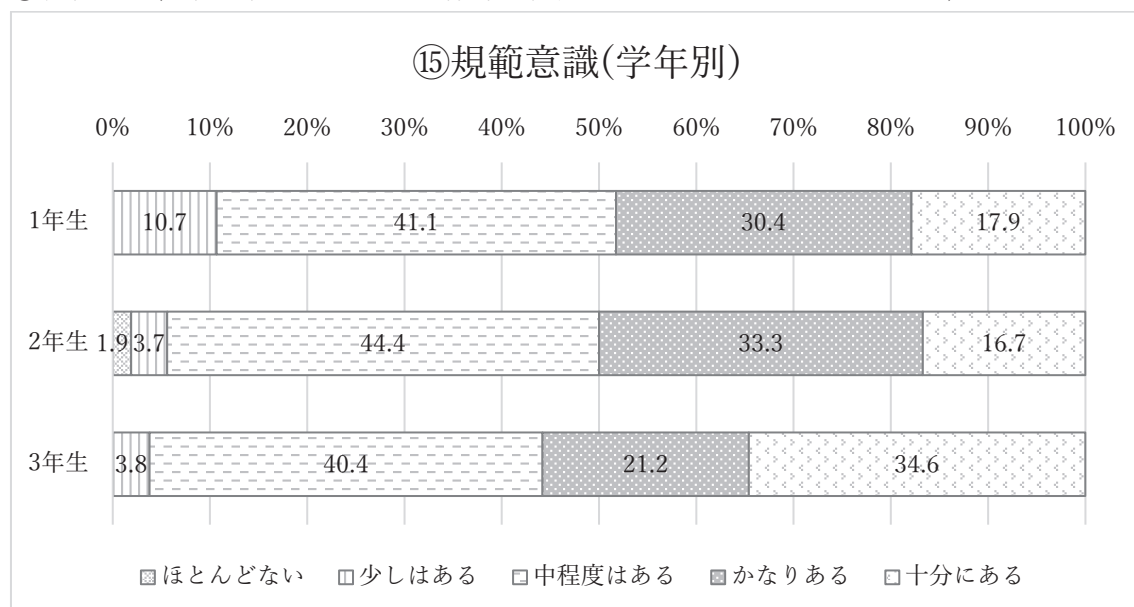


倫理観については、全学年「中程度はある」と回答した人が最も多く、1年生 44.6%、2年生 44.4%、3年生 48.1%であった。「全くない」「ほとんどない」という回答はなかった。学年が上がるにつれ、「かなりある」「十分にある」という回答の割合も増えている。

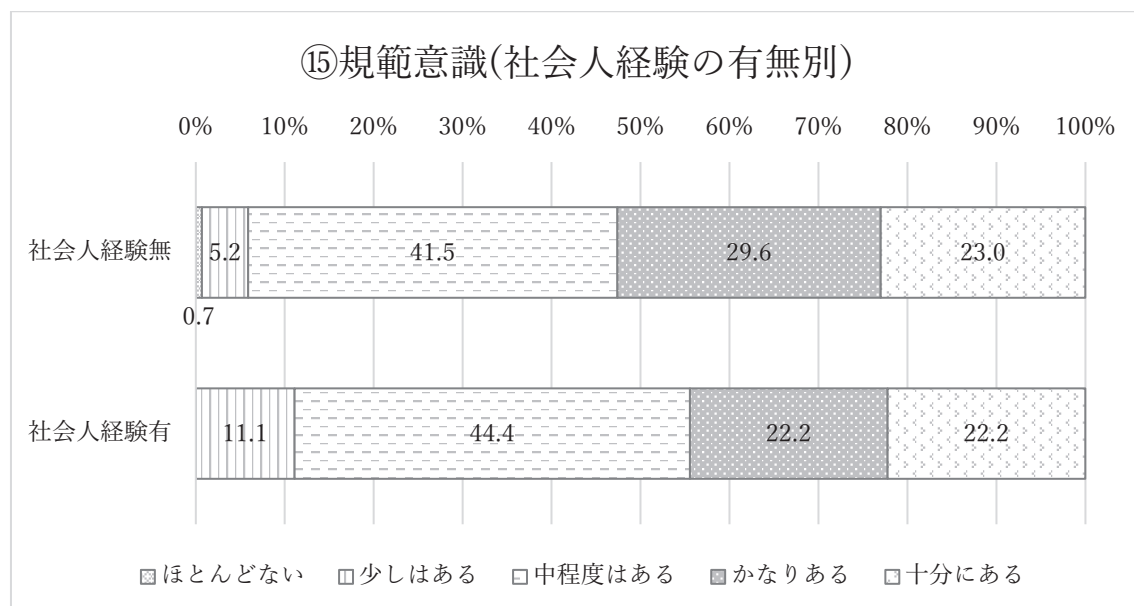


社会人経験の有無別で⑭倫理観をみると、自信のある者(「中程度はある」「かなりある」「十分にある」)について、社会人経験無は 86.0%、社会人経験有は 81.4%とどちらも 8割以上は自信があると回答している。「全くない」「ほとんどない」という回答はなかった。

⑮規範意識(道徳、倫理、および法律等の社会のルールを守ろうとする意識)

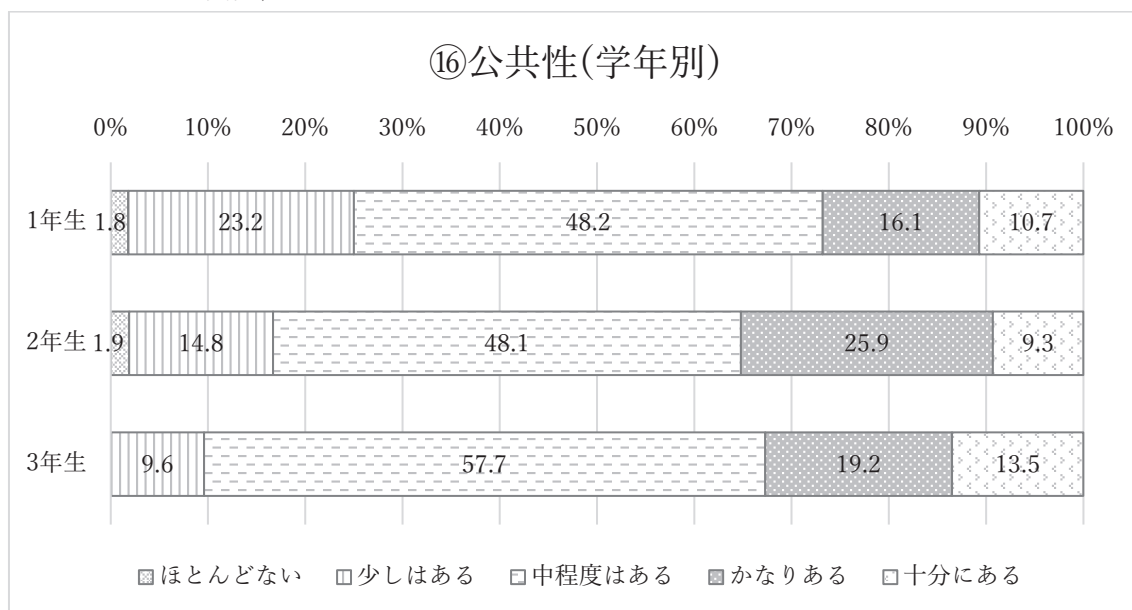


規範意識については、全学年「中程度はある」と回答した人が最も多く、1年生 41.1%、2年生 44.4%、3年生 40.4%であった。3年生は「十分にある」と回答した人も 34.6%と比較的多かった。「全くない」という回答はなかった。

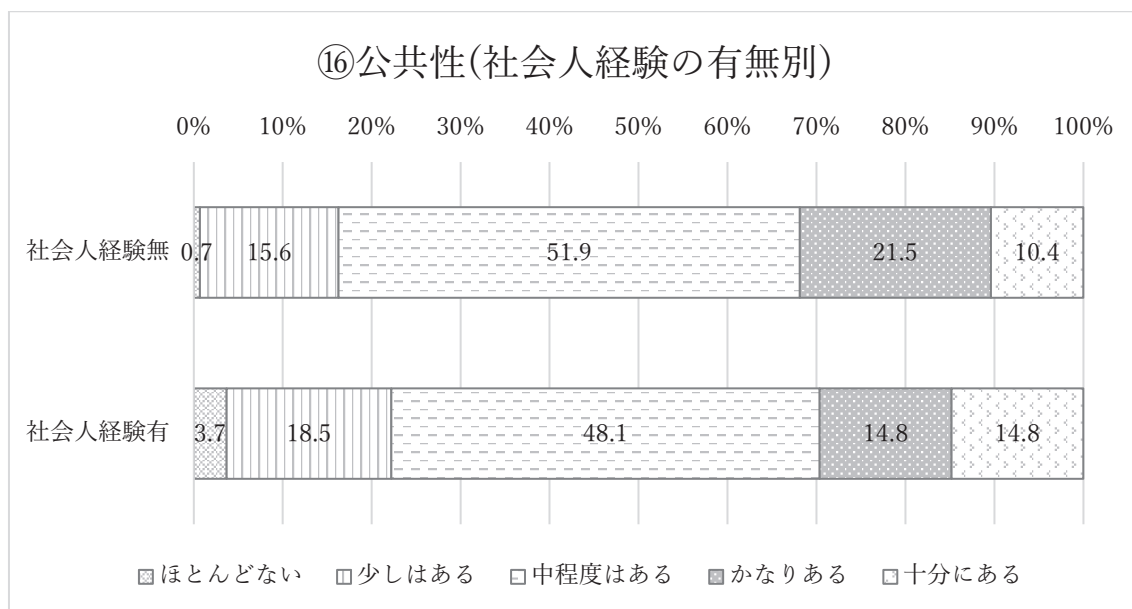


社会人経験の有無別で⑮規範意識をみると、自信のある者(「中程度はある」「かなりある」「十分にある」)について、社会人経験無は 94.1%、社会人経験有は 88.8%とどちらも約9割は自信があると回答している。「全くない」という回答はなかった。

⑩公共性(価値観が違ふと思われる組織、集団、社会の自分の役割を理解し、その責務を果たそうとする姿勢)



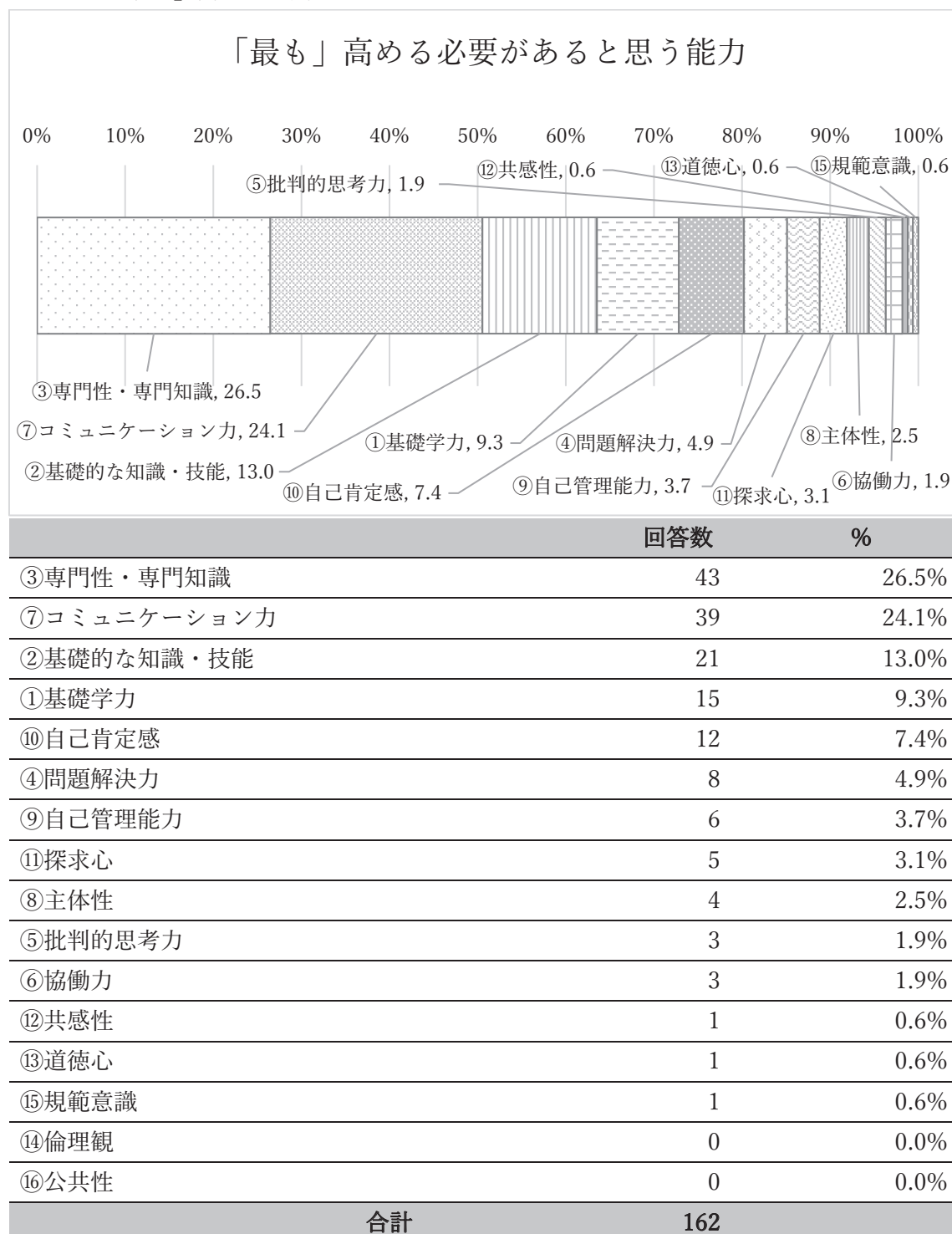
公共性については、全学年「中程度はある」と回答した人が最も多く、1年生 48.2%、2年生 48.1%。3年生 57.7%であった。「全くない」という回答はなかった。



社会人経験の有無別で⑩公共性をみると、自信のある者(「中程度はある」「かなりある」「十分にある」)について、社会人経験無は 83.8%、社会人経験有は 77.7%とどちらも約 8 割は自信があると回答している。「全くない」という回答はなかった。

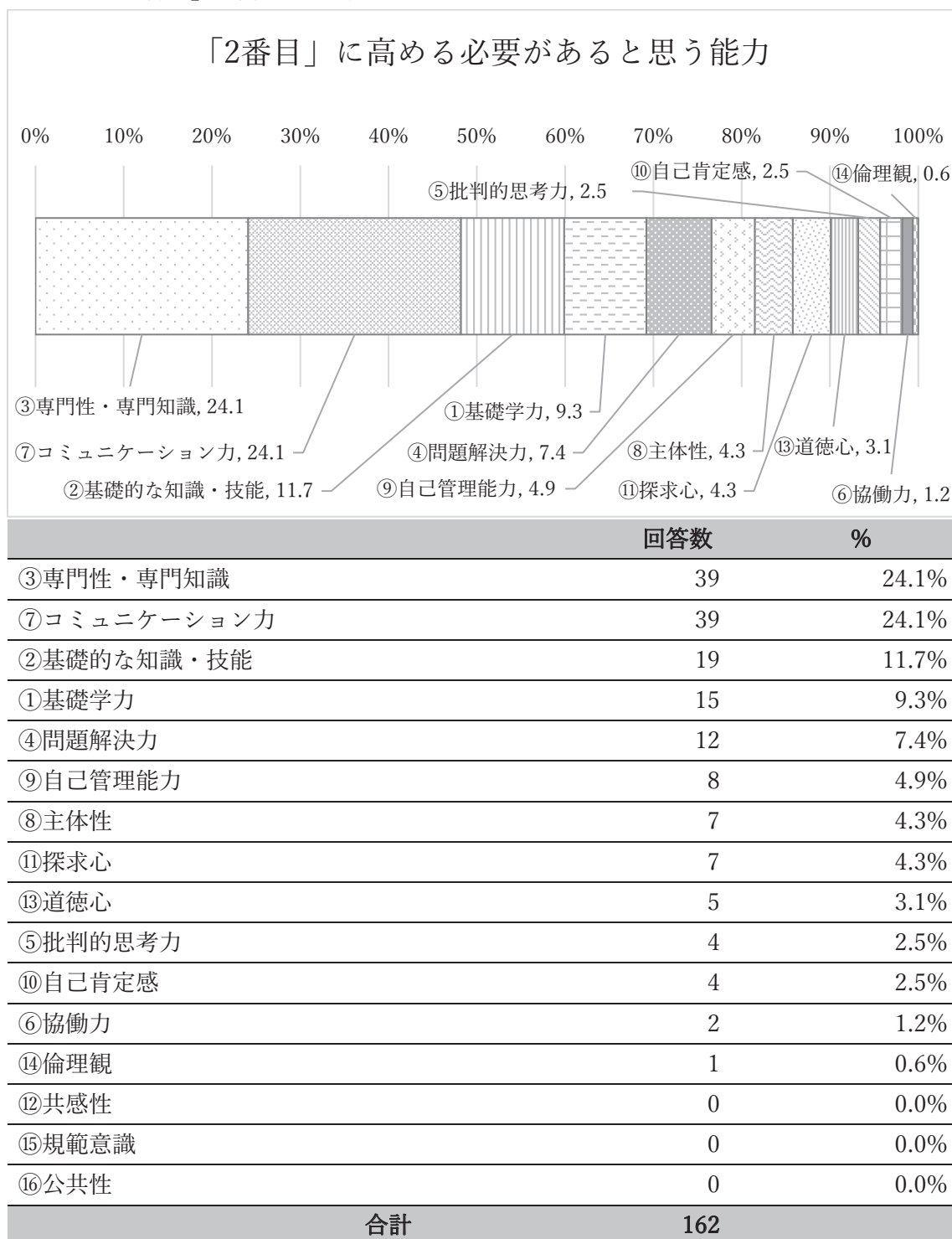
3-(2) 各能力の必要性の認識

あなたが「最も」高める必要があると思う能力を1つ選んで下さい。



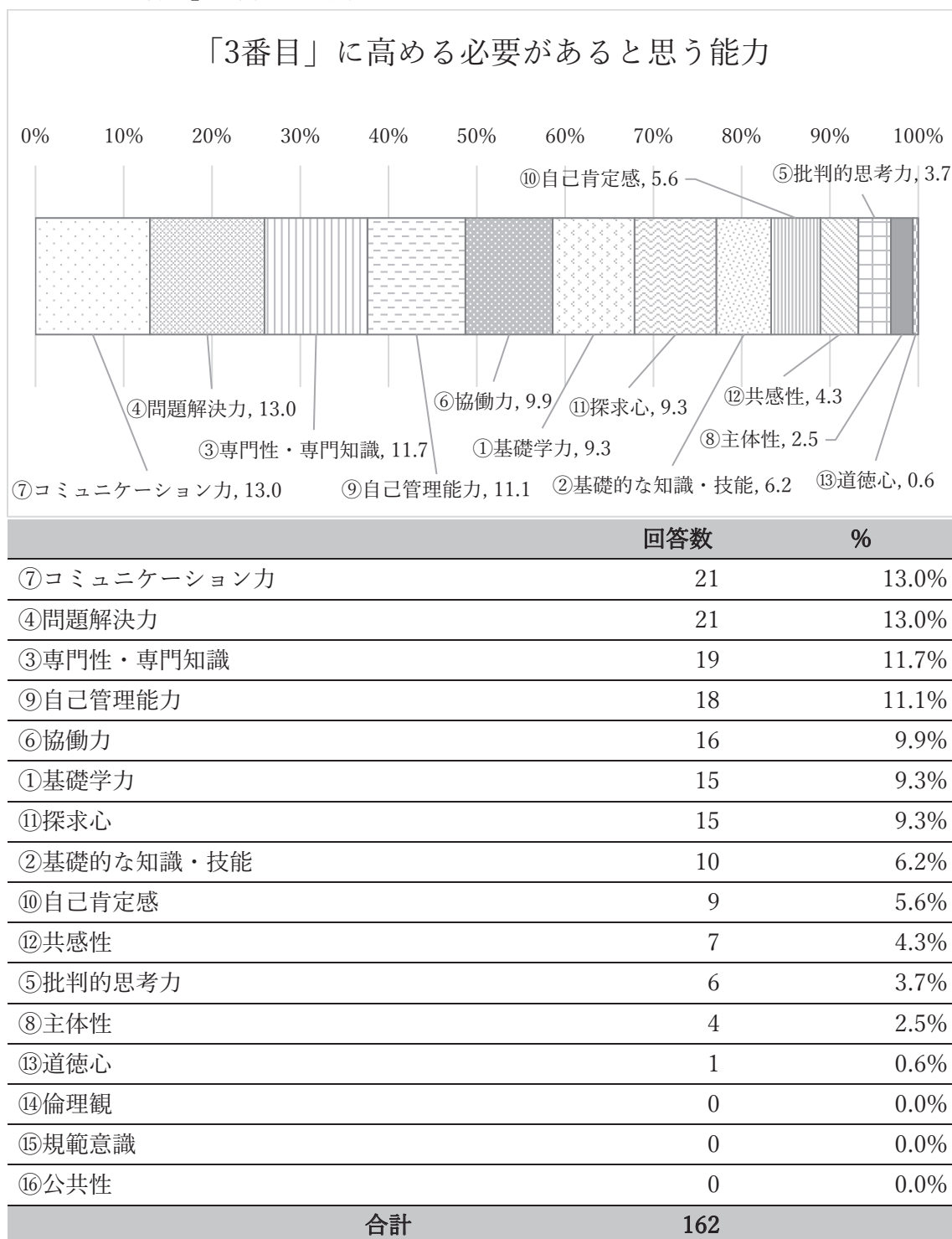
最も高める必要があると思う能力については、「③専門性・専門知識」が26.5%と最も多く、次に「⑦コミュニケーション力」が24.1%であった。「⑭倫理観」「⑯公共性」という回答はなかった。

あなたが「2 番目」に高める必要があると思う能力を 1 つ選んで下さい。



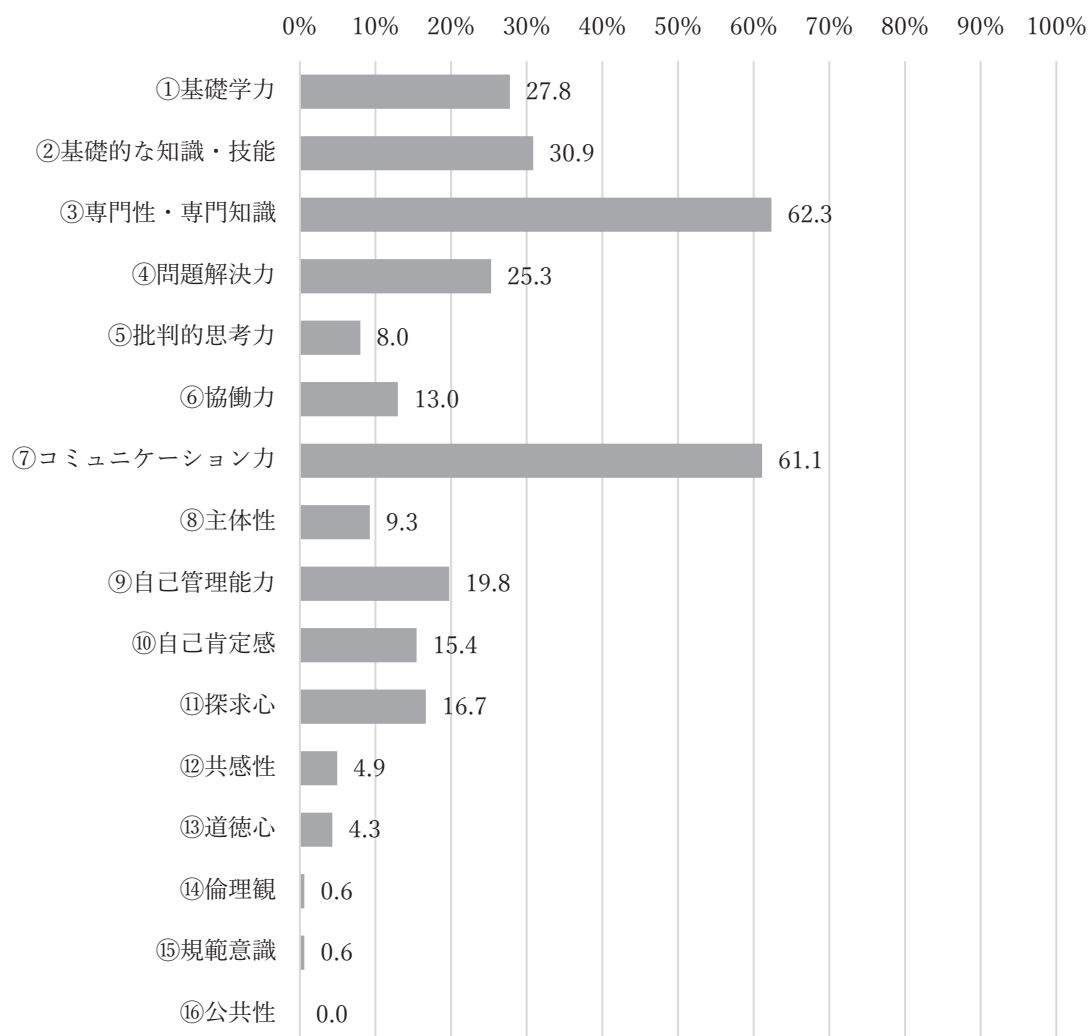
2 番目に高める必要があると思う能力については、「③専門性・専門知識」「⑦コミュニケーション力」が並んで 24.1%と最も多かった。次に「②基礎的な知識・技能」が 11.7%であった。「⑫共感性」「⑮規範意識」「⑯公共性」という回答はなかった。

あなたが「3 番目」に高める必要があると思う能力を 1 つ選んで下さい。



3 番目に高める必要があると思う能力については、「⑦コミュニケーション力」「④問題解決力」が並んで 13.0%と最も多かった。次に「③専門性・専門知識」が 11.7%であった。「⑭倫理観」「⑮規範意識」「⑯公共性」という回答はなかった。

高める必要があると思う能力(N=162)
(1位から3位の合計)



	回答数	%*
①基礎学力	45	27.8%
②基礎的な知識・技能	50	30.9%
③専門性・専門知識	101	62.3%
④問題解決力	41	25.3%
⑤批判的思考力	13	8.0%
⑥協働力	21	13.0%
⑦コミュニケーション力	99	61.1%
⑧主体性	15	9.3%
⑨自己管理能力	32	19.8%
⑩自己肯定感	25	15.4%
⑪探求心	27	16.7%
⑫共感性	8	4.9%
⑬道徳心	7	4.3%
⑭倫理観	1	0.6%
⑮規範意識	1	0.6%
⑯公共性	0	0.0%
合計	486	

*：回答者数(162人)を100%として選択肢ごとに計算

高める必要があると思う能力について、「③専門性・専門知識」が62.3%と過半数を占めており、次に「⑦コミュニケーション力」が61.1%であった。「⑯公共性」という回答はなかった。

3-(3) 3-(2)各能力の必要性の認識の理由

高める必要があると選んだものについて、それを選んだ理由をご記入下さい。

※記載された理由は、1位から3位を合わせてカテゴリー化を実施

①基礎学力(高等学校までの国語、数学、英語など)

カテゴリー	内容	回答数
総論	何事も基礎が重要だと感じるから。	18
卒後関連	社会に出る上で必要だと思うから。	2
	正しい日本語などの使い方があやふやな為。	1
	専門的な仕事だから。	1
	人に説明することが苦手だから。	1
国試関連	卒試、国試に向けて必要だから	2
	学力に影響しているから。	2
	文章力がなく困る場面があるから。	1
	問題を読み解く力も大切なため。	1
	テストの成績が悪く、よく理解できていないため。	1
	数学が苦手だから。	1
	頭の使い方を間違っているため。	1
	心の問題より勉強の方が人より劣っていると思ったから。	1
	学生の頃は勉強をしなかったから。	1
	高校で学んだことを生かせていないから。	1
	みんなが当たり前に知っていることを知らないことがあり、 ショックを受けることが多々あるから。基礎学力の無さに驚いたから。	1
	少しはあってもそれを活かせてないから。	1
	学力がないと症状を説明するのが難しいと思うから。	1
	普通くらいにはあるとおもった。	1
	専門学校に通っているうちに忘れてしまった部分があるため。	1
	知識が足りないから。	1
合計		41

①基礎学力を選んだ理由について、「何事も基礎が重要だと感じるから」が18名と最も多かった。その他の回答は、「社会に出る上で必要だと思うから」などの卒後に生かされる内容や、資格習得のために必要という国家試験関連の内容などであった。

②基礎的な知識・技能(ニュースなどで得る社会情勢や法律、スマホやPCを使いこなすなど科学技術に関するもの、日常生活におけるマナー：挨拶をする、時間を守るなど)

カテゴリー	内容	回答数
卒後関連	基礎が重要だと感じるから。	12
	将来歯科衛生士になる上でとても大切だと思ったから。	9
	基本がないと応用は身につかないから。	5
	基礎技術が劣っていると思うから。	2
	基礎的な知識がないと技術もつかないと思うから。	4
	基礎的な知識、技術がないと患者さんに不快感を与えてしまうから。	2
	一般論を知らないことが多いため。	1
	最低限必要だと思ったから。	1
	実習に行ったときにわからなかったから。	1
	今以上にもっと高めて臨機応変に対応していけるようになるため。	1
	知識はあっても困らないため。人との会話の中で話題になったり、さらに交流をひろげられたりするため。	1
学習・国試 関連	勉強不足をひしひしと実感しているから。	2
	基礎ができていないと学校で苦勞するため。	1
	学校で学びたいから。	1
	定期テストが大変なため。	1
	専門性の高い学校に修学する上で、その他の点は他の環境でも高める機会があるのに比べて基礎的な知識・技能は専門学校でしか得られないものであるため。	1
	専門知識を学ぶ上で計算や物理的な基礎的な力も必要だと感じたため。	1
その他	ニュースなどをあまり見ないから。	1
	社会に出ていろんな人とかわる際必要だから。	1
合計		48

②基礎的な知識・技能を選んだ理由について、「基礎が重要だと感じるから」が12名と最も多かった。「将来歯科衛生士になる上でとても大切だと思ったから」などの卒後関連の内容や、「勉強不足をひしひしと実感しているから」などの現在の学習面での理由に分かれた。

③専門性・専門知識(歯科衛生学に関する知識と経験)

カテゴリー	内容	回答数
必要性の認識	歯科衛生士になる上で専門知識はとても大切だから。	45
不足の自覚	歯科衛生士としての専門知識が足りてないと思うから。	34
患者さんのため	患者さんへの説明などを行う際に必要になると思うから。	14
	国家試験があるから。	3
その他	適応力を高めるために必要だから。	1
	これから必要になるから。	1
合計		98

③専門性・専門知識を選んだ理由について、「歯科衛生士になる上で専門知識はとても大切だから」が45名と最も多かった。ほぼ同様に、「歯科衛生士としての専門知識が足りていないと思うから」という不足の自覚も34名と比較的多かった。

④問題解決力(自分で考え、本質的な問題を発見し、解決策を立案し、さらに、それを臨機応変かつ適切に対応しながら実行し成果を出すことができる力)

カテゴリー	内容	回答数
必要性の認識	自分自身で解決していく力を身につけたいから。	18
	臨機応変に対応がまだ難しいから。	8
不足の自覚	問題を人任せにしていることが多いから。	4
	問題をそのままにしがちだから。	3
患者さんのため	治療の流れや知識を身に付けるにおいて、その人の立場に立って解決するつもりで考えることが役立つと感じたため。	2
	歯科衛生士において大切だから。	1
その他	社会で必要だから。	1
	表面的なことだけを見るのではなく、それまでの過程をみることも大切だと感じる為。	1
合計		38

④問題解決力を選んだ理由について、「自分自身で解決していく力を身につけたいから」が18名と最も多かった。「臨機応変な対応がまだ難しいから」などの不足の自覚や、患者さんのためという回答に分かれた。

⑤批判的思考力(他者および自分の考えに対して熟考し、先入観にとらわれずに、俯瞰的な視点から考えることができる力)

カテゴリー	内容	回答数
不足の自覚	相談する癖があるから。	1
	色々な視点からものを見ることが苦手だから。	1
	何でも受け入れてしまうから。	1
	どのようにするのが正解か分からないことがあるから。	1
批判的 思考力の 理解不足	同情心が湧くから。	1
	結構ネガティブだから。	1
	臨機応変に対応できるように。	1
	判断が必要な仕事だから。	1
	私は批判するのが嫌いなので、信頼している人が正しいと言ったことが正しいと思う傾向があるから。	1
	感情的になりやすいから。	1
	批判的にならず素直に受け入れることが大事だと思うから。	1
合計		11

⑤批判的思考力を選んだ理由について、「相談する癖があるから」などの不足の自覚がみられた。その他の回答については、「同情心が湧くから」など批判的思考という言葉の意味の理解不足の回答があった。

⑥協働力(異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢)

カテゴリー	内容	回答数
仕事での 必要性の認識	働く上で大切。	8
	チームが大切だから。	5
	人と関わることは大切だから。	4
	自分でやる方が早いと思うため。	1
患者さんの ため	患者さんと一緒に頑張らないと口腔内の環境は良くならないと考えるから。また、スタッフさんとの協力が必須になってくるから。	1
合計		19

⑥協働力を選んだ理由について、「働く上で大切」が8名と最も多かった。患者さんのためとする回答もみられた。

- ⑦コミュニケーション力(お互いの気持ちや感情を理解・尊重し合いながら、適切なタイミングや表現方法で自分の感情や意思を伝えたり、受け止めたりして、信頼関係を築くことができる力)

カテゴリー	内容	回答数
必要性の認識	社会で必要だから。	29
	三年間仲間と過ごしていくのに必要な能力だと思ったから。	2
患者さんのため	患者さんとのコミュニケーションが大切だから。	22
	歯科衛生士にコミュニケーション能力はとても重要なことだから。	21
不足の自覚	人見知りで人と話すのが得意ではないから。	17
その他	周囲の人とコミュニケーションを取ることで得られる知識があると思う。	4
合計		95

⑦コミュニケーション力を選んだ理由について、「社会で必要だから」が29名と最も多かった。次に、「患者さんとのコミュニケーションが大切だから」などの患者さんのためとする理由は43名であった。その他の回答は、「人見知りで人と話すのが得意ではないから」などの不足の自覚の回答などがあつた。

⑧主体性(自分の意志や判断によって責任を持って行動する姿勢、および実行し成果を出そうとする意欲。自発性、自主性。)

カテゴリー	内容	回答数
不足の自覚	自主性が少なく、周りに同調したり流されたりすることが多いので自分の意思をしっかりとって責任感を高めたいから。	4
	自分で行動に移す事が苦手な為テスト期間の勉強が疎かになるので	1
	自分を表現することや意思を伝えることが苦手な為。	1
	考えて動く前に聞くから。	1
	指示待ちすることがあるため。	1
	周りの意見ばかりに聞き耳をたてることの方が多いから。	1
	これからは、誰かがやってくれると思って行動するのはダメだと思うから。	1
必要性の認識	一人でも出来るようになることが増える事で、色々な事がスムーズにいくようになるため、リーダーシップが取りやすくなるから。	1
	より積極性がほしいから。	1
	もっと積極的に質問したり出来た方がいいと思ったから。	1
	自ら主体的に学ぶ姿勢を持つことで、すべての面において自分の能力を高めることができると考えるため。	1
合計		14

⑧主体性を選んだ理由について、「自主性が少なく、周りに同調したり流されたりすることが多いので自分の意思をしっかりとって責任感を高めたいから」などの不足の自覚が10名であった。その他の回答は、「人より積極性がほしいから」などの必要性の認識に関する回答が4名であった。

- ⑨自己管理能力(自分の目標や目的を達成するため、または集団のルールの中で自分の役割を果たすために、自分を律し、管理し、自己を分析することができる力。感情や行動のセルフコントロール、ストレスマネジメントや健康管理を含む。)

カテゴリー	内容	回答数
不足の自覚	自己管理能力が低いから。	8
	規則正しい生活や、勉強の計画など自分で自分をコントロールしないといけないと思う。	6
	メンタルが弱いから。	4
	体調を崩すときがあるため。	2
	人に頼ってしまう部分があるから。	2
	私は片付けが苦手だから。	1
	時間に遅れることがあるから。	1
	物忘れが多いから。	1
	やる気になるまでに時間がかかる。	1
必要性の認識	社会人として重要だと思うから。	4
	健康でいることは大事だから。	1
合計		31

- ⑨自己管理能力を選んだ理由について、「自己管理能力が低いから」が8名と最も多かった。その他の回答は、「社会人として重要だと思うから」などの必要性の認識に関する回答があった。

- ⑩自己肯定感(自分の在り方を積極的に評価できる感覚、および自分の価値や存在意義を肯定できる感覚)

カテゴリー	内容	回答数
必要性の認識	自信を持って行動したいと思うから。	13
不足の自覚	自己肯定感が低いから。	12
合計		25

- ⑩自己肯定感を選んだ理由について、「自信を持って行動したいと思うから」が13名と最も多かった。ほぼ同数で、「自己肯定感が低いから」が12名であった。

⑪探求心(物事の本質を捉えようとする姿勢、および本質や意義について、より掘り下げて見極めようとする意欲、および好奇心)

カテゴリー	内容	回答数
必要性の認識	物事を深く考える必要があると思うから。	19
	意欲的に取り組む事が大切だから。	1
	医療はどんどん進歩していくから。	1
	社会で必要だから。	1
不足の自覚	気になることではないと調べようとしないから。	4
	自ら考えようとするのが苦手だから。	1
合計		27

⑪探求心を選んだ理由について、「物事を深く考える必要があると思うから」が19名と最も多かった。「気になることではないと調べようとしないから」などの不足の自覚に関する回答もみられた。

⑫共感性(他者と喜怒哀楽の感情を共有すること、またはそれらを感じ取ることができる感性)

カテゴリー	内容	回答数
患者さんのため	歯科衛生士になった時に患者さんに共感することが大切だと思うから。	5
不足の自覚	あまり他人に興味がないため。	1
必要性の認識	仕事に必要なだから	1
合計		7

⑫共感性を選んだ理由について、「歯科衛生士になった時に患者さんに共感することが大切だと思うから」が5名と最も多かった。「あまり他人に興味がないため」といった不足の自覚、「仕事に必要なだから」といった必要性の認識に関する回答に分かれた。

⑬道徳心(道徳を守る心、善悪を判断し善を行おうとする心)

カテゴリー	内容	回答数
必要性の認識	人の気持ちを考えることは大事だと思うから。	4
	社会を生きることにおいて道徳心が最も大事だと思う。	1
	道徳が生きる学校だから。	1
合計		6

⑬道徳心を選んだ理由については、「人の気持ちを考えることは大事だと思うから」が3名と最も多かった。すべての回答が必要性の認識に関する内容であった。

⑭倫理観(人として守り行うべき道、倫理についての考え方や捉え方)

カテゴリー	内容	回答数
必要性の認識	医療職は特殊な倫理観を持つ必要があるため。それ以前の環境では得られなかった価値観を持つ必要があるため。	1
合計		1

⑭倫理観を選んだ理由については、「医療職は特殊な倫理観を持つ必要があるため」といった必要性の認識に関する回答のみであった。

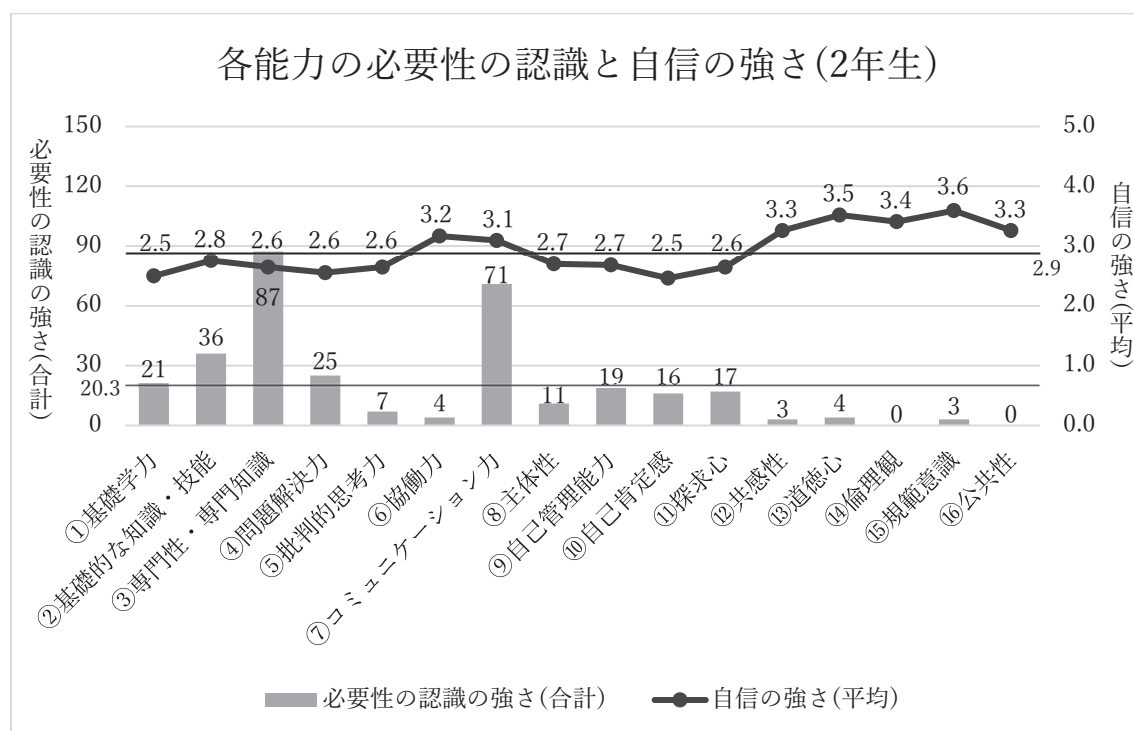
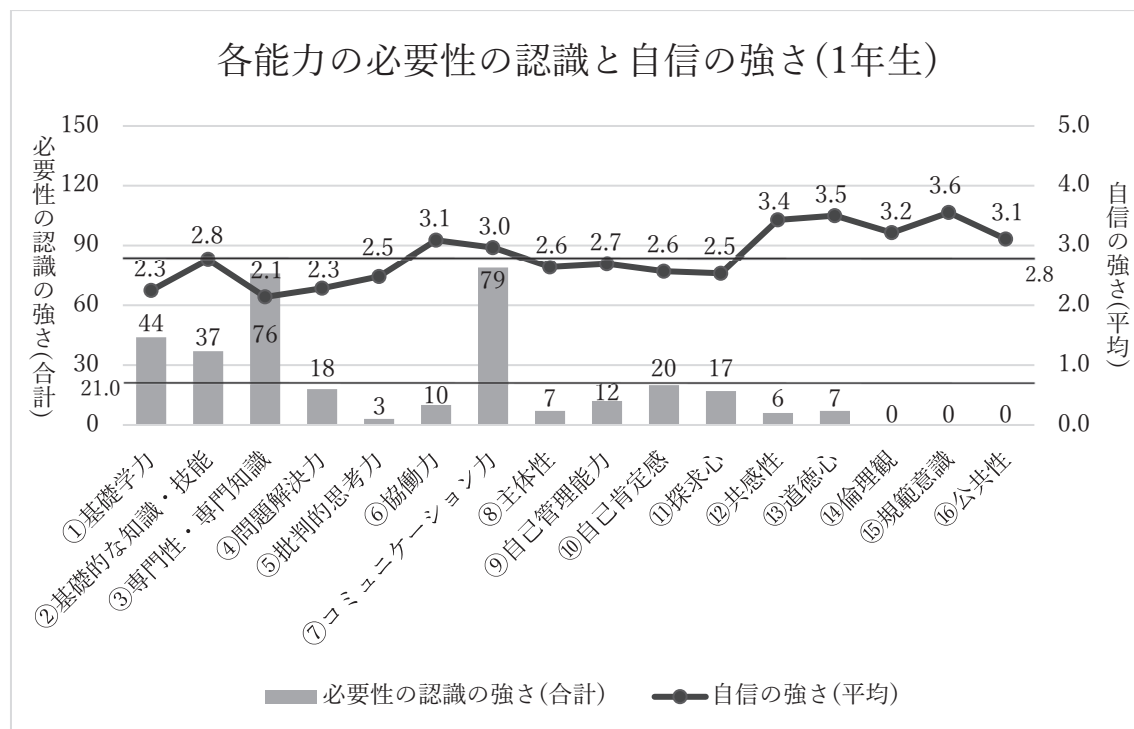
⑮規範意識(道徳、倫理、および法律等の社会のルールを守ろうとする意識)

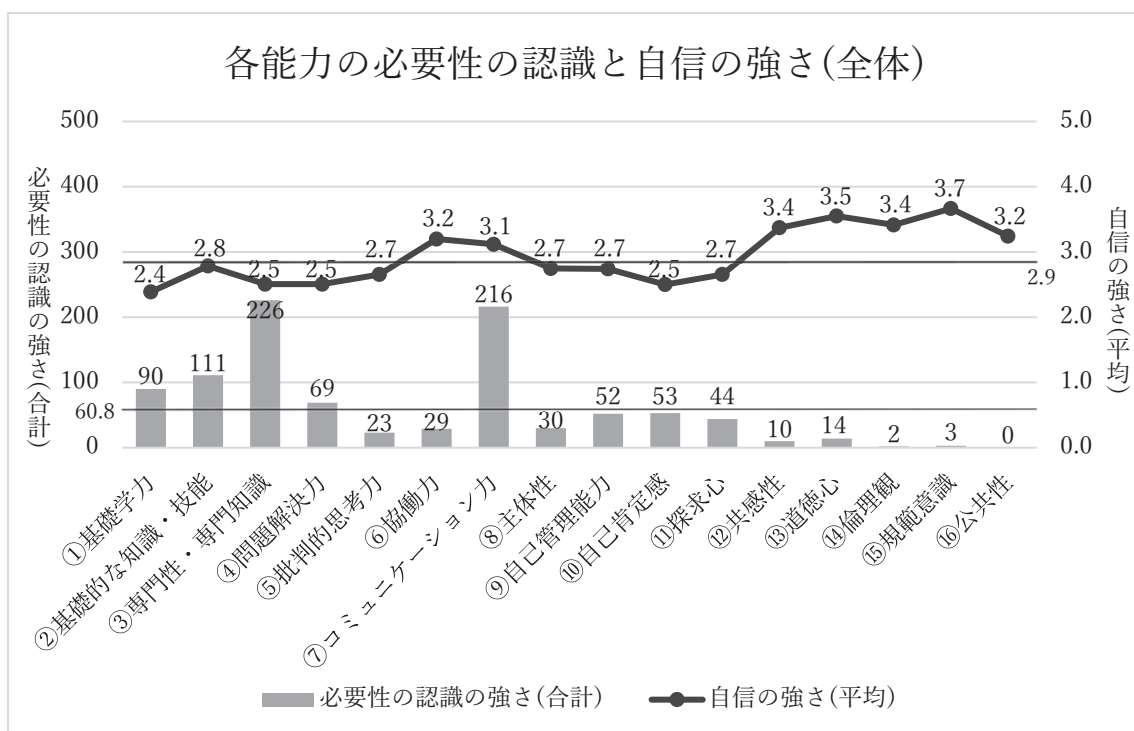
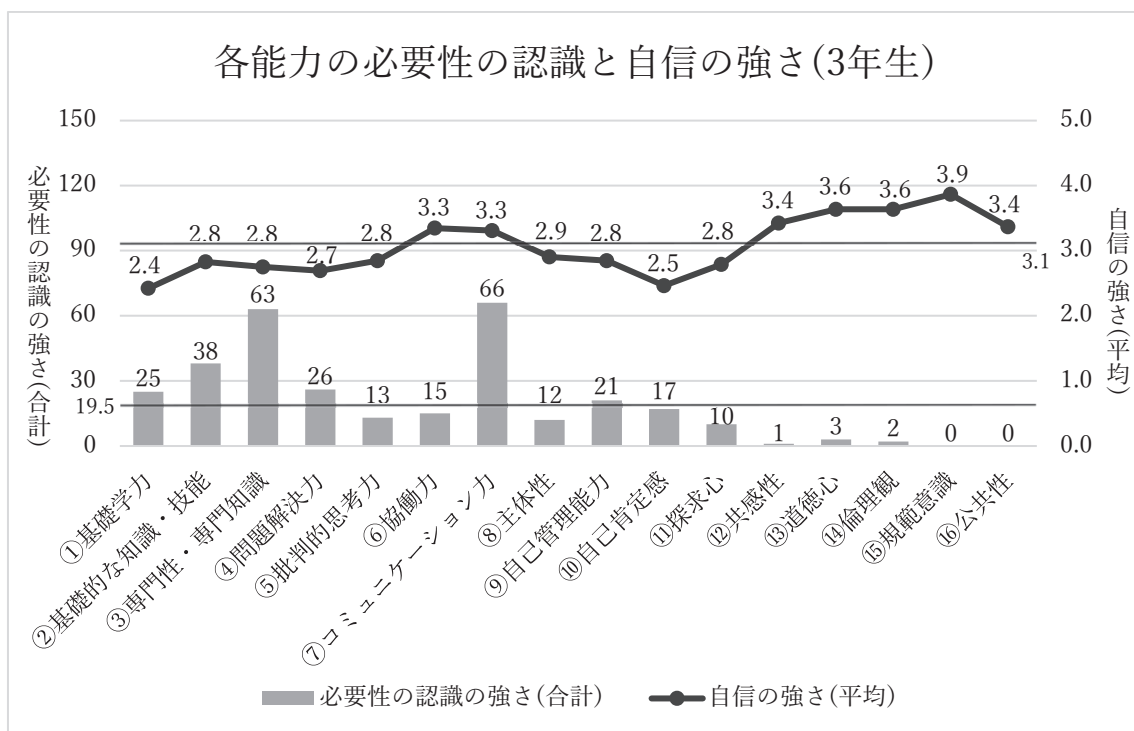
カテゴリー	内容	回答数
必要性の認識	ルールを守るとは信頼を得ることなので1番大切だと思うから。	1
合計		1

⑮規範意識を選んだ理由については、「ルールを守るとは信頼を得ることなので1番大切だと思うから」といった必要性の認識に関する回答であった。

3-(4) 「3-(1)自己の能力に対する自信」と「3-(2)各能力の必要性の認識」との関連

3-(1)①～⑯の各能力に対する自信：「全くない」を0点、「ほとんどない」1点、「少しはある」2点、「中程度はある」3点、「かなりある」4点、「十分にある」5点とした場合の平均値と、3-(2)において①～⑯から、高める必要があるとして3つ選択した能力：「最も」を3点、「2番目」2点、「3番目」1点とした合計との関連を検討した。





全体

最も必要性を認識しているのは、「③専門性・専門知識」であり、能力に対する自信は2.5で全項目の平均(2.9)よりも低かった。次に必要性を認識しているのは、「⑦コミュニケーション力」であるが、能力に対する自信は3.1であり、全項目の平均(2.9)よりも高かった。

	自信の強さ(平均) ¹⁾			全体	必要性の認識の強さ(合計) ²⁾			
	1 年生	2 年生	3 年生		1 年生	2 年生	3 年生	全体
①基礎学力	2.3	2.5	2.4	2.4	44	21	25	90
②基礎的な知識・技能	2.8	2.8	2.8	2.8	37	36	38	111
③専門性・専門知識	2.1	2.6	2.8	2.5	76	87	63	226
④問題解決力	2.3	2.6	2.7	2.5	18	25	26	69
⑤批判的思考力	2.5	2.6	2.8	2.7	3	7	13	23
⑥協働力	3.1	3.2	3.3	3.2	10	4	15	29
⑦コミュニケーション力	3.0	3.1	3.3	3.1	79	71	66	216
⑧主体性	2.6	2.7	2.9	2.7	7	11	12	30
⑨自己管理能力	2.7	2.7	2.8	2.7	12	19	21	52
⑩自己肯定感	2.6	2.5	2.5	2.5	20	16	17	53
⑪探求心	2.5	2.6	2.8	2.7	17	17	10	44
⑫共感性	3.4	3.3	3.4	3.4	6	3	1	10
⑬道徳心	3.5	3.5	3.6	3.5	7	4	3	14
⑭倫理観	3.2	3.4	3.6	3.4	0	0	2	2
⑮規範意識	3.6	3.6	3.9	3.7	0	3	0	3
⑯公共性	3.1	3.3	3.4	3.2	0	0	0	0
平均	2.8	2.9	3.1	2.9	21.0	20.3	19.5	60.8
最小	2.1	2.5	2.4	2.4	0	0	0	0
最大	3.6	3.6	3.9	3.7	79	87	66	226

1) 「全くない」を0点、「ほとんどない」1点、「少しはある」2点、「中程度はある」3点、「かなりある」4点、「十分にある」5点とした場合の平均値、2) 「最も高めると必要があると思う能力」を3点、「2 番目～」を2点、「3 番目～」を1点とした場合の合計

3.4 卒業生・臨床実習指導歯科衛生士アンケート調査

3.4.1 調査概要

(1) 調査目的

専門学校で学習した内容および習得した能力のうち、就職後に特に役立ったこと、またもっと学習・習得しておけば良かったことを調査し、開発するプログラムに反映させる。

(2) 調査対象

- ・福岡歯科衛生専門学校の卒業生(R3、2、1年卒)約 150 名
- ・同校の臨床実習先約 100 歯科医院の指導歯科衛生士(歯科医院ごとに 1 名)ならびに同歯科医院に勤務する歯科衛生士の計約 300 名

(3) 調査方法

Google フォームを用いた無記名でのアンケート調査

(4) 調査項目

調査項目は次の項目である。

1. 回答者情報

- (1) 年齢
- (2) 卒後年数
- (3) 出身校
- (4) 勤務先情報(従業員規模)
- (5) 勤務先情報(歯科衛生士数)
- (6) 現在ご担当の職域について
- (7) 勤続年数

2. 自身の知識やスキルについて

- (1) 自身の知識やスキルに対する問題点や課題
- (2) 問題点や課題の具体的内容

3. 教育研修の受講状況について

- (1) 教育研修の受講経験
- (2) 研修を受講した際の目的

4. 専門学校での学習について
 - (1) 働く上で特に役立ったこと
 - (2) もっと学習しておきたかったこと
5. 実習生に求めること
 - (1) 実習生の指導経験について
 - (2) 臨床実習に来る学生に特に求めること
 - (3) 学生に求めることの理由
6. ご意見、ご要望

(5) 回収件数

合計 212 件

- ・福岡歯科衛生専門学校卒後 3 年以内：112 件(157 名中、回答率 71.3%)
- ・委託歯科診療所：100 件・51 医院(103 医院中、回答率 49.5%)

(6) 調査結果まとめ

1. 回答者情報

1-(1) 年齢および 1-(2) 卒後年数

本調査対象は、卒後 3 年以内の福岡歯科衛生専門学校卒業生、および同校在校生の臨床実習委託歯科医院に勤務する歯科衛生士の 2 群から構成されている。回収数は 212 件であり、内訳は、福岡歯科衛生専門学校の卒後 3 年以内の者が 112 件(157 名中、回答率 71.3%)、委託歯科診療所勤務者が 100 件・51 医院(103 医院中、回答率 49.5%)であった。回答者数が各群でほぼ 100 名ずつであるため、回答者の年齢は若い方に偏りがみられた[p1, 1-(1) 年齢]。そこで、年齢層別の比較では、調査結果のうち、1-(4)勤務先情報(従業員規模)から 5-(1)実習生の指導経験については、21～23 歳群、24～29 歳群、30～39 歳群、40 歳以上群の 4 群に分けた。また、同様の理由から、回答者の卒後年数は、卒後 3 年以内の者が 55.2%を占めていた[p2, 1-(2) 卒後年数]。

1-(3) 出身校[p3, 1-(3) 出身校]

出身校については、「福岡歯科衛生専門学校」が 66.0%(140 名)と最も多く、「福岡医療短期大学」が 8.5%(18 名)、「博多メディカル専門学校」が 5.2%(11 名)と続いた。

1-(4) 勤務先情報(従業員規模)、1-(5) 勤務先情報(歯科衛生士数)

勤務先の従業員規模は、「10 名以上」と回答した者が最も多く 47.2%であり、次い

で「6～9名」で33.5%であった[p4, 1-(4)勤務先情報(従業員規模)]。また、勤務先の歯科衛生士数については、「6名以上」が39.2%であり、次いで「4～5名」が36.3%であった[p5, 1-(5)勤務先情報(歯科衛生士数)]。福岡県歯科医師会が同県内の歯科医院を対象として、令和2年に実施した調査結果では、勤務する歯科衛生士数は「1名」が23.9%、「2～3名」が37.7%、「4名以上」が24.3%であり¹⁾、本調査の回答者が勤務する歯科医院の方が規模は大きい傾向であった。これは、新卒や卒後すぐの歯科衛生士は教えてくれる歯科衛生士がいる歯科医院を選んで就職する傾向があること等が関係していると考えられる。

1-(6) 現在ご担当の職域について[p6, 1-(6) 現在ご担当の職域について]

現在、担当している職域は「受付・電話応対を含む歯科衛生士業務」が68.4%と多いものの、「受付・電話応対を含まない歯科衛生士業務」も31.1%あり、回答者の約3割が勤務する歯科医院では、歯科衛生士とは別に受付がいると考えられる。従業員規模が小さい歯科医院では、受付・電話応対も歯科衛生士が行うことが多いため、従業員規模の大きな歯科医院に勤務する回答者の割合が多かった結果を反映したものと考えられる。

1-(7) 勤続年数[p7, 1-(7) 勤続年数]

現在勤務する歯科医院の勤続年数では、「1年未満」と「1年以上3年未満」とをあわせて64.6%であった。年齢層別の比較では、30～39歳群と40歳以上群は「5年以上」がそれぞれ51.2%、72.2%を占めていた。

2. 自身の知識やスキルについて

2-(1) 自身の知識やスキルに対する問題点や課題、2-(2) 問題点や課題の具体的な内容

自身の知識やスキルに対する問題点や課題については、「まあまあある」が43.4%と最も多く、次いで「とてもある」が29.2%であった[p8, 2-(1) 自身の知識やスキルに対する問題点や課題]。年齢層別の比較では、いずれの年齢層においても、「まあまあある」が最も多かった[p8, 2-(1) 自身の知識やスキルに対する問題点や課題(年齢別)]。24～29歳群は「あまりない」が「まあまあある」と同じ40.4%であった。「まったくない」「あまりない」を課題なし群、「まあまあある」「とてもある」を課題あり群と考えた場合、課題あり群が最も多いのは40歳以上群であった。理由として、2-(2)問題点や課題の具体的な内容でカテゴリー化された、「知識・技術のアップデート」「より専門的な知識・技術の必要性」の結果[p9～p11]から、就業年数が長くなっても、求められる変化に対応するために歯科衛生士として働く上で、学びに終わりは無いと考えている可能性がある。また、経験年数が短いほど、分からないことが何かわから

ない状態であることも予想される。次に課題あり群が多かったのは 21～23 歳群であり、その理由は、「専門性（知識、技術）の未熟さ」に代表されると考えられる。

3. 教育研修の受講状況について

3-(1) 教育研修の受講経験[p12, 3-(1) 教育研修の受講経験]

教育研修の受講経験については、「自発的に受講したことはないが、勤務先で奨励された研修を受講した」が 48.1%と最も多く、「自発的に受講した」16.0%と併せると約 65%の者は受講経験があった。年齢層別では、「自発的に受講した」「自発的に受講したことはないが、勤務先で奨励された研修を受講した」を合計した割合は、年齢層が上がるにつれて増加し、40 歳以上群では教育研修の受講経験がある者は 90%を超えていた。

3-(2) 研修を受講した際の目的[p13, 3-(2) 研修を受講した際の目的(N=136)]

研修を受講した目的を複数回答可で回答してもらい、目的ごとに総回答者数で除して比較したところ、「最新・高度技術や知識の修得のため」が 79.4%と最も多く、次に「接遇やコミュニケーション力向上のため」が 30.1%であった。これは、2-(1) 自身の知識やスキルに対する問題点や課題や 2-(2) 問題点や課題の具体的内容のカテゴリー化で上位にあがっていた、「知識・技術のアップデート」「より専門的な知識・技術の必要性」と関連していると考えられる。

4. 専門学校での学習について

4-(1) 働く上で特に役立ったこと[p15～17]

専門学校在学中に学習・経験した内容のうち、働く上で特に役立ったことを記入してもらった結果を、【専門学校卒業後 3 年以内】と【臨床実習先(歯科医院)の勤務者】とに分けて分析を行った。その結果、【専門学校卒業後 3 年以内】の者では、「学力・専門性」が最も多く、中でも「臨地・臨床実習」や「相互実習」に関する内容が多く、「基礎的な知識・技能」に関する回答もみられた。【臨床実習先(歯科医院)の勤務者】においても、同様の傾向であった。

4-(2) もっと学習しておきたかったこと[p18～21]

就職する前に、もっと学校で学習・経験しておきたかったと感じることは、【専門学校卒業後 3 年以内】の者では、「相互実習・実技」が最も多く、内容は歯科衛生士業務の一つである歯科予防処置や歯科診療補助に関する具体的な記載が多く認められたことが特徴的であった。これらは、卒業後すぐに業務として行うことが求められる一方、在学中に十分に習熟するには至らないためであると考えられる。【臨床実習先(歯科医院)の勤務者】でも、「相互実習・実技」が最も多かったが、内容は具体的な記述では

なく、実習や実技といった全体を指す表現が多くみられ、もっと実習を経験しておけば良かったと感じている様子が示された。その他のカテゴリー内容についても、卒後3年以内の者と臨床実習先の勤務者とは同様の傾向であり、「基礎的な知識・技能」「高齢者や有病者への対応法や注意点」「専門知識」「臨床で求められる知識」などに分けられた。これらの結果を専門学校在校生に知らせることは、学習意欲向上に有効であると考えられる。

5. 実習生に求めること

5-(1) 実習生の指導経験について[p22, 5-(1) 実習生の指導経験について]

実習生の指導経験について、「指導歯科衛生士の経験は無いが、勤務先で実習生を受け入れている(いた)」が40.6%、「現在、指導歯科衛生士である」の27.4%、「現在は違うが、以前、指導歯科衛生士であった」の6.1%をあわせて、回答者の約75%が指導する側から、実習生に関わった経験があった。

5-(2) 臨床実習に来る学生に求めること[p24, 5-(2) 臨床実習に来る学生に求めること(N=157)]

5-(1)で実習生に関わった経験があると回答した方々には、臨床実習に来る学生に求めることとして在校生アンケートで利用した非認知能力16の能力²⁾の中から、3つ選択してもらった。能力ごとに総回答者数で除して比較したところ、②基礎的な知識・技能が72.6%と最も多く、次に①基礎学力が56.7%であった。⑦コミュニケーション力、⑧主体性もそれぞれ47.8%と多かった。

5-(3) 学生に求めることの理由[p26～31]

任意で理由を記載してもらったところ、あげられていた内容は5-(2)をよく表していた。代表例を紹介する。

引用1：まだ経験が浅いため、専門的なものは求めません。知らない所に1人でくるため緊張してと思うので、コミュニケーションも求めません。ですが、挨拶、言葉遣い、時間厳守、自己管理はできていて良い年齢と考えるため、この3項目を選択しました。(①基礎学力、②基礎的な知識・技能、⑨自己管理能力)

引用2：正しい言葉遣いや挨拶、時間を守るというのは、学生、社会人に関係ない最低限のマナーだと思う。探求心を持って、歯科衛生士や歯科医師に質問するのは実習の場において大切な事だと思う。自分がしたことへのフィードバックも含めて、自身が成長できる機会を大切にしてほしい。(①基礎学力、②基礎的な知識・技能、⑪探求心)

引用3：専門的な知識や技術は後々、経験とともに培われて行くと思いますので、実習先の患者様をはじめ院長、スタッフ間との挨拶やコミュニケーションをしっかりと

ってくれ意欲的に行動してくださる子とお仕事したいと感じますので。(②基礎的な知識・技能、⑦コミュニケーション力、⑧主体性)

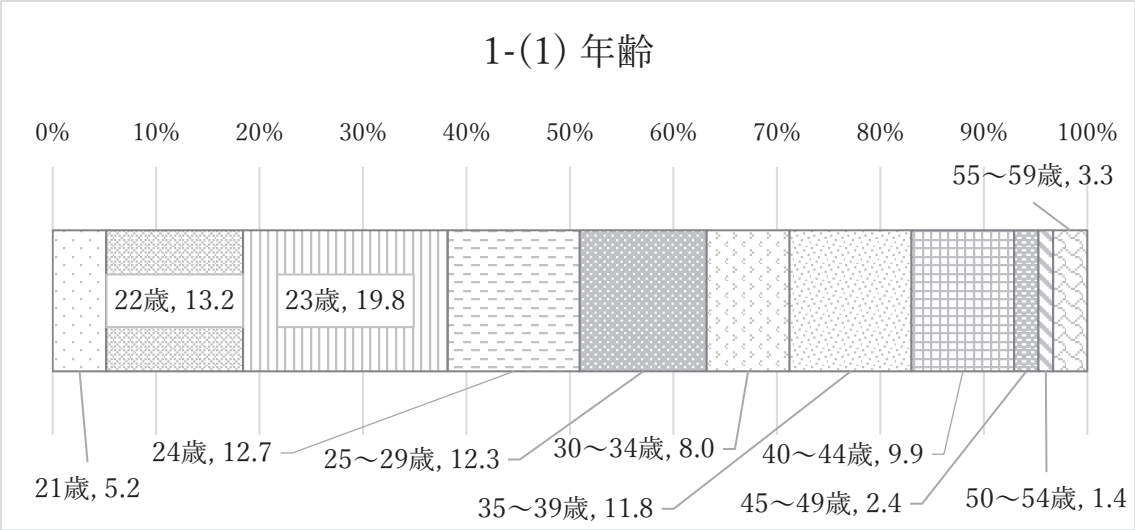
参考文献)

- 1) 福岡県歯科医師会調査研究室. 福岡県内歯科医院における歯科衛生士就労実体調査報告書, 令和2年6月.
- 2) 一般財団法人日本生涯学習総合研究所. 「非認知能力」の概念に関する考察(Ⅱ)改訂版. 2020年11月.

3.4.2 調査結果

1. 回答者情報

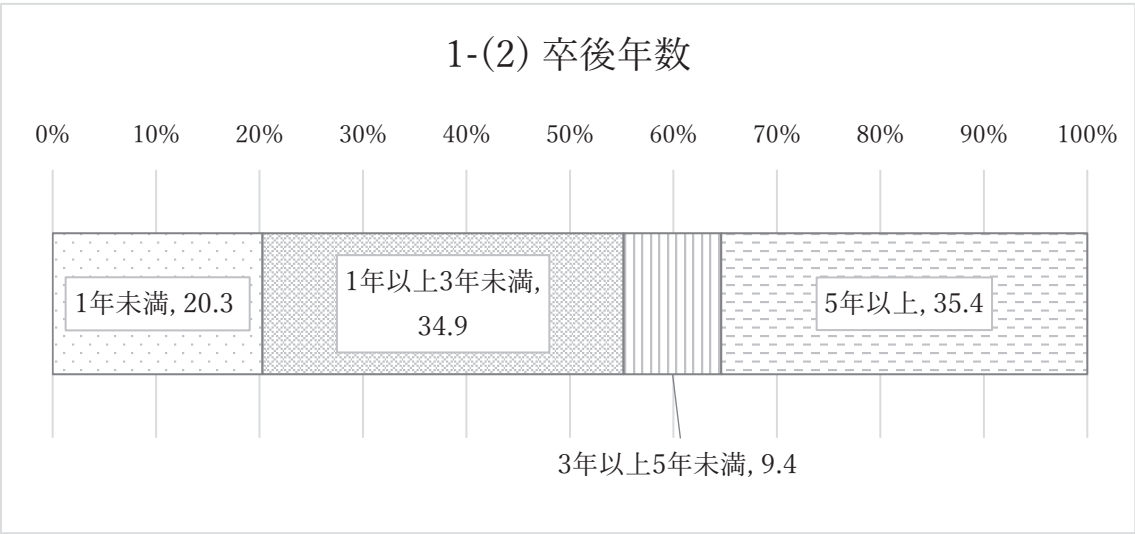
1-(1) 年齢



	回答数	%
21 歳	11	5.2%
22 歳	28	13.2%
23 歳	42	19.8%
24 歳	27	12.7%
25～29 歳	26	12.3%
30～34 歳	17	8.0%
35～39 歳	25	11.8%
40～44 歳	21	9.9%
45～49 歳	5	2.4%
50～54 歳	3	1.4%
55～59 歳	7	3.3%
合計	212	

回答者の年齢は、「23 歳」が 19.8%と最も多かった。回答者の過半数が「21～24 歳」となっている。

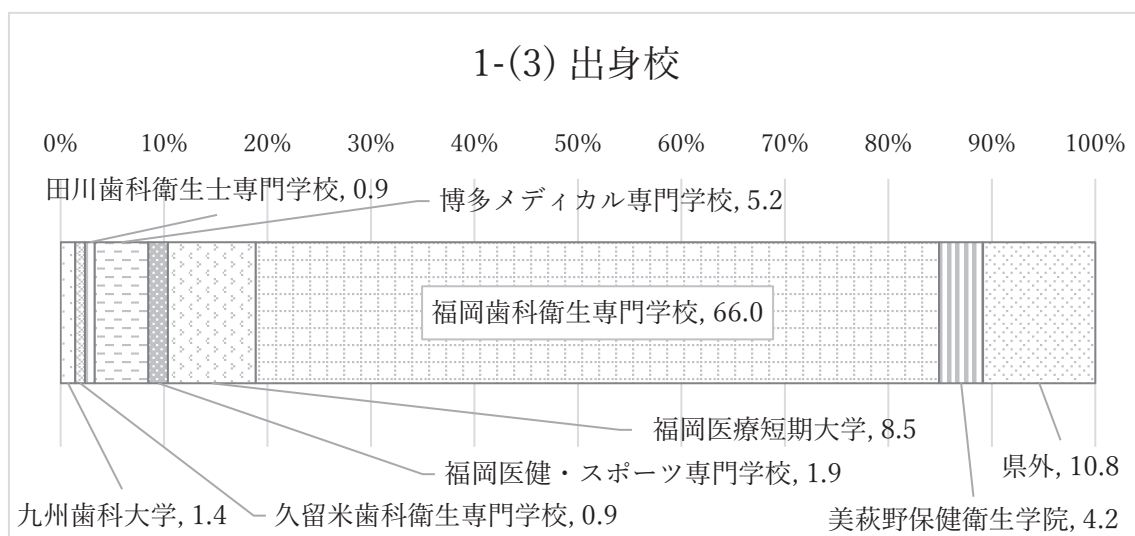
1-(2) 卒後年数



	回答数	%
1 年未満	43	20.3%
1 年以上 3 年未満	74	34.9%
3 年以上 5 年未満	20	9.4%
5 年以上	75	35.4%
合計	212	

卒後年数については、「3 年未満」が 127 名で 55.2%であった。このうち、112 名は卒後 3 年以内であった。

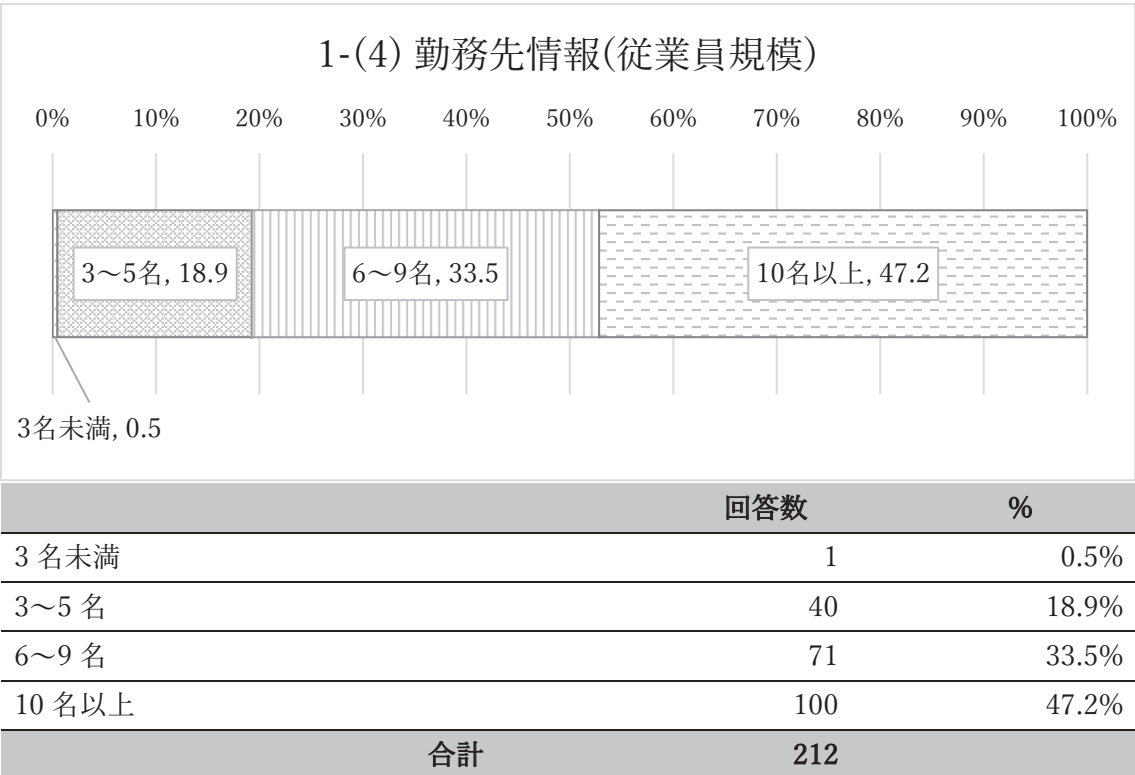
1-(3) 出身校



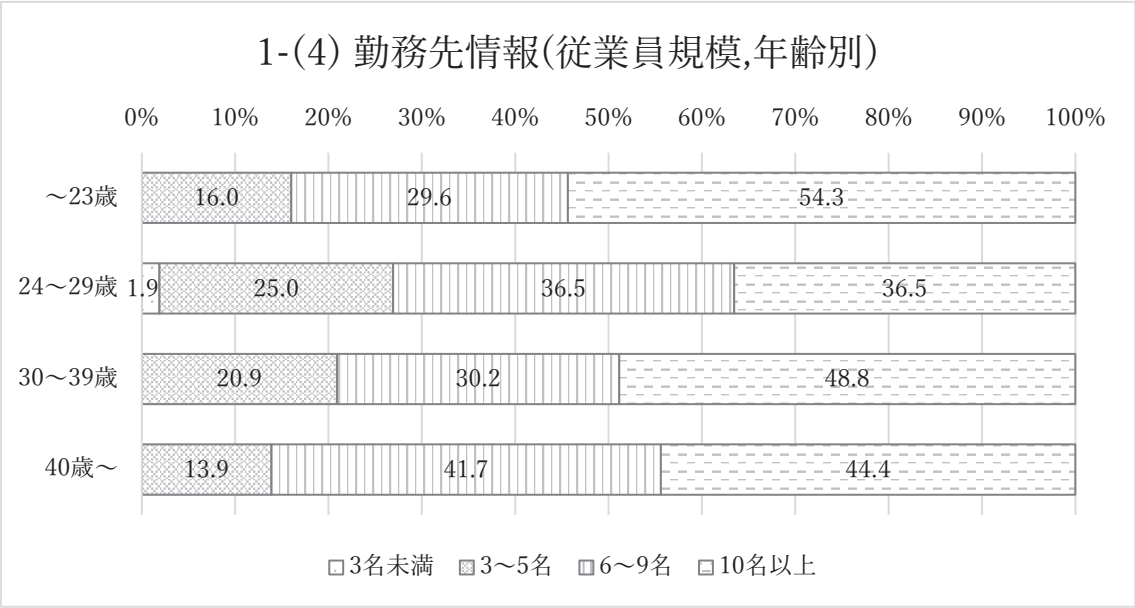
	回答数	%
九州医療スポーツ専門学校	0	0.0%
九州歯科大学(含、旧附属歯科衛生学院)	3	1.4%
久留米歯科衛生専門学校	2	0.9%
田川歯科衛生士専門学校	2	0.9%
博多メディカル専門学校	11	5.2%
福岡医健・スポーツ専門学校	4	1.9%
福岡医療短期大学 (含、福岡医療福祉専門学校・附属歯科衛生専門学校)	18	8.5%
福岡歯科衛生専門学校	140	66.0%
美萩野保健衛生学院	9	4.2%
県外	23	10.8%
合計	212	

出身校については、「福岡歯科衛生専門学校」が140名で66.0%と最も多いが、内112名は卒後3年以内の卒業生となっている。

1-(4) 勤務先情報(従業員規模)

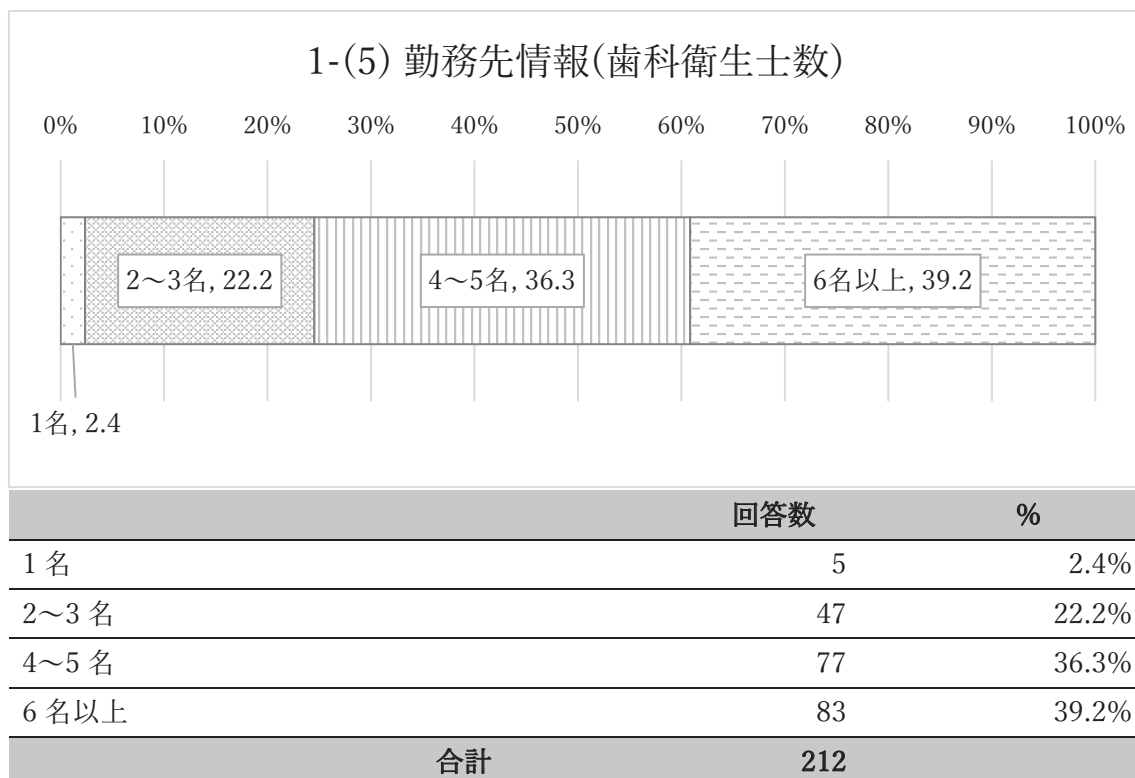


勤務先の従業員規模は、「10 名以上」と回答した人が最も多く 47.2%、次に「6～9 名」で 33.5%であった。

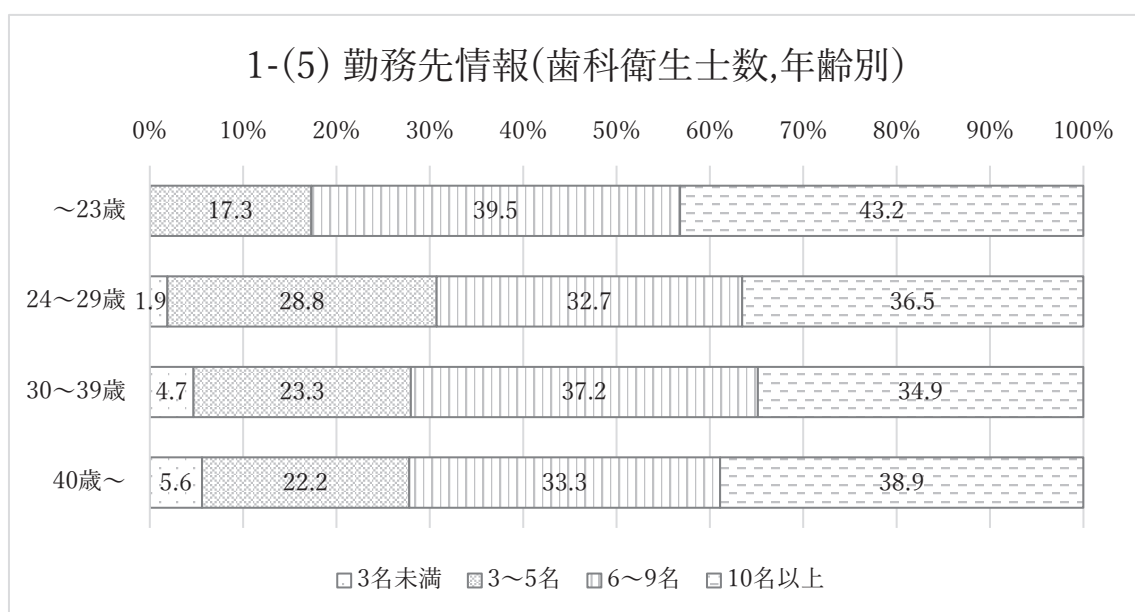


年齢層によらず、「10 名以上」と回答した人が最も多かったが、24～29 歳は「6～9 名」も同じ割合でみられた。

1-(5) 勤務先情報(歯科衛生士数)



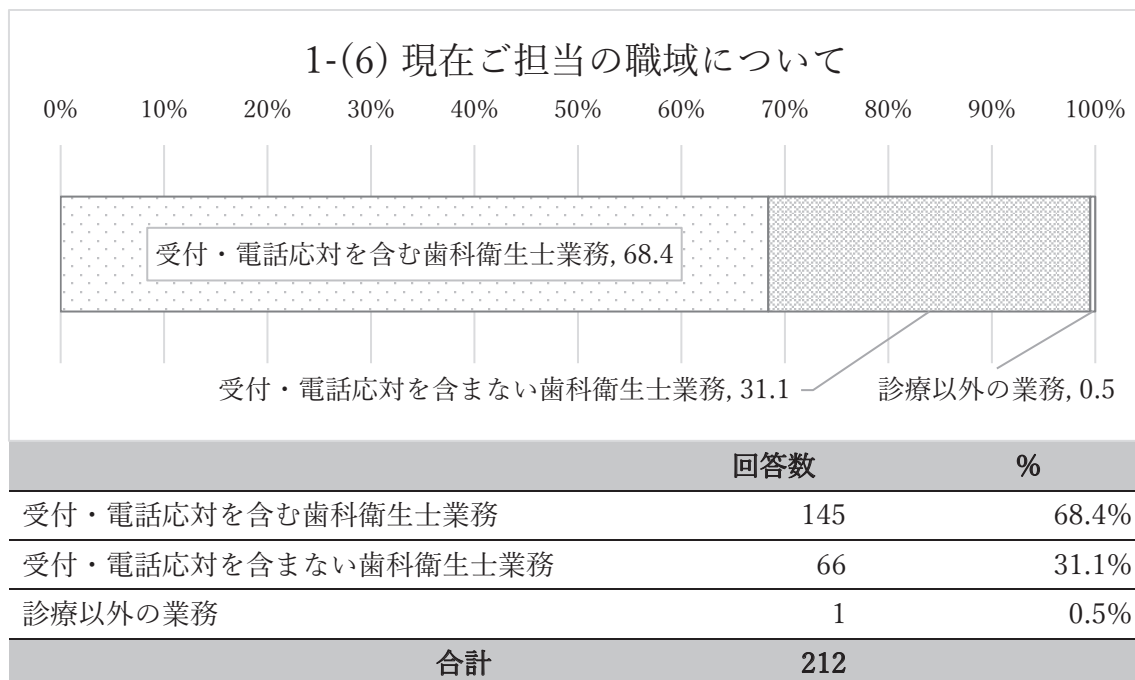
勤務先の歯科衛生士数については、「6 名以上」が 39.2%、「4～5 名」が 36.3%と比較的多かった。



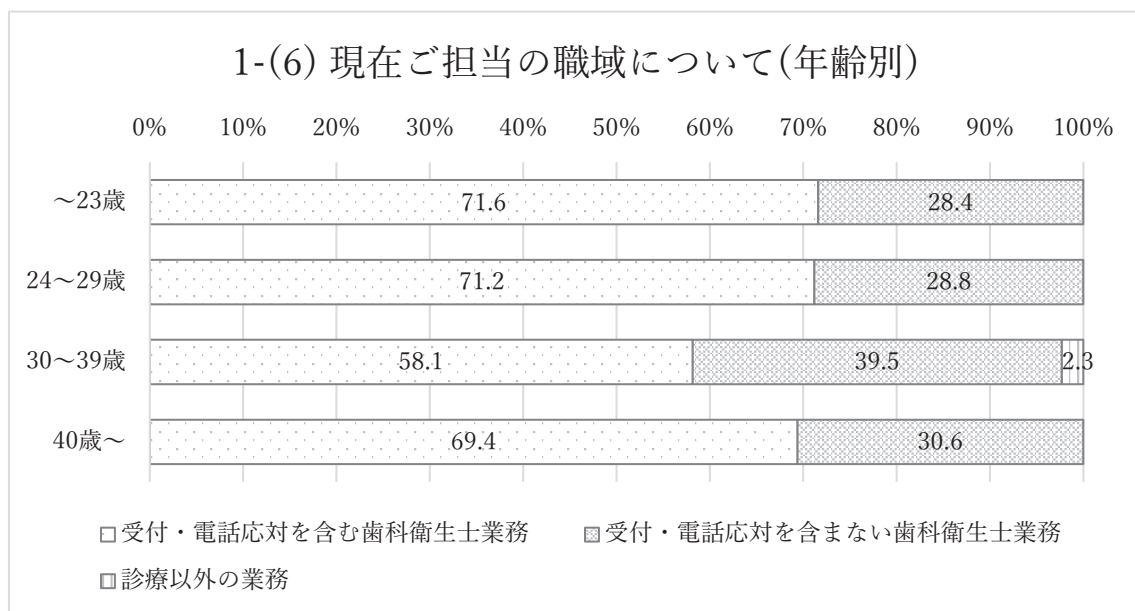
～23 歳では、「3 名未満」の回答がみられなかった。

1-(6) 現在ご担当の職域について

現在ご担当の職域について、当てはまるものを1つ選んでください。



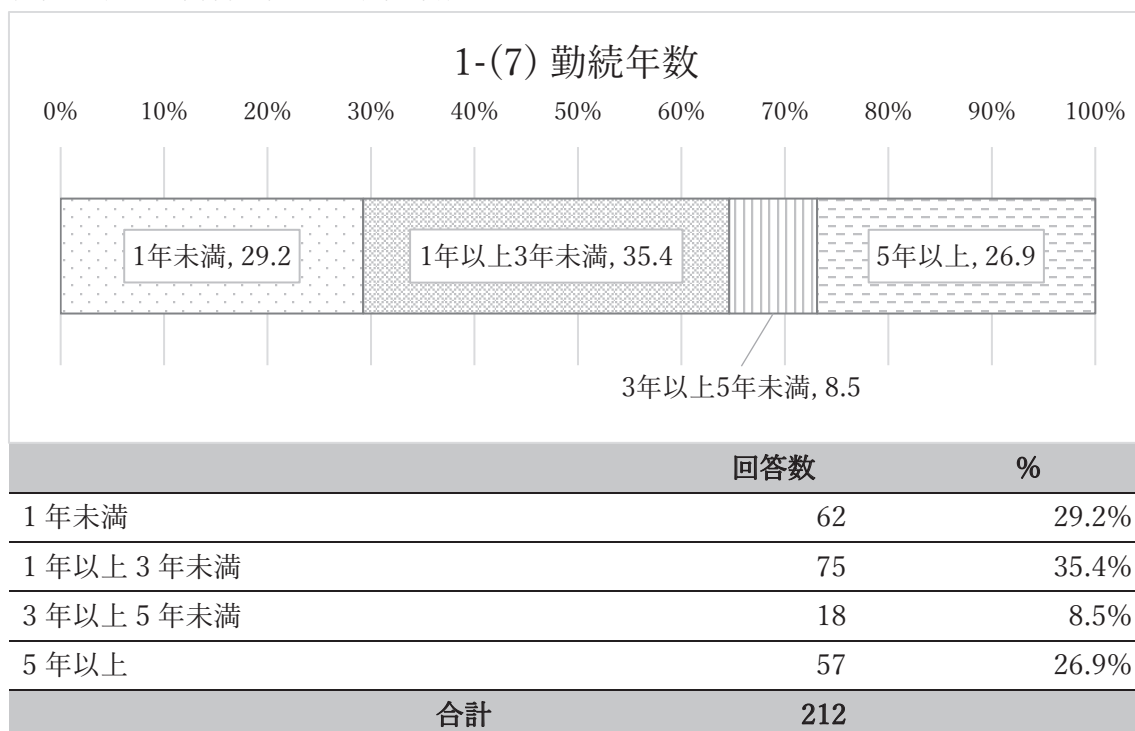
現在ご担当の職域については、「受付・電話応対を含む歯科衛生士業務」が68.4%と多かった。



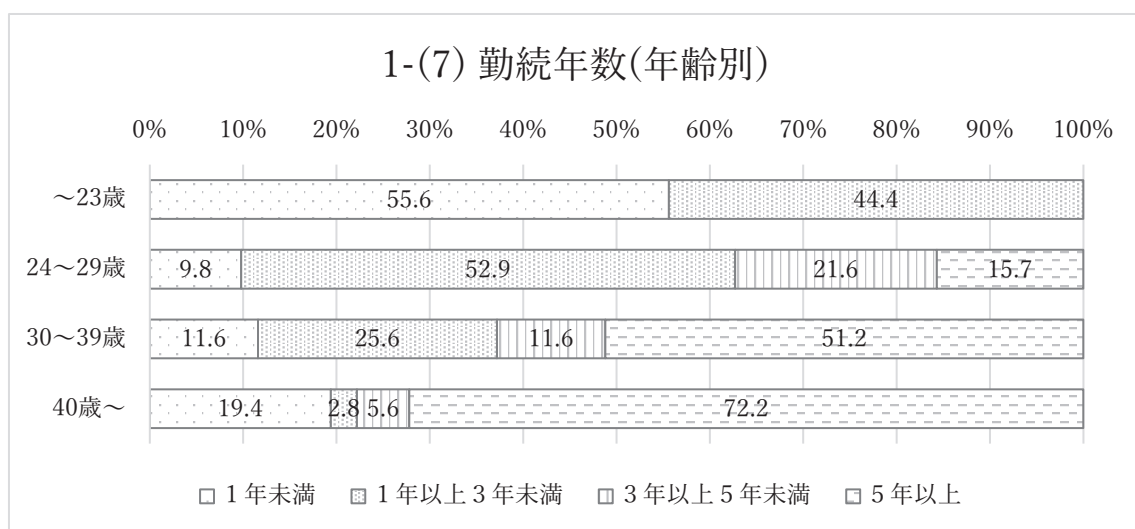
いずれの年齢層においても「受付・電話対応を含む歯科衛生士業務」が最も多かった。30～39歳では、他の年齢層に比べて、「受付・電話対応を含まない歯科衛生士業務」が多い傾向にあった。

1-(7) 勤続年数

現在お勤めの歯科医院での勤続年数について、当てはまるものを1つ選んでください。



現在お勤めの歯科医院での勤続年数については、「1 年以上 3 年未満」が 35.4%で最も多く、次に「1 年未満」が 29.2%であった。

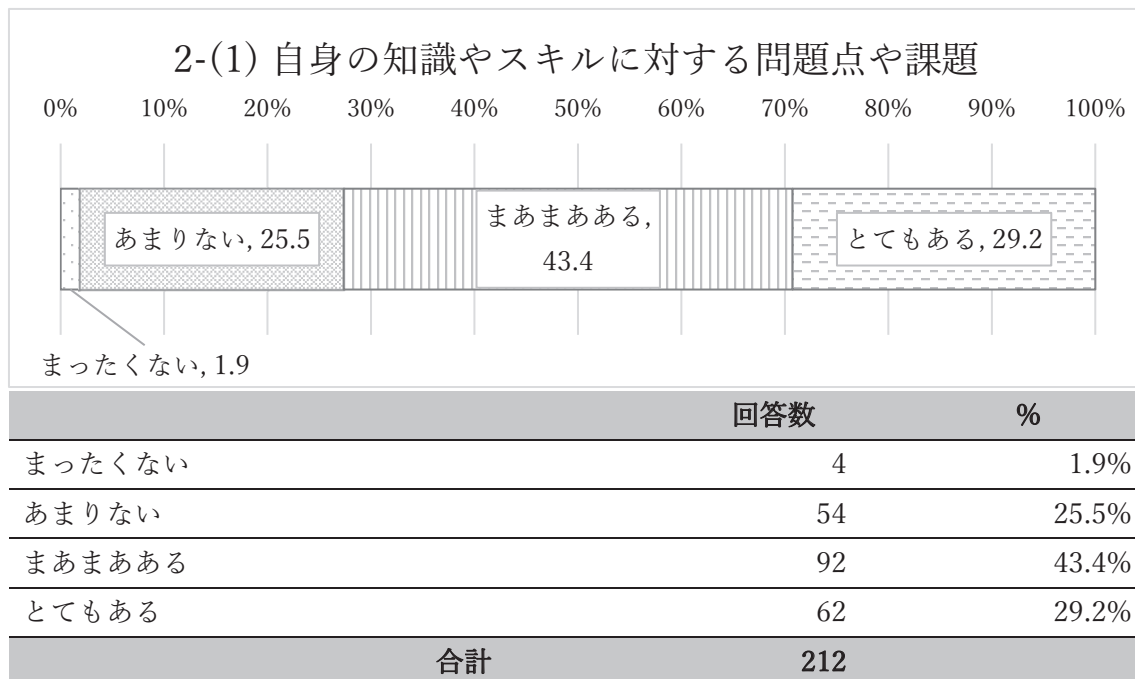


年齢層ごとに最も多かったのは、～23 歳が「1 年未満」で 55.6%、24～29 歳が「1 年以上 3 年未満」で 52.9%、30～39 歳と 40 歳～は「5 年以上」でそれぞれ 51.2%、72.2%であった。

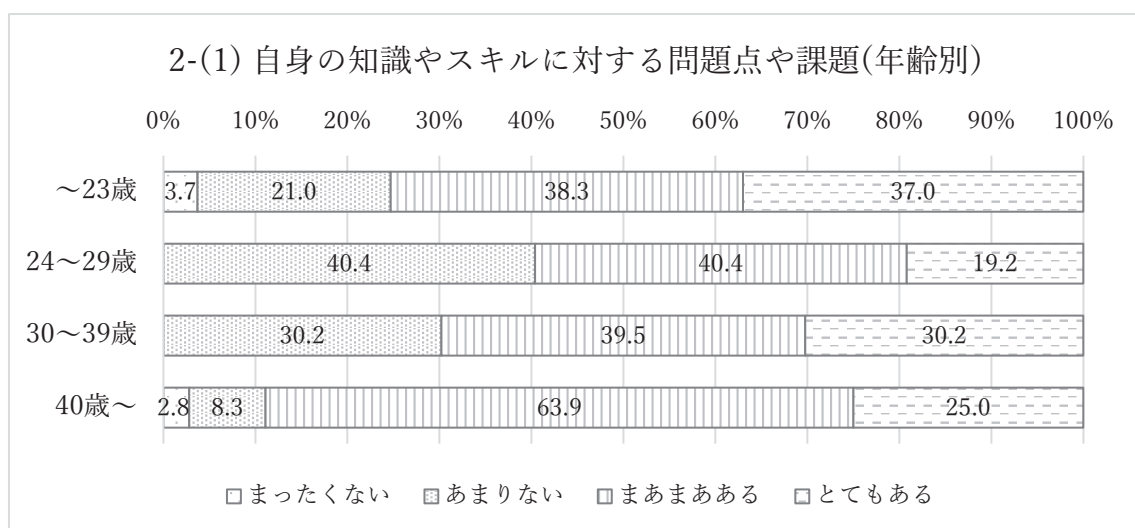
2. 現在の自身の知識やスキルについて

2-(1) 自身の知識やスキルに対する問題点や課題

現在お勤めの歯科医院で働く上で、新しい知識の習得やスキルアップの必要性、将来への不安など、自身の知識やスキルに対する問題点や課題を感じることはありますか。当てはまるものを1つ選んでください。



自身の知識やスキルに対する問題点や課題については、「まあまあある」が43.4%と最も多く、次に「とてもある」が29.2%であった。



いずれの年齢層においても、「まあまあある」が、最も多かった。24～29歳は「あまりない」が「まあまあある」と同じ40.4%であった。

2-(2) 問題点や課題の具体的内容

2-(1)で「とてもある」「まあまあある」と回答された方にお伺いします。

自身の知識やスキルに対して感じている問題点や課題について、具体的な内容をご記入ください。(任意)

【専門学校卒業後 3 年以内】

カテゴリー	内容	回答数
専門性 (知識・技術) の未熟さ	SRP の技術	6
	まだまだ知識もスキルも足りないので、日々の努力や勉強が必要だと感じています	4
	P 検など歯周疾患に対する経験不足	2
	知識不足で患者さんの質問に的確に答えることができない	2
	全身疾患がある患者さんへ施術を行う場合には注意が必要なため、知識の向上が必要となっている	2
	それぞれの患者さんに 1 番あった指導をすること	2
その他	入社した時からインプラントの処置は担当の人がいるので全く関わることはできない。	1
	働いている病院の処置内容が古いままで新しい情報を取り入れていない。おなじときに卒業しておなじスタートラインだったはずなのに知識、技術ともにまわりと差がついてることをかんじます。	1
	専門学校卒業から今まで同じ歯科医院で働いていますが、はじめから研修期間などが無く、歯科衛生士の先輩から教わったことがほとんどないため、知識不足を感じます。	1
合計		21

専門学校卒業後 3 年以内においては、「SRP の技術」が 6 名と最も多かった。

【臨床実習先(歯科医院)の勤務者】

カテゴリー	内容	回答数
知識・技術の アップデート	誰でも専門的な事を簡単に調べられる時代になってきているので、患者さん自身が疑問に思う事をこちらも知っておく事が必要だと思います	4
	変化にしっかり対応するべく、勉強が常に必要だと思います	3
	学びに終わりは無いので、全般的に、課題であり続けると考えます	2
	時代にそった診療にアップデート出来ているのかいつも悩みます	2
	医院全体で世界水準の予防に取り組んでいるため、いつも知識はアップデートしていかないといけないと思っている	1
	新しい材料や器具など知らない事がある。勉強会など機会がほとんどなく勉強不足である。年齢的に素早く動けなかったり見えづらくなったりと、身体的問題も不安に感じる	1
	同じ医院で長く働いているので知識や技術が偏っているかもしれないと思う。	1
より専門的な 知識・技術の 必要性	歯周病管理やブラッシング指導、小児の矯正も行ってるのでそれについての基礎知識等。	2
	技術面では SRP のスキルアップをしたい	2
	MFT について知識を深めたい。患者さんのモチベーションを上げる為の知識と指導力をつけたい	1
	口腔外科という専門分野の治療が多いため、一般歯科の知識や技術が抜けていくと感じる。	1
	小児歯科ですが、大人の方も来られるので、補綴処置に対する技術がともなっていないです。	1
	P 処置、管理がまだまだきっちり結果を出せていないし、経過を追えている自分の担当患者がまだ少ないので、もっと症例にできるような処置をやっていききたい。	1
	歯科矯正、口腔機能筋力トレーニングについて。	1
	障がい者歯科について	1
	小児や妊産婦への知識の向上と子供に対する対応力、	1

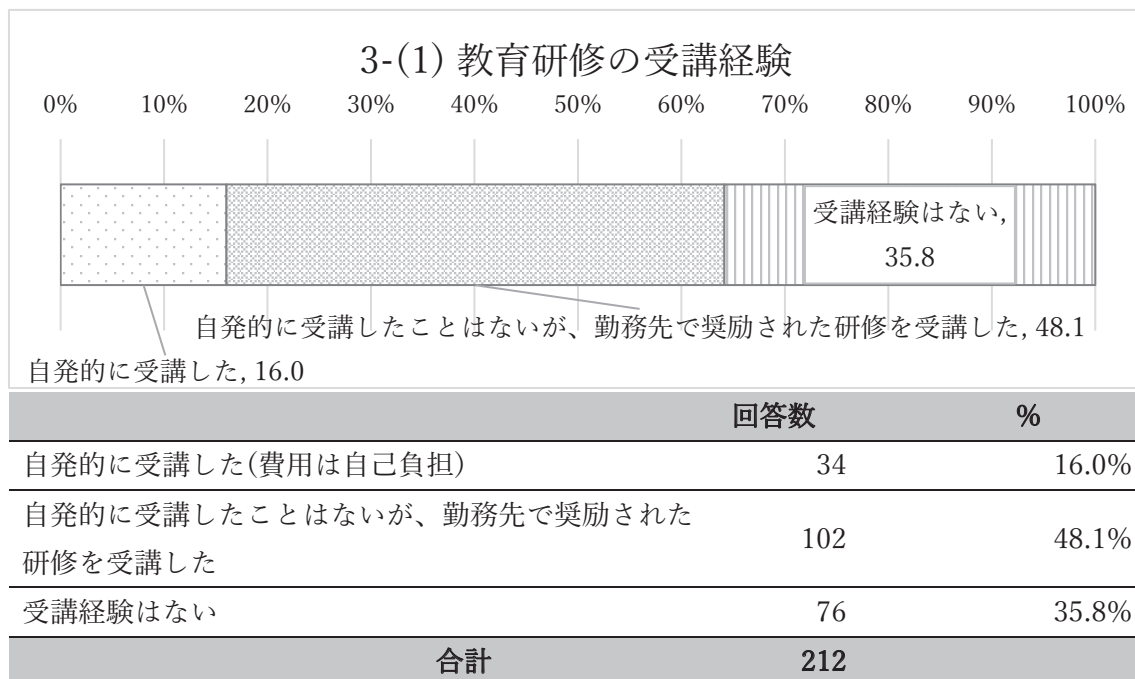
パフォーマンスの向上	アシストをしていて、技術不足を感じることもあるから (TEK 作製のスピード、バキュームテクニックや、自分で考える力)	1
	限られた時間の中で最大限のパフォーマンスを発揮すること。	1
	模型とは違い様々な口腔内状況にあったスケーリングや清掃方法 Dr の行動や思考を妨げないアシスタント	1
その他	新しいことを覚える事に時間がかかること。	1
	患者さんを覚えきれていない	1
	衛生士として癖が出てきてやりやすいようにやっけしまいがちですが後輩に指導の際見直して改めて学び直したり技術面でも日々勉強し、うちの医院では先輩後輩関係なく意見交換をしたりしているためまだまだ課題がいっぱいと感じるため。	1
	歯科に勤めていても、歯科以外(口腔内以外、全身)の知識も必要な時代になっています。長く衛生士をして、ある程度仕事に必要な知識もあると今の自分にどの様な知識が必要なのか、自分が何を習得したいか具体的に分からなくなる。	1
合計		32

臨床実習先(歯科医院)の勤務者においては、「誰でも専門的な事を簡単に調べられる時代になってきているので、患者さん自身が疑問に思う事をこちらも知っておく事が必要」が4名と最も多かった。その他の回答については、より専門的な知識・技術の必要性や、パフォーマンスの向上などに関する回答に分かれた。

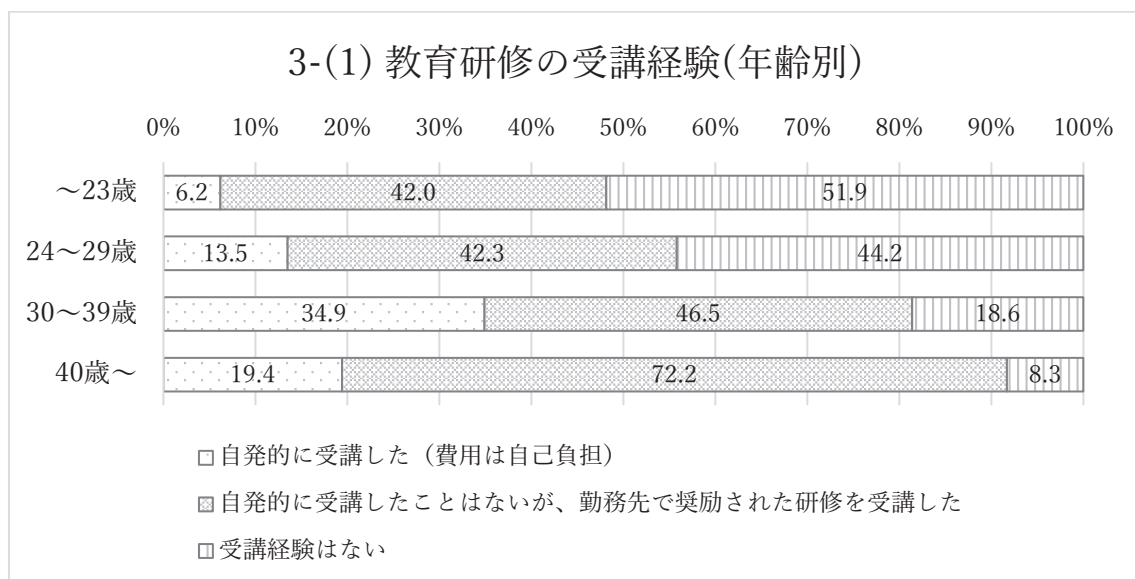
3. 教育研修の受講状況について

3-(1) 教育研修の受講経験

歯科衛生士業務に係る研修を受講した経験はありますか。当てはまるものを1つ選んでください。



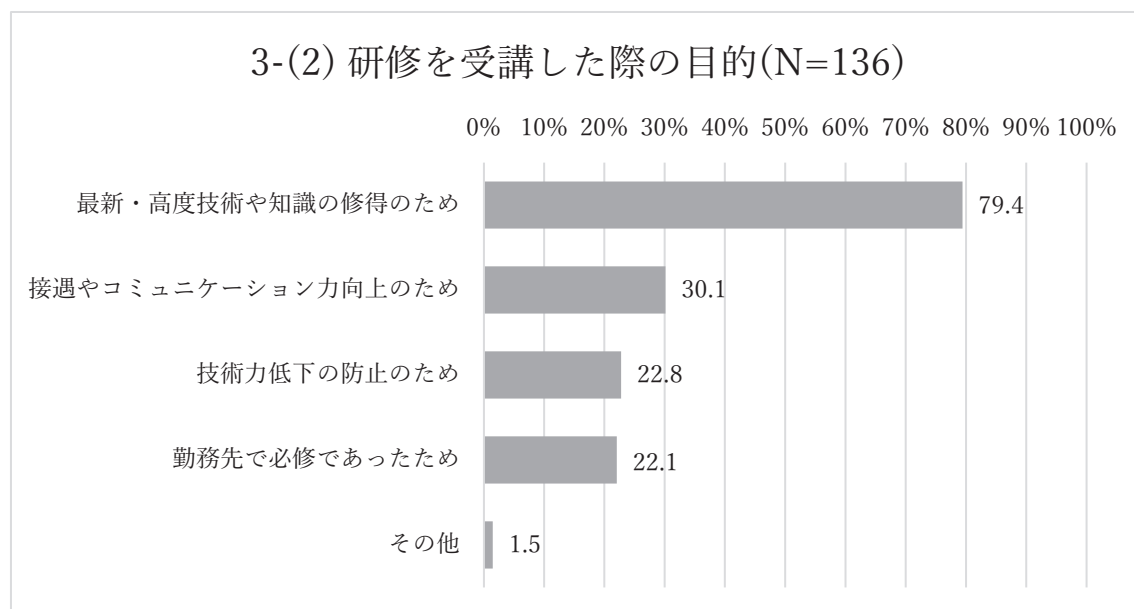
教育研修の受講経験については、「自発的に受講したことはないが、勤務先で奨励された研修を受講した」が48.1%と最も多く、次に「受講経験はない」が35.8%であった。



「自発的に受講した(費用は自己負担)」「自発的に受講したことはないが、勤務先で奨励された研修を受講した」を合計した割合は、年齢層が上がるにつれて増加していた。

3-(2) 研修を受講した際の目的

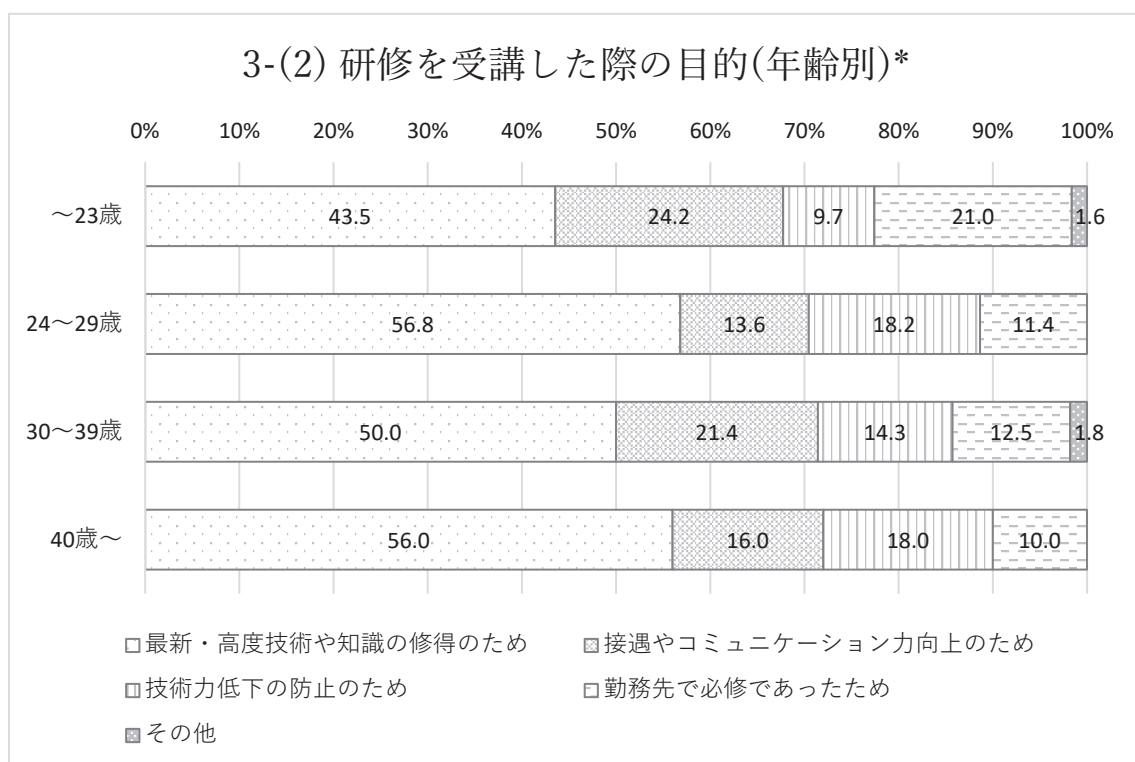
3-(1)で「自発的に受講した」「自発的に受講したことはないが、勤務先で奨励された研修を受講した」と回答された方にお伺いします。研修を受講した目的について、当てはまるものをすべて選んでください(複数回答可)。



	回答数	%*
最新・高度技術や知識の修得のため	108	79.4%
接遇やコミュニケーション力向上のため	41	30.1%
技術力低下の防止のため	31	22.8%
勤務先で必修であったため	30	22.1%
その他	2	1.5%
合計	212	

*：回答者数(136人)を100%として選択肢ごとに計算

研修を受講した目的について、「最新・高度技術や知識の修得のため」が79.4%と最も多く、次に「接遇やコミュニケーション力向上のため」が30.1%であった。



*：年齢層ごとの回答数を 100% として計算

いずれの年齢層においても、「最新・高度技術や知識の修得のため」が最も多かった。

4. 専門学校での学習について

4-(1) 働く上で特に役立ったこと

専門学校在学中に学習・経験した内容のうち、働く上で特に役立ったことをご記入ください。

【専門学校卒業後3年以内】

カテゴリー	内容	回答数 ¹⁾
学力・専門性	臨床実習(個人歯科実習で、アシストの仕方等、指導衛生士さんから丁寧に教えていただいたので、実習帳は今でも時々見返しています。いろんな実習先に行ったので新しい環境にすぐに慣れることができる)	49
	基礎実習・相互実習(歯周検査・SRP、印象採得、口腔内写真撮影、バキュームやライティング)、口腔衛生指導	22
	基礎知識・基礎学力	8
	治療の流れなどの基本的な知識、アシスト業務	8
	歯科衛生課程	4
	患者さんへの対応の仕方	3
	介護のこと(車椅子への乗降の仕方など)	2
	訪問介護での口腔ケアの仕方(臨床で入ったばかりの時にすぐ実践する機会があり大変役立ちました。)	2
基礎的な知識・技能	接遇・電話対応・受付対応、マナー・礼儀、言葉遣い	15
	コミュニケーション能力	2
非認知能力	忍耐力、メンタル面の強さ	2
	積極的に動くこと	2
	周りを見る力	1
その他	すべて	3
	歯科医院でのアルバイト	1
	特になし	3
合計		127

1)複数の内容を含む場合は、分けてカウント

専門学校卒業後3年以内においては、「臨床実習」に関する回答が49名と最も多く、次に「基礎実習・相互実習」が13名であった。その他の回答においては、基礎的な知識・技能や非認知能力に関する回答に分かれた。

【臨床実習先(歯科医院)の勤務者】

カテゴリー	内容	回答数 ¹⁾
学力・専門性	臨床実習 ・やはり実習を通して治療手順や使用器具など授業だけでは頭に入ってこなかったことを理解することが出来たと感じます。	31
	・私は小児歯科、一般歯科、インプラント治療を得意とされている歯科と様々な実習先を経験出来たため、それぞれの患者様への対応の仕方も学べて勉強になりました。	
	基礎実習・相互実習(歯周検査、TEC、印象、SC、口腔内写真などの技術面の実習)、口腔衛生指導	18
	基礎知識 ・歯科に関する基礎知識器具(材)、機材の名称や用途。治療の基本手順	13
	・歯の構造や治療の流れ(準備物)、術式、材料、薬品の理解	
	口腔ケアに対する知識・実習、介護に関する資格取得	
	・介護施設の実習。働いてみると高齢者の割合が多いので、洗口の介助などちょっとした事でも、やっておいて良かったと感じました。	4
	・ホームヘルパーの資格を取得できたので 訪問歯科などの道もひらけた。	
	歯科衛生士としての診療に対する心得	2
	保健指導	2
	小学校で歯磨き指導をして、子供たちと直接ふれあったこと	1
	歯科衛生過程	1
	パソコン パワーポイント	1
基礎的な知識・技能	身支度 頭髪や爪など	1
	患者さんとのコミュニケーションの仕方	7
	言葉遣いや時間厳守、接遇マナー	5

非認知能力	コミュニケーション能力	5
	態度で示すこと	1
	自分の頭で考え実行すること	1
	同僚との協調性	1
その他	在学中に学んだことは、全て必要なことで無駄なことは何一つないので「特に」役立ったことはありません。就職してから、自分に必要となったら、それぞれがまた学び直す&より高見を目指して学ぶこともでてくるかと思いますので、基本的な知識が大切かなと思います。	1
	私が学生の頃は先生方も厳しく、実習中も常に緊張していたように思います。今の学生さんより診療所での実習は少なかったとは思いますが、歯科医院によってやり方や考え方が違うという事はしっかり学べたと思います。その中で、よりやり甲斐を感じる職場を選ぶ事ができました。	1
	アルバイト	1
	かなり前の事で具体的なものが思いつきません	1
	働いてる時の方が学ぶことは多かったです	1
	合計	99

1)複数の内容を含む場合は、分けてカウント

臨床実習先(歯科医院)の勤務者においては、「臨床実習」に関する回答が31名と最も多く、次に「基礎実習・相互実習」が18名であった。その他の回答においては、基礎的な知識・技能や非認知能力に関する回答に分かれた。

4-(2) もっと学習しておきたかったこと

就職する前に、もっと学校で学習・経験しておきたかったと感じることがあれば、ご記入ください。

【専門学校卒業後3年以内】

カテゴリー	内容	回答数 ¹⁾
基礎実習・ 相互実習	SRP、P 処の技術面（超音波スケーラー、研磨の練習、PMTC、エアフロー使用方法）	22
	TEC 作成（既成冠を使っの TEC だけでなく、ダンゴや筆つみでの作り方も含む）	18
	実習でたくさんしましたが、衛生士業務の実技の実習をもっとやりかった	14
	現場で歯科衛生士がすることが多い補綴物の印象や調整	7
	診療補助（印象採得、写真撮影、模型のトリミング、石膏流し）	6
	ハンドスケーラーのシャープニング	5
	保健指導	3
	歯式記入。レントゲン所見の見方。受付業務の歯科点数についてもう少し詳しく。	2
	衛生過程について、今じっくりやることがないので、学生時代にもっと詳しく情報を仕入れる動きをしておけばよかったと思った。	1
	手技より Pt とのコミュニケーションの取り方	1
専門知識	歯牙解剖（歯根形態、乳歯を含む）、外科、咬合	6
	基礎知識	3
	インプラントについて	2
	実際の処置すべき口腔内をもっと見たかった	2
	主要3教科以外は、私がするわけじゃないと思って、真剣に聞けなかったり頭に入ってこなかったけど、アシスタントをする上で、Dr.と同じくらい理解しておかないといけないと実感したので、もっと学生時代に頑張ればよかったと思った。	1
	矯正について	1
	勉強での知識と実践で身につく知識が違うので、実習でもっとアシストにつく機会があれば良かったかなと思います。	1

基礎的な 知識・技能	電話対応、マナー	3
	正しい言葉遣い	2
臨床で求めら れる知識	経営	1
	商品知識	1
	保険のこと	1
高齢者や有病 者への対応法 や注意点	薬や疾患について。他の人より詳しい方だが、もっと詳しく 覚えておけばよかった、と思うことがある	1
	訪問歯科について	1
	体が不自由な人の介助方法	1
その他	先輩方からの就職先に関する意見など（求人票の見方やど ういう基準で歯科医院を選べばいいのか聞いておけばよかつ た）	2
	少し話が変わりますが、学校で清潔不潔について学び、いざ 就職してみると（私が就職したところでは）清潔不潔の区別が すごく曖昧で、慣れないといけないことはわかってるんです が、今でもよく戸惑うことがあります。	1
合計		109

1)複数の内容を含む場合は、分けてカウント

専門学校卒後3年以内においては、「SRP、P 処の技術面」に関する回答が22名と最も多く、次に「TEC 作成」に関する回答が18名であった。その他の回答においては、専門知識や「経営」などの臨床で求められる知識、「薬や疾患について」などの高齢者や有病者への対応法や注意点などに関する回答に分かれた。

【臨床実習先(歯科医院)の勤務者】

カテゴリー	内容	回答数 ¹⁾
基礎実習・ 相互実習	実習、実技	14
	SRP の実践実習、SRP、SC の技術、シャープニング	14
	歯科診療補助(仮封や TEC 作成、石膏の流し方)、基本的なアシスト業務	12
	印象採得、シリコン印象 義歯、口腔内写真	6
	歯科保健指導（歯周病に対する知識、保健指導、実地指導の実践的なこと）	6
専門知識	専門知識はもう少し、しっかりと勉強しておけば良かったと思います。	4
	私は2年制で、歯科医院への実習の時間が少なかったのもう少し経験しておきたかったと感じている。現場で実際に治療を見ることで、より知識が深まると感じたからです。	2
	国試対策だけでは無く、日々の学習をしっかりとすべきだったとおもいます。	1
	実習の際に分からない事をそのままにせず、沢山質問しておくべきだったと思います	1
	昔なので比較対象にはなりません解剖や生理学、細菌の事などそもそも論を学び直す必要はあると思います。	1
	私自身は就職してからしっかりとした教育を受けさせていただいたので、特に学校での学習が足りなかったとは思いますが、今は3年制になっているので、就職してからすぐに役立つような臨床経験をさせてあげてもよいのでは？と思います。	1
非認知能力	コミュニケーション力	7
基礎的な知識・技能	接遇	2
	学力的なことも大切だが、社会人としての心得を学ぶことも大事だと感じます。	2
臨床で求められる知識	パソコン、医療事務	3
	保険、自費について	3
	今臨床で求められる最新の情報を知りたかった。最新の材料や器具を知りたかった	2

	介護、口腔ケア	3
	臨床では様々な疾患をお持ちの患者さんがいるので、注意点等よく学んでいれば良かったです	3
高齢者や有病者への対応法や注意点	口腔外科、歯科矯正(口腔機能)について。	1
	外科治療、訪問診療	1
	摂食嚥下学や栄養学の学習もしっかりしておけばよかった。	1
	高齢者に対する検査	1
	歯科医療の進歩に伴い、学習内容や時間が増えていると思うが、自分が資格を取った時代とは全く違うので今の時代の学習をしておかないと現代では通用しづらいと感じる	1
歯科衛生士像	仕事をするということ・生活するということ・歯科衛生士像をもっと教えて欲しかったです。	2
	いろんな歯科医院の話をききたい。歯科医院についてかなり違いがあるのだと働いてから知ったので。	1
合計		95

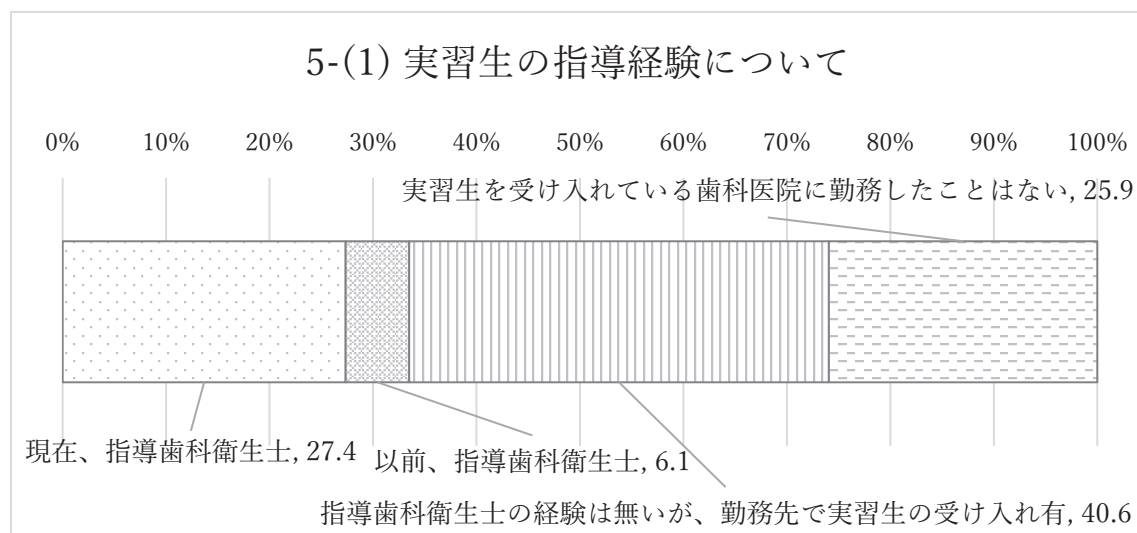
1)複数の内容を含む場合は、分けてカウント

臨床実習先(歯科医院)の勤務者においては、「実習、実技」と「SRP の実践実習、SRP、SC の技術、シャープニング」が並んでそれぞれ 14 名と最も多く、次に「歯科診療補助」に関する回答が 12 名であった。その他の回答においては、専門知識に関する回答や、「パソコン、医療事務」などの臨床で求められる知識、「介護、口腔ケア」などの高齢者や有病者への対応法や注意点などに関する回答に分かれた。

5. 実習生に求めること

5-(1) 実習生の指導経験について

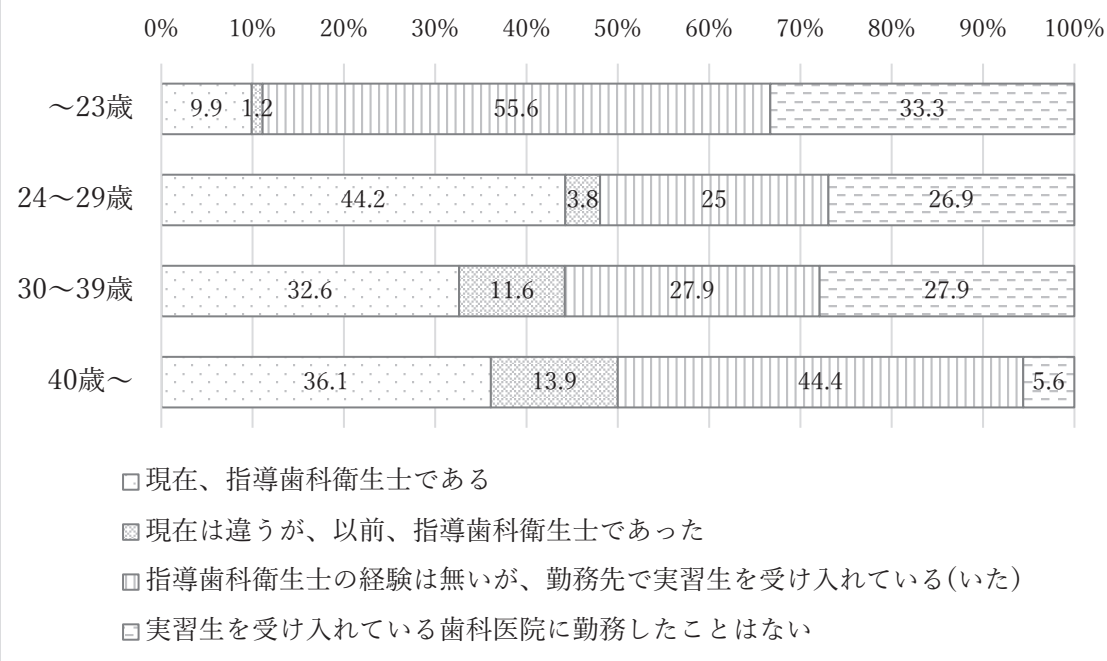
実習生の指導経験について、当てはまるものを1つ選んでください。



	回答数	%
現在、指導歯科衛生士である	58	27.4%
現在は違うが、以前、指導歯科衛生士であった	13	6.1%
指導歯科衛生士の経験は無いが、勤務先で実習生を受け入れている(いた)	86	40.6%
実習生を受け入れている歯科医院に勤務したことはない	55	25.9%
合計	212	

実習生の指導経験について、「指導歯科衛生士の経験は無いが、勤務先で実習生を受け入れている(いた)」が40.6%と最も多く、次に「現在、指導歯科衛生士である」が27.4%であった。

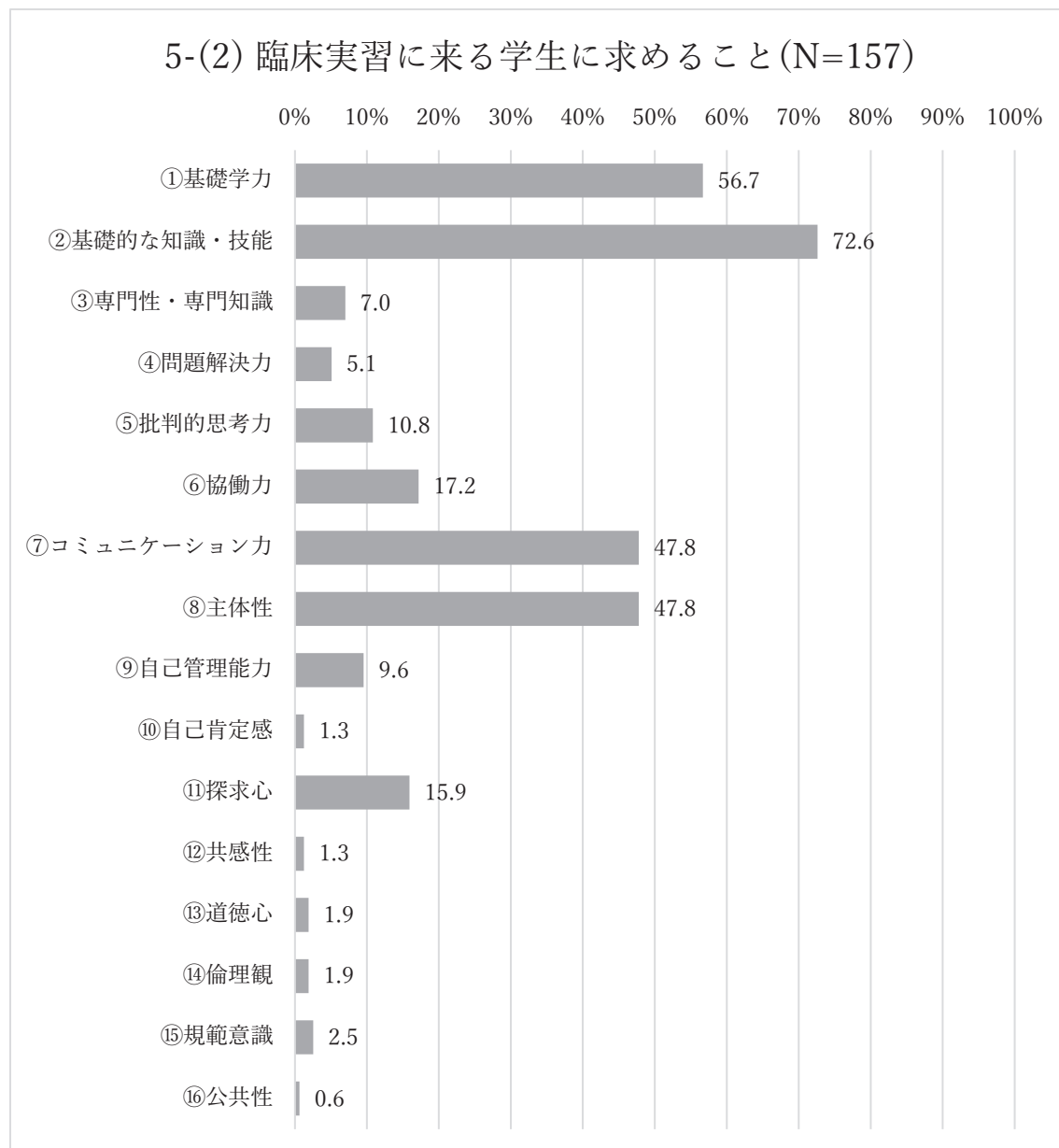
5-(1) 実習生の指導経験について(年齢別)



本校では、指導歯科衛生士を実習先ごとに1名依頼している。年齢層別にみると、～23歳と40歳～では「指導歯科衛生士の経験は無いが、勤務先で実習生を受け入れている(いた)」が最も多く、24～29歳、30～39歳では「現在、指導歯科衛生士である」が最も多かった。

5-(2) 臨床実習に来る学生に求めること

5-(1)で「現在、歯科衛生士である」「現在は違うが、以前、指導歯科衛生士であった」「指導歯科衛生士の経験は無いが、勤務先で実習生を受け入れている(いた)」と回答された方にお伺いします。臨床実習に来る学生に特に求めることは何ですか。当てはまるものを3つ選んで下さい。



	回答数	%*
①基礎学力(日本語能力、正しい言葉遣いを含む)	89	56.7%
②基礎的な知識・技能(挨拶や時間厳守を含む)	114	72.6%
③専門性・専門知識	11	7.0%
④問題解決力(論理に沿って考える力を含む)	8	5.1%
⑤批判的思考力(先入観にとらわれずに、様々な視点から考えることができる力)	17	10.8%
⑥協働力	27	17.2%
⑦コミュニケーション力	75	47.8%
⑧主体性(意欲、自発性)	75	47.8%
⑨自己管理能力(規則正しい生活習慣を含む)	15	9.6%
⑩自己肯定感	2	1.3%
⑪探求心	25	15.9%
⑫共感性	2	1.3%
⑬道徳心	3	1.9%
⑭倫理観	3	1.9%
⑮規範意識	4	2.5%
⑯公共性	1	0.6%
合計	471	

*：回答者数(157人)を100%として選択肢ごとに計算

臨床実習に来る学生に求めることについては、「②基礎的な知識・技能」が72.6%と最も多く、次に「①基礎学力」が56.7%であった。「⑦コミュニケーション力」「⑧主体性」もそれぞれ47.8%と比較的多かった。

5-(3) 学生に求めることの理由

5-(2)で選んだものについて、それを選んだ理由をご記入ください(任意)。

選択した項目			理由
①基礎学力	②基礎的な 知識・技能	⑤批判的 思考力	・患者様と話すのが主になるから ・社会人として時間や挨拶は必要だと思うから。 ・基礎学力や知識がないと治療内容が分からず実習の意味が無くなってしまうのと患者さんとも接するのでコミュニケーション能力は必要と思うからです。 ・専門知識や学力については人それぞれ差があるもので、技術面も学力面も本人の頑張り次第で伸びしろはあると思う。が、人として、実習生としての最低限のことができてからそこが評価されるのであって、できてないが知識だけあってもいい印象はない。
	②基礎的な 知識・技能	⑦コミュニ ケーション 力	・知識や技術よりも、素直に学ぶ姿勢が大事 ・基礎は臨床に臨む前に身に付けておくべきと考えるから。 ・基本的な事として持っていて欲しいと思ったため ・患者さんに指導したり説明するのに必要なことだから ・人と沢山関わる仕事でもあるのでコミュニケーション力や、挨拶などが大事だと感じます。 ・実習とはいえ、患者さんに対応するので、基本として言葉使いや挨拶は大切だと思います。また患者さんのみならず、スタッフとのコミュニケーションをとることも重要と考えます。

①基礎学力	②基礎的な知識・技能	⑧主体性	・ 社会に出て必要な事だから ・ 実習に臨むにあたり、最低限必要な事柄だと考えるから ・ 専門知識はなくても実習を通して学んでいけばいいから ・ 基礎的な知識と実習への意欲がある方を受け入れたいと思うから。 ・ 基礎学力と基礎的な知識・技能は社会人として最低限備わっていないといけない物だと思います。意欲自発性がないと、実習先で何も学ぶ事は出来ないと思います。 ・ 実習では、専門知識も大事だが、社会人としてどうあるべきかを学んで欲しい(言葉遣いや時間厳守等)。 ・ 社会人としての基本的なマナー挨拶や時間厳守などは身につけておいた方が良いと思う。 ・ 働く上で将来の自分を想像しながら現場を体験することでよりリアルに感じる事ができる場所なので挨拶や受け答えは自分からしてほしい。分からない事が多いと思ってこちらも対応してるので色々聞くことを積極的にしてほしい。
①基礎学力	②基礎的な知識・技能	⑨自己管理能力	・ まだ経験が浅いため、専門的なものは求めません。知らない所に1人で行くため緊張してると思うので、コミュニケーションも求めません。ですが、挨拶、言葉遣い、時間厳守、自己管理はできていて良い年齢と考えるため、この3項目を選択しました。 ・ 社会人になるという基本的なことも教育してください

①基礎学力	②基礎的な知識・技能	⑪探求心	・実践的な事は、勤務し始めてからいくらでも技術力向上できる為 ・正しい言葉遣いや挨拶、時間を守るというのは、学生、社会人に関係ない最低限のマナーだと思う。探求心を持って、歯科衛生士や歯科医師に質問するのは実習の場において大切な事だと思う。自分がしたことへのフィードバックも含めて、自身が成長できる機会を大切にしてほしい。 ・基礎学力知識技能があればスタッフ、患者さんとコミュニケーションも取れると思うから探求心があれば自分から行動できると思うのと考える力が備わると思うから
①基礎学力	⑤批判的思考力	⑧主体性	・患者さんとの会話もするので、言葉遣いなどは、丁寧すぎなくてもいいけど、変に思われるような対応は歯科医院全体が不審に感じそうだから。
①基礎学力	⑥協働力	⑧主体性	・社会人としての心構えと率先してやるという気持ちと教えられる側態度など重要だと思ったため。「教えてもらうことが当たり前」だと思っている子が多いです。 ・患者さんやスタッフ間の信頼関係を生むためには言葉遣いや話し方のトーン、抑揚などを気をつけるべき。協働力…チームワークは大切。主体性…学ぶ姿勢を持ってほしい。
①基礎学力	⑦コミュニケーション力	⑪探求心	・興味のない態度の子にはあたりにくいから

①基礎学力	⑦コミュニケーション力	⑫共感性	・挨拶は小学生でもできます。それが出来ない実習生が多く、指摘すれば「苦手で…」と言い訳をします。医療従事者として患者さんとコミュニケーションが取れないのは致命的だと思います。分からない事を話しかけるのが苦手だからなのか、指導歯科衛生士又は先輩歯科衛生士に聞かず勝手に行動し患者さんの個人情報を扱おうとした生徒さんもいらっしゃいます。患者さんとの間だけでなく、スタッフ間でもできないとなると連携も取れず大きな損害を招きます。共感性もですが痛いと訴えている患者さんに「そうですか」で済みません。全ての実習生に「自分が患者だった場合、どのような対応をされたら安心できるかを考えて行動して下さい」と伝えてますが…。まず、医療従事者として必要な基本部分が足りてないと強く感じましたので選択しました。
①基礎学力	⑧主体性	⑪探求心	・働くにあたって、やる気があるのとないのとは大きく違うと思うからです。 ・疑問や、興味を持たないと成長しないから
①基礎学力	⑨自己管理能力	⑪探求心	・自己管理能力は仕事をしていく上で必要かと思います。
①基礎学力	⑪探求心	⑭倫理観	・最近、日本語が乱れているような気がする
②基礎的な知識・技能	③専門性・専門知識	⑦コミュニケーション力	・患者と話すことが多いから
②基礎的な知識・技能	④問題解決力	⑥協働力	・言葉遣いや勉強が出来ても、チームで働くうえでは、協力し合う、報告し合う等が大切だとおもいます。
②基礎的な知識・技能	④問題解決力	⑧主体性	・強制的ではなく主体的に考えて行動できた方が、有意義な実習時間を過ごせると考えるため。
②基礎的な知識・技能	⑤批判的思考力	⑧主体性	・自発性や基本的な挨拶などができる人の方が、医院の準備物やアシストの覚えもはやかったから。 ・受診を不安に思う患者様も多いと思います。患者様の立場なり明るい挨拶や対応がかなり重要だと思います。積み重ねた経験が今後の歯科衛生士人生の役にたつので積極的に行動することは重要です。
②基礎的な知識・技能	⑥協働力	⑧主体性	・前回の実習生がつっ立ってることが多かったから

②基礎的な知識・技能	⑦コミュニケーション力	⑧主体性	・学力面で少し、できなくても、意欲的な姿勢や人としてのマナーができていれば、教えてあげたいと思うから。 ・その後の社会人生活で必要不可欠だと思う。教えられてるだけより自ら学びに行くという意欲を湧かせるのとより良いと思うので。 ・コミュニケーションがとりやすく積極性があるほうが指導しやすい ・選んだ項目がある学生さんは、実習中の成長が見られることが多いから。 ・専門的な知識や技術は後々、経験とともに培われて行くと思いますので、実習先の患者様をはじめ院長、スタッフ間との挨拶やコミュニケーションをしっかりとつてくれ意欲的に行動してくださる子とお仕事したいと感じますので。
②基礎的な知識・技能	⑦コミュニケーション力	⑨自己管理能力	・基本的なことだと思うので ・時間厳守は当たり前に出なければならないことで、コミュニケーション力はこれから社会に出るにあたり色々な人と関わっていかなければならないため。自己管理が怠ると仕事に影響が出るため体調管理も難しいですが必要だと思います。
②基礎的な知識・技能	⑧主体性	⑪探求心	・ある程度の知識は必要だが、間違えてもいいので積極的に行動できる生徒の方が指導したいと思います。 ・まずきちんと挨拶できる事は、学生のみならず社会では一番基本になる事だと思います。受け入れる立場としても、挨拶ができない学生を見るとがっかりします。実習中は何でもできないのが当たり前ですので、知識よりやる気が見られる方が好印象です。
②基礎的な知識・技能	⑪探求心	⑬道徳心	・知識的なことを学ぶのも大切ですが、実習先できちんとした態度、姿勢で望んでもらいたいのです。
③専門性・専門知識	⑥協働能力	⑦コミュニケーション力	・実際に患者さんとコミュニケーションをとることは臨床でしか経験出来ないから
③専門性・専門知識	⑦コミュニケーション力	⑧主体性	・こちらから声をかけて動く子が多いような気がするため

⑤批判的 思考力	⑦コミュニ ケーション 力	⑧主体性	・ 矯正は難しい、わからないという先入観はもたずに、興味をもってほしい為
⑤批判的 思考力	⑦コミュニ ケーション 力	⑪探求心	・ 国家試験対策にない物を臨床では学んでほしいので。
⑥協働力	⑦コミュニ ケーション 力	⑧主体性	・ 技術は後からついてくるが、やる気などは中々身に付くものではなく、その人自身がもっているものだから。
⑥協働力	⑦コミュニ ケーション 力	⑨自己管理 能力	・ 知識や技術は衛生士として働き出してから必要になるので、実習の時点ではそこまで重要ではないかもしれないけれど、患者さんやスタッフなどの人間関係においての実習先でのコミュニケーションは取れた方が良いと思います。
⑦コミュニ ケーション 力	⑧主体性	⑨自己管理 能力	・ わからないことがあったら聞くコミュニケーションがあったほうがいい。

6. ご意見、ご要望

本校や本事業へのご意見、ご要望などございましたらご記入ください(任意)。

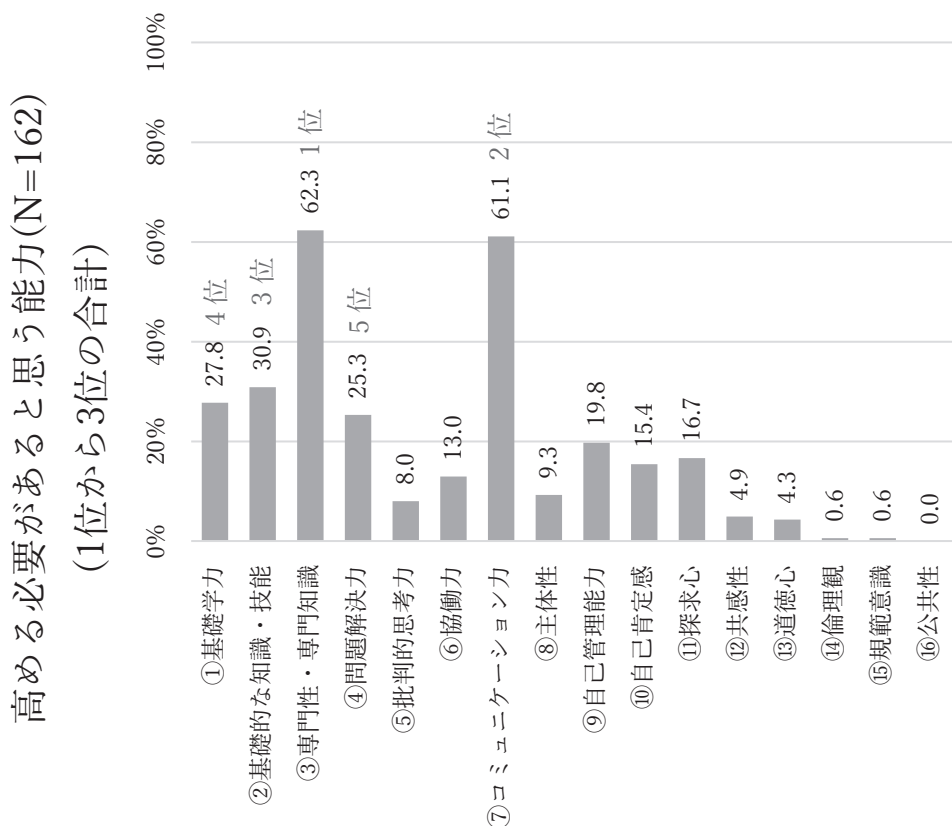
- ・このアンケートが、今後歯科衛生士を目指す学生さんの何かの役に立てばと思います。
- ・知識や技術は当然ですが、礼節を持って患者さんやスタッフと接することができる人材育成をよろしくお願いします。
- ・最近の学生さんは、個人の問題かもしれませんが、基本的な挨拶や実習態度の違いがかなり感じられます。
- ・今まで実習生がたくさん来られましたが、特に今年思うことがありました。それは、実習生のみならず、新卒の衛生士にも言えることです。
- ・実習先で注意されたことが、全く反映されておらず、実習後の学生の態度が改められていない。せっかく実習を受け入れていて、歯科衛生士としての心得などを学んで欲しいと指導に取り組んでいる医院としては、とても残念に思います。
- ・コロナ禍ではありますが、実習中に先生がそこでの態度、様子を見に来ることをされたほうがいいのかと思います。
- ・色々な学生さんがいるかと思いますので、その人に合った指導、そして個人に合った就職先を選ぶよう学校側も指導していただきたいです。
- ・はじめて教育実習生を受け持つため、実習生の方がどれだけの知識などがあるか分からないため今回楽しみにしています
- ・試問などは何をだせばいいのか指導衛生士に共通で通達してほしいです。日々の診療で時間を割くことが難しいなか実習生対応をしています。何か事前に試問して欲しいことを通達してくると有り難いです。また、事前にくばられる実習生対応冊子ももう少し簡略化していただけると助かります。目を通す時間がかかります。宜しく願いいたします。
- ・実習生がとても礼儀正しく積極的に取り組んでくれてこちらが助かりました
- ・卒業生ですから色々な医療現場に行ける DH を育てて下さい。4大に負けないように。
- ・医院に勤めるということは拘束時間も長くなるし、働き始めてから学ばなければならないことがたくさんあります。当たり前のことですが、学生はそれを自覚してほしいです。
- ・とても素晴らしい取り組みだと思います！
- ・この学校をでて本当に良かったです。助けて頂いた先生方にとっても感謝しています。
- ・関わった全ての方に感謝しております！
- ・たくさんの経験や知識を学ばせて頂きました、ありがとうございます。
- ・学校も先生もすきだったので、試験前の勉強以外で苦なことはあまりありませんでした。福岡歯科衛生専門学校で良かったです！ありがとうございました。
- ・先生方、お元気ですか？近々会いに行きます

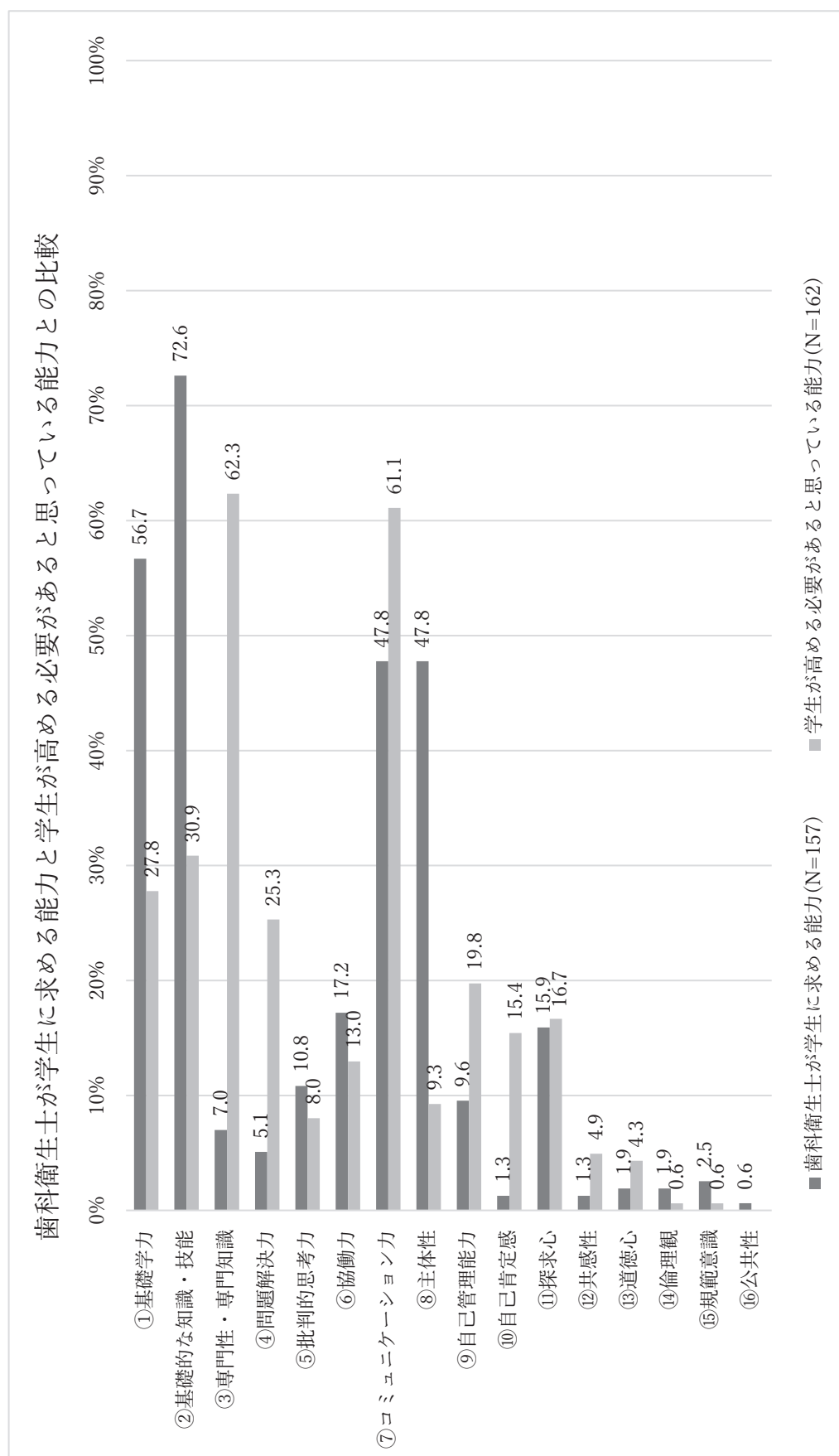
3.5 3.3 福岡歯科衛生専門学校在校生アンケート調査と 3.4 卒業生・

臨床実習指導歯科衛生士アンケート調査との比較[p34~35]

学生が高める必要があると認識している能力は、多い順に、③専門性・専門知識 62.3%、⑦コミュニケーション力 61.1%、②基礎的な知識・技能 30.9%、①基礎学力 27.8%であった。これに対して歯科衛生士が臨床実習に来る学生に求める能力は、②基礎的な知識・技能 72.6%、①基礎学力 56.7%、⑦コミュニケーション力 47.8%、⑧主体性 47.8%であった。

①基礎学力、②基礎的な知識・技能、⑦コミュニケーション力は学生と歯科衛生士の認識とが概ね一致しているといえる。③専門性・専門知識は、歯科衛生士が学生に求めているわけではなく、実習生には先に②基礎的な知識・技能を求めているためであり、学生が必要性を認識しているように、十分に学習・習得する必要がある。⑧主体性は歯科衛生士では3位にあがっているが、学生にとっては必要性の認識、自信ともに平均値よりも低く、あまり意識されておらず、指導者側と指導を受ける側での意識に隔たりがあった。したがって、主体性は、臨床実習に行く前に高めておくべき項目として、教育プログラムに取り入れ、高める必要があると考えられる。





3.6 今後開発する教育プログラムへの応用について

令和3年度に実施した事例調査、専門学校生(在校生)、歯科衛生士を対象としたアンケート調査によって得られた情報は、本事業で今後開発する教育プログラムに対し、以下のように応用可能と考える。

3.6.1 高校生を対象とした教育プログラムへの応用

事例調査では、高等学校における歯科保健教育の取り組みについて教育委員会や地方自治体が指導例として示したプログラムがあり、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」といった高等学校教育における単元目標の設定内容や指導に当たっての注意事項、授業計画・板書計画まで示されている。本事業で開発する歯科保健教育プログラムにおいても、これらを参考に、同様の項目をテキストやコンテンツとあわせて検討する必要がある。

在校生アンケートの結果は、高校生にとって身近な先輩である専門学校生から得た意見であり、高等学校でのプログラム開発に生かすことができる。例えば、「高校までの学習内容のうち、専門学校での講義・実習で特に役立ったこと」で、「生物」や「化学」に加え、「数学」「英語」「国語」も役に立ったとの回答は、在学生の実際の生の意見であり、回答結果をそのまま高校生に伝えることで高等学校での学習意欲向上につながると考えられる。また、「専門学校へ進学する前に習得しておきたかったこと」の回答割合が高かった「基礎学力」「学習習慣」「規則正しい生活習慣」「基礎的な知識・技能(社会情勢や法律、IT 応用、マナーを含む)」は、専門学校入学前に高めておきたい内容である。加えて、「自己の能力に対する自信」の回答結果から「自己肯定感」が低い在学生がいるが、自己肯定感も幼少期から高めることが可能であり、高等学校においても向上を目的とした教育をプログラムに入れることが必要であると考えられる。

3.6.2 専門学校生(在校生)を対象とした教育プログラムへの応用

専門学校生を対象としたアンケート調査において、自身が「高める必要があると認識している能力」でも特に、「基礎学力」「基礎的な知識・技能」「専門性・専門知識」「コミュニケーション力」「問題解決力」は高い割合で認識しており、これまで以上に専門学校において高める必要が示唆された。

3.2 非認知能力育成プログラム事例調査において、1-05.Edv Future 株式会社の生きる力を育む非認知能力成長支援サービス EdvPath の利用により、高等学校と専門学校、短大においてそのプログラムを利用し、非認知能力向上の効果があったとの報告が紹介されていた¹⁾。そのプログラム開発会社の協力を得ながら、高める必要性が示唆された「コミュニケーション力」「問題解決力」「自己肯定感」を中心として改善できる新しい非認知能力育成プログラムを開発し、歯科衛生士学生に利用できる可能性がある。

歯科衛生士を対象としたアンケート調査において、「働く上で特に役立ったこと」や「も

っと学習しておきたかったこと」の回答内容は、身近な先輩たちの意見であり、自由記載で回答を依頼した結果として、様々な具体例がみられ、各科目の学習内容が臨床現場においていかに必要になるかを示している。学生には、これを専門学校入学後の早い段階で知らせることで、学習に対するモチベーションの向上に効果的であると考えられる。歯科衛生士が「在校生が高める必要がある」と認識している能力では、「基礎的な知識・技能」「基礎学力」「コミュニケーション力」「主体性」の回答割合が高かった。「主体性」においては、必要性を認識している在校生は少なく、歯科衛生士との認識の隔たりが認められた。したがって、在校生には、まず歯科衛生士が在校生に「主体性」を求めていることを認識させ、改善する必要がある。

これらの能力を改善するためには特定の科目によらず、全ての講義・実習・ホームルーム等を通じて、専門学校において向上すべき項目として示し、具体的な到達目標(一般目標・行動目標)を定める必要があると考えられる。到達目標は、臨床実習先と共通の理解のもとで、実習開始前と卒業前等の段階に分けて設定し、その達成に必要な内容をプログラムに組み込む必要がある。

参考文献)

1) Edv Future 株式会社, <https://lp.edvpath.jp/>

3.6.3 歯科衛生士を対象とした教育プログラムへの応用

本事業で開発する教育プログラムは、卒後の早期離職者の減少も目標の一つとしている。歯科衛生士を対象とした調査から示されたことは、「自身の知識やスキルに対する問題点や課題」「問題点や課題の具体的内容」「教育研修の受講経験」「研修を受講した際の目的」でみられたように、回答した歯科衛生士の多くが、卒後も学び続けることの必要性を感じているという現状であり、卒後教育をより受けやすい環境を作ることが離職の減少につながる可能性がある。また、卒後 3 年以内の歯科衛生士は学校で学習したが習得しきれなかった範囲を「もっと学習しておきたかったこと」として具体的にあげた者が一定割合いることから、卒後に求められるレベルを明らかにし、カリキュラムに生かすことが必要と考えられる。

令和３年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証

With コロナ / 人生 100 年新時代における歯科衛生士養成専門
学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証事業

発行日 令和４年３月

作 成 一般社団法人福岡県歯科医師会 福岡歯科衛生専門学校